

令和5年度 交流及び共同学習実施報告書



山梨県教育委員会

令和5年度 交流及び共同学習 実施報告書

目 次

【県立】

○盲学校	1
○ろう学校	12
○甲府支援学校	27
○あけぼの支援学校	35
○わかば支援学校	45
○わかば支援学校ふじかわ分校	63
○やまびこ支援学校	72
○富士見支援学校	79
○富士見支援学校旭分校	80
○ふじざくら支援学校	81
○かえで支援学校	91
○高等支援学校桃花台学園	103
○特別支援学校うぐいすの杜学園	111

【国立大学法人】

○山梨大学教育学部附属特別支援学校	113
-------------------	-----

※ 各支援学校の「教科等区分」の表記については、次のものを示しています。

- ・自立：自立活動
- ・特活：特別活動
- ・総合：総合的な学習（探究）の時間
- ・生単：生活単元学習
- ・遊び：遊びの指導
- ・職家：職業・家庭
- ・保体：保健体育
- ・作業：作業学習

I 学校概要

1 学校の概要

学校名	山梨県立盲学校
所在地	〒400-0064 甲府市下飯田2丁目10-2
電話番号	055-226-3361
校長名	白倉 明美
交流及び共同学習主任名	小林 えみ

2 学校教育目標

自己実現・社会的自立ができる力を養い、健康で心豊かな人間を育成する。

II 交流及び共同学習推進会議の経過

1 交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所 属・職 名	備 考
1	池田地区自治会連合会 会長、池田地区自治会 会長	会長
2	池田地区社会福祉協議会 会長	
3	池田地区シニアクラブ連合会 会長	
4	池田地区ボランティア推進会 会長	
5	山梨ライトハウス青い鳥成人寮 施設長	
6	甲府西幼稚園 園長	
7	甲府市立池田小学校 校長	副会長
8	甲府市立西中学校 校長	
9	山梨県立甲府西高等学校 校長	
10	山梨県立甲府城西高等学校 校長	
11	山梨県立盲学校 P T A会長	
12	山梨県立盲学校 校長	
13	山梨県立盲学校 教頭	
14	山梨県立盲学校 事務長	

2 経過

開催月日	内 容
5月16日(火)	令和4年度の様子、令和5年度交流及び共同学習の計画、意見交換
1月31日(水)	令和5年度交流及び共同学習の実践報告、来年度に向けての課題の検討

III 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

1 目 的

- 幼児児童生徒の生活経験を広げ、社会性・協調性を育てる。
- 相互の理解を深め、社会で共に生きて行くという意識を高める。
- 視覚障害教育に対する理解と啓発を促す。

【各学部の目的】

(1) 幼稚部

- ①自由あそびや集団での活動を通して、生活経験を広める。
- ②継続した交流活動の中で、友だちとふれあう楽しさを味わわせる。
- ③同年齢の集団における活動の中で、雰囲気を感じたり、自分の気持ちを表現したりできるようにする。

(2) 小学部

- ① 休み時間や給食・教科交流・学校行事などの交流及び共同学習を通して、生活経験を広め、集団のルール等の社会性を育てる。
- ② 継続した交流活動の中で、友だちとふれあう楽しさを味わわせながら、より良い関わりを育てる。
- ③ 同年齢の集団における活動を通して、自分の感情や意思を表現したり、もてる力を発揮したりする中で、お互いの関係を深めさせる。

(3) 中学部

- ① 学校行事・課外活動などを通して、生活経験を豊かにし、相手を思いやる心や協力する態度を育てる。
- ② 共に活動することを通して相互の理解を深め、自らの障害を受容し主体的に行動しようとする意欲を高める。
- ③ 様々な人たちとの関わりを通して、視覚障害について多くの人への啓発を促す。

(4) 高等部

- ① 学校行事・生徒会活動・治療奉仕活動を中心に、社会経験を広め、積極的に社会に参加しようとする態度を育てる。
- ② 共に活動することを通して相互の理解を深め、自らの障害を受容し、生きる力を付けようとする意欲を高める。
- ③ 様々な人たちとの関わりを通して、視覚障害について多くの人への啓発を促す。

(5) 他県の盲学校との交流（オンラインでの交流）

盲学校の在籍人数は、インクルーシブ教育体制の推進により、全国的に減少傾向にあり、特に準ずる教育課程で学ぶ単一障害児童生徒は、学級に1名という盲学校も少なくない。全国盲学校長会では、今年度から各校の実態により、県を超えた盲学校同士でのオンラインによる交流教育及び共同学習を本格的に実施しているところである。同じ視覚障害のある同じ学年の交流授業を通して、意見交換と学びを深め、視覚障害のある友達と出会い、共に励みにできるよう、今後も効果的に行っていきたい。

2 提携校

学部	交流及び共同学習提携校
幼稚部	甲府西幼稚園
小学部	甲府市立池田小学校 沖縄県立沖縄盲学校（オンライン） 筑波大学附属視覚特別支援学校（オンライン） 千葉県立千葉盲学校（オンライン） 栃木県立盲学校（オンライン） 長野県長野盲学校（オンライン） 東京都立久我山青光学園（オンライン）
中学部	甲府市立西中学校
高等部（本科普通科）	県立甲府城西高等学校 県立甲府西高等学校 東京都立八王子盲学校（オンライン） 福井県立盲学校（オンライン）

3 実施状況

学部	月日	提携校	実施学年	教科等区分	実施内容
幼	通年	甲府西幼稚園	今年度 対象なし	体験あそび	自由遊び、おあつまり活動
	11月8日		3・4・ 5歳児		盲学校交流体験会

小	1・2学期	甲府市立 池田小学校	全学年	教科 特別活動	教科学習（音楽、図工、道徳）体育：運動会練習等）	
	9月30日				特別活動（クラブ活動） 池田小運動会	
	通年				自己紹介カード交換 お礼状作成	
	通年	沖縄県立 沖縄盲学校	1・3・ 6年	教科 総合	教科学習（国語、道徳） 総合（オンラインで実施）	
	2学期	東京都立久我 山青光学園	1年	国語	自己紹介、質問にこたえる 手紙のやり取り 好きなものについて等 （オンラインで実施）	
				国語	自己紹介、メッセージのやり 取り、好きなもの（こと） についての紹介等 （オンラインで実施）	
		長野県 長野盲学校	3年	特別活動	自己紹介、質問にこたえる 手紙のやり取り 好きなものについて話す 等（オンラインで実施）	
		沖縄盲学校 筑波大学附属 視覚特別支援 学校 千葉盲学校	6年	道徳	防災について 豊かな人間関係、よりよい 友達関係をつくるには 意見交換等 （オンラインで実施）	
	中	2学期	甲府市立 西中学校	2年	特別活動	本校学園祭での作品展示
		10月19日 11月2日		2年	特別活動	合唱祭参観 （練習及び本番）
高	7月12日	県立甲府城西 高等学校	全学年	特別活動	インターアクト部との 交流	
	10月31日		1年	特別活動	授業見学	
	2学期		全学年	特別活動	本校学園祭での作品展示	
	12月8日		（甲府城 西高校生 が実施）	総合的な探 究の時間	盲学校体験	
	2学期	県立甲府西 高等学校	全学年	特別活動	本校学園祭での作品展示	

高	2・3学期	東京都立 八王子盲学校	1・2年	総合的な探 究の時間	総合的な探究の時間での 交流（オンラインで実施）
	2・3学期	福井県立 盲学校	1年	総合的な探 究の時間	総合的な探究の時間での 交流（オンラインで実施）
全	10月14日	県立甲府西高 等学校	全学年	特別活動	本校学園祭での箏曲部 演奏

4 学校間交流の様子

(1) 幼稚部

今年度の幼稚部には4歳児2名、5歳児3名の合計5名が在籍している。例年は甲府西幼稚園と週1回程度、定期的に交流を行う幼児がいるが、今年度は幼児の実態から実施はなかった。

11月の交流体験会は、本校職員が講師となり、甲府西幼稚園の幼児が年齢に応じて段階的に視覚障害について体験する機会として毎年実施している。今年度も感染予防対策として盲学校と甲府西幼稚園に会場を分けて実施した。年少組はアイマスク体験、年中組は白杖歩行、年長組は点字体験を行った。甲府西幼稚園の先生方にも協力していただき、園児に視覚障害について知ってもらう良い機会となった。



「白杖歩行体験」



「点字体験」

(2) 小学部

今年度の小学部には1学年2名、2学年3名、3学年2名、4学年1名、5学年2名、6学年1名の計11名が在籍している。全員が池田小学校（以下「池田小」と記載）と交流及び共同学習を行った。感染症予防対策をしながら、池田小の運動会への参加、自己紹介カードや作品等の交換を実施した。学年により教科等の交流も行った。

また、1年生1名、3年生、6年生は県外の盲学校の同学年児童と、オンラインで交流及び共同学習を行った。

①池田小学校との交流

年度のはじめに、写真やメッセージを書いた自己紹介カード等を交換した。互いの様子を知ったり交流への期待感を高めたりすることができた。

毎年、池田小の運動会には、個々の実態に合わせて参加種目や方法、合理的配慮等を検討し、練習及び運動会当日に参加している。練習期間はほぼ毎日池田小に通って練習を積み重ね、当日はリレーやダンスなどの表現活動、玉入れなどの競技で練習の成果を発揮することができた。練習や運動会の際には、互いにあいさつしたり声をかけ合ったりするなど、児童同士の交流が見られた。

六星祭(本校学園祭)では、池田小の児童が授業で制作した絵画や習字などを展示している。また、池田小では本校の児童が作った作品を展示する機会を設け、多くの児

童や保護者の方々に作品を見てもらっている。視覚障害のある児童が授業の中でどのような材料や手法で、何を作っているのかを知ってもらう良い機会となっている。

②他県の盲学校との交流（オンラインでの交流）

今年度も、沖縄県立沖縄盲学校（以下「沖縄盲」と記載）と、小学部1年生、3年生、6年生が教科学習や道徳等においてオンライン交流及び共同学習を行った。お互いの住んでいる県や学校について紹介しあったり、意見交換を行ったりすることができた。

また、今年度は新たに、筑波大学附属視覚特別支援学校（以下「筑波」と記載）、千葉県立千葉盲学校（以下「千葉盲」と記載）、栃木県立盲学校（以下「栃木盲」と記載）、長野県長野盲学校（以下「長野盲」と記載）、東京都立久我山青光学園（以下「久我山」と記載）小学部の児童とオンラインにて、交流及び共同学習を行った。1年生は栃木盲や久我山と、自己紹介や質問のやり取り等を行った。3年生は、長野盲と自己紹介や好きなもの等についての紹介、手紙のやり取り等を行った。6年生は、沖縄盲、筑波、千葉盲と4校同時の遠隔合同授業に取り組み、防災についての学習や豊かな人間関係をつくるために大切なのはどのようなことか等について、意見交換を行いながら、学習を深めることができた。学校間で学習進捗の確認や指導案の検討を繰り返すことにより、充実した時間となった。



「運動会参加」



「交流展示」



「沖縄盲とのオンライン交流」

(3) 中学部

今年度は2学年2名が甲府市立西中学校（以下「西中」と記載）と交流し、作品展示と合唱祭の参観を行った。

作品展示では、西中の学園祭で本校生徒の美術作品を展示してもらい、多くの来場者に作品を見学していただいた。また西中の作品を本校学園祭で展示した。「つながる模様」というタイトルの作品で、仲間と協力し合い作り上げたことがイメージできるものであった。

今年度は合唱祭の参観の前に合唱練習を見学し、西中へ直接足を運んだことで、お互いの顔が見える交流を久しぶりに行うことができた。同年代の仲間が一生懸命練習に取り組む姿を肌で感じたことにより、合唱祭本番ではより充実した時間を過ごすことができた。

(4) 高等部

①甲府城西高等学校との交流（以下「甲府城西高」と記載）との交流

・インターアクト部との交流

1年生3名、2年生1名、3年生2名が甲府城西高を訪問し、インターアクト部の生徒と交流をした。シミュレーションレンズを用いた弱視体験やボウリングを通してお互いに積極的にコミュニケーションを取り合う姿が見られ、お互いの関わりを深める機会となった。

・授業見学

1年生2名が、甲府城西高3年生の現代文と英語会話の授業を見学した。特に現代文の授業では、他者と協働して学び合うことで、大学進学を目指す生徒がどのような力を身に付ける必要があるのかを知る良い機会となった。



・盲学校体験会

甲府城西高1年生30名が、総合的な探究の時間で共生社会について学習する一環として本校を訪問した。校内見学及び点字や視覚障害スポーツの体験を通して、本校生徒の生活や学習について学ぶ機会となった。

②甲府西高等学校との交流（以下「甲府西高」と記載）との交流

・本校学園祭での交流演奏会

新型コロナウイルス感染症の位置づけが変わり、本校学園祭も4年ぶりに終日開催することができた。昨年度に引き続き、箏曲部に出演を依頼して交流演奏会を行った。伝統的な曲から最近の話題曲まで幅広い楽曲を披露していただいた。本校児童生徒は美しい琴の音色に聞き入る様子が見られた。



③作品展示

本校学園祭「六星祭」に甲府城西高から絵画4点、甲府西高から書道条幅8点の作品の出展をしていただき、展示を行った。スペースに限りがあるため、作品数を絞ったの展示であったが、迫力のある素晴らしい作品が鑑賞できた。



「甲府西高書道作品」



「甲府城西高絵画作品」



④他県の盲学校との交流（オンラインでの交流）

今年度新たに、県外の盲学校2校高等部と交流を行った。視覚障害のある同年代の仲間との交流を通して、自分の生活や学習を見つめ直す、良い機会となった。

東京都立八王子盲学校（以下「八王子盲」と記載）との交流は、1年生3名、2年生1名が総合的な探究の時間で実施した。12月は自己紹介と質疑応答を行い、2月に行う合同学習発表会に向けて準備した。

福井県立盲学校（以下「福井盲」と記載）との交流は、1年生2名が総合的な探究の時間で行った。学校行事の紹介を通してお互いの学校生活について知ったり、合同進路学習会で両校の理療関係学科の先生方から進路選択や社会的自立に関する話を聞いたりすることで、自分たちの学習や将来のことなどを考える良い機会となった。

5 成果と課題

(1) 幼稚部

今年度は定期的な交流を行う幼児はいなかったが、盲学校交流体験会の実施や甲府西幼稚園の行事で本校幼児の作品を展示していただくことができた。また、例年通り盲学校の運動場を使い、甲府西幼稚園の運動会が開催されるといったつながりをもつことができています。次年度も定期的な交流を行う予定の幼児はいませんが、作品交流や体験会を通して本校幼稚部や視覚障害について関心をもってもらう機会を作り、実際に交流を行うようになったときにスムーズに進められるようにしたい。

(2) 小学部

①池田小学校との交流

学校や学級の様子を紹介する掲示物を交換するなど、工夫してお互いの様子を知ることができた。教科学習やクラブ活動などでの交流、また修学旅行報告会など学習に参加することができた。

池田小の運動会では、感染症予防対策をしながら練習から参加し、本番では練習の成

果を發揮することができた。交流活動を通して、同年齢の友達と一緒に行事を成し遂げたり、友だちと触れ合う楽しさを味わったりすることは、児童にとって大きな成長につながっている。

池田小4年生の交流体験会は、昨年度と同様、感染症予防対策のため、本校から職員3名が池田小を訪問し、福祉講話という形で体験会を行った。白杖歩行、点字体験、日用品の紹介などの活動を通して交流校の児童が本校及び視覚障害に関心をもつ、よい機会となった。

今後もよりよい交流ができるように、双方の実態等を考慮し、交流内容等や関わり方などを検討し実施していきたい。

②他県の盲学校との交流（オンラインでの交流）

今年度も継続して交流学習に取り組む事ができ、小学部1年生も初めてオンライン交流に参加した。実施に向けて担任同士の丁寧な事前の打ち合わせや両校の児童の実態把握、年間計画や学習進度等の確認などを行い、国語や道徳、総合的な学習等において交流及び共同学習を実施した。画面を通して意見を交換するなどして学習に取り組んだ。同じような悩みをもっている児童となかなか話すことのできない状況があるので、他県の友達とコミュニケーションをとることができたことは、貴重な経験である。

課題としては、学習進度の違いがある場合、内容を合わせていくことの難しさがあること、授業の打ち合わせや教材準備に時間がかかること等があげられている。児童からは、お互いのことが分かり楽しかったという声も聞かれたので、今年度、取り組んだ学習内容や実施方法を振り返りつつ、来年度以降の効果的なオンラインによる交流へと繋げていきたい。

(3) 中学部

新型コロナウイルス感染症の位置づけが変わり、外部の方との接触に関する制限も緩和されたことで、今年度は生徒同士が直接関わる機会を増やすことができた。特に合唱祭に関わる交流では、合唱練習の様子を見学したことで、同世代の仲間が一生懸命練習に取り組む様子を肌で感じる事ができた。来年度は、本校生徒の実態を考慮しながら、練習に参加することも考えていきたい。

(4) 高等部

①甲府城西高校との交流

インターアクト部との交流では、声を掛け合いながら協力し合って活動に取り組む様子やお互いの学校生活や好きなことなどについて話をする様子が見られ、終始和やかな交流ができた。盲学校体験会は、甲府城西高の生徒にとっては障害者や共生社会について考える良い機会となったと考える。来年度は盲学校体験会においても、生徒同士が直接関わりをもてるような活動を取り入れ、工夫して充実した交流になるようにしたい。

②甲府西高校との交流

本校学園祭での箏曲部の発表は、発表の時間を昨年度より長く設けたことで、ディズニーソング等の様々な楽曲を演奏してもらい、鑑賞した皆が楽しむことができた。来年度の学園祭でも、様々な部の発表をお願いしていきたい。

③作品展示

今年度は展示場所を体育館に変更したことで、より多くの方が作品を鑑賞することができた。来年も内容や方法を探りながら実施したい。

④他県の盲学校との交流（オンラインでの交流）

八王子盲との交流では、日本の伝統文化について、生徒が自分で調べて発表し合うことができた。福井盲との交流では、視覚障害のある相手校教職員から、大学に入学した時の経験談を聞くことができた。

IV 地域における交流活動（地域交流）

1 目的

- (1) 幼児児童生徒の生活経験を広げ、社会性・協調性を育てる。
- (2) 相互の理解を深め、社会で共に生きていくという意識を高める。
- (3) 視覚障害教育に対する理解と啓発を促す。

2 交流先

学 部	地域交流先
幼稚部	池田地区文化協会
小学部・中学部 高等部	情報文化センター・青い鳥成人寮、池田地区ボランティア推進会 池田地区シニアクラブ友愛会、池田地区文化協会、池田地区住民
寄宿舎	池田地区シニアクラブ友愛会

3 実施状況

学部	月日	地域交流先	実施学年	指導区分	内容
小	6月21日	全提携先及び地域住民	小学部 児童	自立	地域の方々、保護者と共に、学校周辺の清掃と点字ブロック点検を行った。
中高	6月7日 通年	情報文化センター	1年	自立	新型コロナウイルス感染症予防のため実施できなかった。
中高普通科	6月21日	全提携先及び地域住民	中・高普通科生徒	自立	地域の方々、保護者と共に、学校周辺の清掃と点字ブロック点検を行った。
理療関係学科	通年	地域住民	全学年	臨床実習	理療治療を実施した
	6月2日	地域住民	1・2年	臨床実習	「検校祭」における治療奉仕を実施した。
	10月25日	地域住民	全学年	臨床実習	「盲学校理療科あん摩サロン」における治療奉仕を実施した。
	3月3日	地域住民	全学年	臨床実習	「健康まつり」での治療奉仕
小・中・高普通科	10月21日 ～22日	池田地区文化協会及び地域住民	全学年	体験あそび 図工・美術 家庭等	「池田地区文化祭」での幼児児童生徒の作品展示
	1月中旬～ 2月中旬	地域住民	全学年	体験あそび 図工・美術 家庭等	山梨中央銀行下飯田支店にて幼児児童生徒の作品展示
	3月3日	池田地区文化協会及び地域住民	全学年	体験あそび 図工・美術 家庭等	池田地区「健康まつり」にて幼児児童生徒の作品展示
寄宿	6月 12月	池田地区シニアクラブ友愛会	舎生	余暇活動	6月は地域の方に花をいただき舎生による花植え、12月は通常の花植えを実施した。交流たよりを発行し、回覧板を通して活動の様子を伝えた。

4 地域交流の様子

- (1) 点字ブロック点検・清掃活動
児童生徒、地域の方々、保護者の方々と共に、学校周辺の清掃や点字ブロックの

点検を行った。点字ブロック点検グループと、地域清掃グループに分かれ、路上の草取りや空き缶・タバコの吸い殻等を拾い集めた。ゴミ袋いっぱいのゴミを回収でき、子供たちが歩く学校周辺の道路が綺麗になった。

点字ブロック点検では、破損箇所の確認をすることができた。欠けているものや、剥がれている物も多く見つかったため、記録を撮りながら地図に記載した。

今年度も7月、9月、1月、3月の地域清掃活動日には本校からも校長や教頭、渉外交流共学係が参加し、早朝より地域の方々と一緒に盲学校周辺を歩きながら、ゴミ拾いや点字ブロックの点検を行った。地域の方より庭で育てた鉢花をいただいた日もあり、地域の方々との繋がりを感ずることができた。



「地域清掃」



「破損箇所」

(2) 高等部理療関係学科

感染症予防対策をしっかりと行い、通年を通して臨床実習を実施することができた。生徒たちにとっては、日頃学習をしている内容を地域の方々に実践できる貴重な体験であり、実践内容からカンファレンス、まとめ、研究成果の発表へと繋げている。また、今年度新たに「盲学校あん摩サロン」を実施した。地域の会長様より住民の方に声をかけていただいて希望者を募り、午後の時間を2コマに分け、14名の方々に参加していただいた。「丁寧に施術していただき、心身ともにリラックスできました。」「明るい話し方で安心して受けることができ、明日からの元気をもらいました。」「盲学校の存在は知っていたが、幼稚部から理療関係学科まで多くの方が学んでいることを知りました。」など、多くの感想をいただくことができた。3月には健康まつりが4年ぶりに開催される予定であるので、治療奉仕という形での交流を深めたい。



理療治療は、盲学校を身近に感じてもらえるよい機会であり、地域とのつながりを広げ、深めていくことができる大切な取り組みになっている。今後も理療を通じた地域との交流活動を通し、地域に開かれた学校を目指していきたい。

(3) 作品交流

今年度は文化祭も通常開催に近い形で行われた。10月の池田地区文化祭と、3月の健康まつりでは、幼児児童生徒の作品を展示し、多くの方々に見てもらえる機会となった。

また、地域の銀行のロビーにも、毎年作品を展示している。見学者からいただいた感想は、幼児児童生徒にとってよい励みとなっている。



(4) 寄宿舍

6月は昨年度同様に池田地区シニアクラブの方々が届けてくださった松葉ボタンの花植えを舎生と指導員で行った。12月は感染症予防対策をしながら、4年ぶりに対面してビオラの花植えを行いながら交流することができた。シニアクラブの方から植え方の手順を教えていただき、作業中は談笑する場面も見られ、笑顔いっぱいの交流会となった。

花植えの活動報告と舎生の感謝の気持ちを「寄宿舍だより」に載せ、自治会の各所へ配布し、盲学校寄宿舍の様子や舎生とシニアクラブの方々がふれ合う様子を知っていただくことができた。



「6月花植え」



「12月花植え」



5 成果と課題

(1) 点字ブロック点検・清掃活動

実施後のアンケートからも「実施に歩いてみないと分からないことが多くあり参加して良かった。」「点字ブロック上に砂がかかっている所があったので、ほうきできれいにしてほしいと思った。」など、多くのご意見や感想をいただいた。来年度も活動の仕方や内容等を工夫しながら継続して取り組んでいきたい。

来年度、小学部は新たな内容を計画し、地域の方々と交流を深めたいと考えている。今後も、一つ一つの活動を積み重ねながら、地域の中で共に学び、共に育っていく学校でありたいと思う。

(2) 高等部理療関係学科

検校祭、池田地区健康まつり、地域安全点検、盲学校あん摩サロン、日頃の臨床実習等を通して池田地区の方々との交流を図ることができた。生徒のコミュニケーション能力の向上や、地域と盲学校がつながるよい機会となっている。

来年度の盲学校あん摩サロンは、今年度の実践と反省を生かし、検校祭を膨らませながら、よりよい形で実施できればと考えている。このような交流の場は、生徒にとっては、自分自身のことを表現することで障害の受容につながり、職業自立を目指す上で人間関係の構築の重要性について気付くことができる機会となっている。日々の様々な学習の中から、常に地域に目を向け、心を寄せる姿勢や地域で暮らしていく姿勢を学ぶことができたのではないかとと思われる。

今後の課題として、生徒数の減少傾向により、治療奉仕に対するニーズに応えきれないことがあるが、これについては職員の参加等で補っていきたい。他の人との関わりをもつことが苦手な生徒に対しては、職員自身が生徒と地域の方との間に入り、少しでも関心をもてるようにはたらきかける役割を担っていくことが大事ではないかと考える。

今後も、地域社会に貢献しながら、地域の方との大切な交流の場として、治療奉仕の継続につとめたい。

(3) 寄宿舍

4年ぶりの直接交流を行い、舎生たちからは「シニアクラブの方と久しぶりに会えて嬉しかった」「植え方を教えてもらったから上手にできた」という感想が聞かれ、この活動の大切さを改めて実感する機会となった。

来年度も同様の内容を計画し、舎生にとって地域の方々との繋がりを感じ、地域社会の一員であることの自覚を深め、地域の方々とかかわる上でのコミュニケーション力を高める機会としていきたい。

(4) 地域の方々とのつながりや回覧板を活用したお便り配布等

地域役員の方より、池田地区ふる里まつりへのお誘いをいただいた。夏季休業中であつたが、本校からは校長、教頭、交流係、保護者と子供たちが参加した。3年ぶりの開催であり、第1部では、甲府城西高等学校吹奏楽部の観客参加型の演奏会で、共に楽しむことができた。第2部は校庭での盆踊りや屋台があり、大賑わいであつた。フィナーレを飾る花火大会では、夜空に咲いた大輪の花と音、美しさに魅了される夜であつた。



地域の回覧板は、地域の方々にとって情報収集の重要な手段である。学校からの文書も回覧していただき、地域の方々へ伝えることができた。

来年度以降も、学校での取組の様子について回覧板を通してお便りとして発行したい。また校内掲示の工夫や、ホームページ上でのブログへの掲載等の発信により、広く知っていただける機会を大切にしたい。

V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

1 目的

- (1) 居住する地域の児童生徒と共に学び、好ましい人間関係を築く。
- (2) 交流及び共同学習を通して地域の児童生徒やその保護者、教職員の本校児童生徒への理解が深まるようにする。
- (3) 生涯を通じて、地域と結びついていく基盤を作る。

2 実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部3年	甲府市立伊勢小学校		未実施

3 成果と課題

保護者から実施の希望が出されていたが、都合等により今年度は実施することができず残念であつた。

I 学校概要

1 学校の概要

学校名	山梨県立ろう学校
所在地	〒405-0061 山梨市大野 1009
電話番号	0553-22-1378
校長名	木村 則夫
交流及び共同学習主任名	渡邊 絵里那

2 学校教育目標

- ◎幼児児童生徒のたくましく生きる力と豊かな言語力を育む
一人一人の特性に応じた適切な指導及び必要な支援の充実を図る
自身の力を発揮し、自分が自分らしく生きる力を育成する
物事に対し、周囲の人とともに取り組む力を育成する

II 交流及び共同学習推進会議の経過

1 交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所 属・職 名	備 考
1	山梨市大野区・区長	会長
2	山梨市社会福祉協議会・会長	副会長
3	峡東教育事務所・主幹・指導主事	
4	山梨市教育委員会学校教育課・課長	
5	社会福祉法人加納岩福社会加納岩保育園・園長	
6	山梨市立山梨小学校・校長	
7	笛吹市立春日居中学校・校長	
8	山梨県立山梨高等学校・校長	
9	山梨県立ろう学校・校長	

2 経過

開催時期	内 容
5月23日(火)	第1回交流及び共同学習推進会議
1月26日(金)	第2回交流及び共同学習推進会議

Ⅲ 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

1 目的

(1) 幼稚部

同年齢の集団との様々な活動を通して、幼児の生活に広がりをもたせ、豊かな心を育てる。

(2) 小学部

大きな集団の中での活動を重ねることで、生活経験の拡充を図り、社会性・協調性を養う。また、豊かな言語環境の中でコミュニケーション能力を高める。

(3) 中学部

同世代の大きな集団との活動を通して、学習経験・生活経験を豊かにし、社会性・協調性を伸ばす。また、自己について考え、社会的自立を図ろうとする態度を育てる。

(4) 高等部

同年代の生徒との活動をとおして、生活経験を豊かにし、好ましい人間関係を培う力を育てる。また、自己理解や障害認識を深め、社会参加に必要な思考力や判断力、表現力を養う。

2 提携校

学 部	交流及び共同学習提携校
幼稚部	社会福祉法人加納岩福祉会加納岩保育園
小学部	山梨市立山梨小学校
中学部	笛吹市立春日居中学校
高等部	山梨県立山梨高等学校

3 実施状況

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容
幼	5/23	加納岩保育園	全クラス	人間関係 環境	自由遊び、設定遊び他
	6/6				自由遊び、設定遊び他
	9/12				自由遊び、設定遊び他
	11/14				自由遊び、設定遊び他
	12/12				自由遊び、設定遊び他
	1/23				自由遊び、設定遊び他
	2/6				自由遊び、設定遊び他
小	前期	山梨小学校	全学年	特別活動	メッセージカードの交換
	5/16		2年	特別活動	「聴こえの学習会」(教員のみ)
			生活	さつまいもの苗植え	

小	5/18	山梨小学校	3年	社会・生活	農業体験
	6/6		1年	生活	「春を探そう」(万力公園)
	6/22		4年	特別活動	メッセージ交換・手話講座
	7/20		3年	社会・生活	スーパーマーケットの見学
	9/11		3年	社会・生活	農業体験
	10月		全学年	体育	交流持久走大会試走
	10/27		6年	特別活動	交流ふれあいまつりお店紹介
	11/1		全学年	体育	持久走大会
	11/14		2年	生活	さつまいも掘り
	11/16		全学年	特別活動	交流ふれあい祭り
	11/22		3年	社会・生活	消防署の見学
	12/1		5年	社会	オンライン自動車工場見学
	1/24		1年	図画工作	造形活動
	2/15		4年	図画工作	「ごちそうねん土を作ろう」
	中		5月	春日居中学校	全学年
6/15		全学年	特別活動		部活動交流
9/15		全学年	特別活動		春日居中学校学園祭への参加
10/7		全学年	特別活動		ろう学校運動会に招待
12月		全学年	美術		美術作品の交換・鑑賞
1月		全学年	国語		席書き大会の作品交換・鑑賞
高	5/30	山梨高校	全学年	放課後	顔合わせ会
	6/14		全学年	自立活動	山梨高校学園祭に参加
	11/2		全学年	体育	山梨高校梨窓 Walk (強歩大会)

4 学校間交流の様子

(1) 幼稚部

- ・今年度は、雨天時も室内での活動に変更することでほぼ実施することができた。(11月1日の交流のみインフルエンザ流行による感染拡大防止のため中止)
- ・6月、11月の交流では、加納岩保育園の園庭にて、保育園の縦割りグループで、自由遊びや設定遊び(6月しっぽとり、11月なわとびあそび)を行った。リズム体操は、本校の幼児も事前に何度か映像を見ながら練習しておくことで、大勢の中でも楽しく体を動かす様子が見られた。今年度は、手話歌(5～11月「さんぽ」12～2月「あおいそらにえをかこう」)も行い、一緒にたのしく元気に歌ったり、手話表現をしたりすることができた。
- ・5月9月12月の交流は、雨天のため加納岩保育園の遊戯室にて室内遊びを行った。室内遊びでは、ゲーム(「じゃんけん列車」「椅子取りゲーム」)や音楽遊び(「あのはしがおちるまえに」)、風船運びリレーを行った。5月はゲームの内容もまだ難しかった様子も見られたが、繰り返し行うことでルールを理解し、楽しく遊ぶことができるようになった。

・各クラスの様子

もも組

初めての交流だったので、大勢の雰囲気緊張した様子が見られたが、回数を重ね少しずつ集団に入って一緒に活動することができた。事前にクラス等でゲームのルールややり方を確認しておくことで、見通しを持って参加することができた。

たんぽぽ組

加納岩保育園に行くことを毎回楽しみにしていた。昨年度よりも見通しをもって交流に参加することができ、ゲームやリズム体操を元気に行うことができた。

すみれ組

一人学級なので同学年の友達とかかわることが良い刺激になった。恥ずかしがる様子も見られたが、一緒に活動することを楽しみにしていた。



加納岩保育園園庭での「リズム体操」



室内での「じゃんけん列車」

(2) 小学部

- ・1年生は、万力公園で一緒に生活科を行い、春を探した。その後、芝滑りをしたり動物を見たりした。緊張する様子も見られたが、山梨小の児童が積極的に声をかけてくれたため、促されるように集団に入り、徐々に打ち解けていった。一度経験すると交流のイメージがもてたようで、次の交流を楽しみにしている児童もいた。
- ・2年生は交流前に山梨小の2年生を対象とした難聴を理解するための授業を行った。山梨小の児童は手話や補聴器について興味をもち、聞く姿がみられた。特に山梨小の先生に補聴器を装用していただき、感想を児童の前で話していただいたときに、児童から「去年トンネルで大きい声をみんなで出したら、耳が痛いって言った」「やっぱりうるさいんだ」「しらなかった」などの呟きもあり、気づきにもつながっていた。山梨小の畑でさつまいもの苗植えや収穫も行った。一緒にやり方を確認したり虫を見つけて喜んだり交流の回数を重ねるごとに会話が多く交わされるようになった。
- ・3年生は農業体験2回とスーパーマーケット、消防署見学を行った。山梨小の児童が積極的に話しかけてくれたり、誘ってくれたりして活動を楽しんでいた。働く人にインタビューする場面では二人とも大勢の中でも臆することなく質問することができた。
- ・4年生は手話講座を行った。山梨小の友達に指文字や簡単な手話クイズをして交流を深

めた。二人がそれぞれ教室の前に立ち、手話を披露した。クイズは盛り上がり、楽しむ姿が見られた。山梨小の児童は手話に関心をもつ児童が多く、教えた指文字で会話をする姿が見られた。

- ・ 5年生は社会科で自動車工場のオンライン見学を行った。緊張した様子で教室に入ったが、クイズでは他の児童と一緒に楽しんで答えていた。授業後には他の児童から話しかけられ、教員の補助を受けながらコミュニケーションをとっていた。
- ・ 6年生は「ふれあいまつり」で行う店について、班ごとに説明し、質問を受けた。山梨小の友達がどのような店を出すのか、関心をもちながら見たり、聞いたりしていた。モニターの資料を見てメモを取る児童もいた。
- ・ 持久走大会では同級生に刺激を受け、最後まで諦めずに走りきることができた。体操や応援、ゴール等で声を掛け合う場面が見られた。試走から一緒に取り組むことで仲間意識が見られた。
- ・ 交流ふれあい祭りは、4年ぶりに開催された。山梨小で自分たちの店「しゃてきや」を出店し、一人一人が係の仕事を生懸命行うことができた。お客として店に来た山梨小の児童に「こちらへどうぞ」や「頑張ってください」など優しい声かけが多くあり、お店は大繁盛だった。山梨小のお店は、高学年と低学年のペアで回った。相談しながらお店に行くなど、楽しんでゲームに参加することができた。



3学年交流 「スーパーマーケットの見学」



「交流ふれあいまつり」

(3) 中学部

- ・ 今年度は4年ぶりに対面での交流会ができた。
- ・ 交流実施前に、両校生徒同士自己紹介カードの交換を行った。事前にお互いの情報を共有する中で交流会を楽しみにする様子が見られた。最初の交流会では春日居中学校において福祉交流委員会のメンバーと対面して自己紹介を行った。その後、卓球部と美術部の部活動交流を行い、両校で一緒に練習をしたり作品を作ったりした。
- ・ 9月には春日居中学校文化祭に参加し、オープニングの中で、ろう学校のことや手話の紹介を行った。手話の紹介では、福祉交流委員会の生徒と前に出て手話表現を行った。その際、春日居中学校生徒と自然に会話をする場面が見られるなどよい交流ができた。
- ・ 10月にはろう学校の運動会に福祉交流委員会の3名を招いて中学部・高等部の綱引きを一緒に行った。ろう学校生徒の人数が少ないこともあり、教員対生徒の対戦となったが、春日居中学校の校長先生や福祉交流委員会の担当の先生にも参加いただき、

両生徒にとって印象に残る運動会となった。テント内では、春日居中学校の生徒と言葉を交わし、ろう学校の運動会について話す様子が見られた。

- ・対面の交流とともに両校の席書き大会の作品や美術作品を展示し、同年代の生徒の作品を互いに見合い、よい刺激を受ける機会となった。



文化祭参加



部活動交流



(4) 高等部

- ・今年度の交流を始めるにあたり、本校を会場にして山梨高校生徒会役員と顔合せ会を行った。自己紹介をした後、梨窓祭（山梨高校の学園祭）で紹介する本校紹介ビデオを撮影したり、レクリレーションで親睦を深めたりすることができた。レクリレーションではすぐに打ち解け、笑いが絶えない楽しい時間を過ごすことができた。最後には全員で写真撮影するなど、次の交流である梨窓祭への期待感が高まった。
- ・梨窓祭にむけての取り組みでは、学校紹介のビデオの内容を考えたり、旗を作ったりしたことで、高等部としての仲間意識を培うことができた。
- ・梨窓祭では山梨高校の生徒による学校案内や本校生徒会長のあいさつ等があり、山梨高校の生徒と共に参加している意識をもつことができた。また、同年代の大勢の生徒と会場を共にする中で、学園祭の熱気や発表の迫力を体感でき、生徒たちの感動につながった。梨窓祭での発表内容は本校の運動会や学園祭を実施する上で大いに参考になった様子であった。
- ・梨窓 WALK（山梨高校の強歩大会）では、本校生徒の体力や実態に合わせて参加させていただくことができたため、それぞれの生徒が今もっている力を最大限に発揮することができた。また、走行中に山梨高校の生徒や先生方から声と一緒に手話で話しかけていただいたことも、生徒たちの心に残っている。



顔合せ会



梨窓祭



梨窓 WALK

5 成果と課題

(1) 幼稚部

①成果

- ・同年齢と接する機会がもてたこと、大きな集団活動を体験できたことは、よい刺激となった。
- ・大きな集団が苦手な幼児も、活動に加わって少しずつ参加することができた。保育園児に誘われて遊ぶことができたことは本校幼児にとって大きな成長であった。
- ・本校の幼児と保育園児をつなげるような声かけをしていただいたり、遊びに誘っていただいたりして楽しく活動ができてよかった。今後もお願いしたい。
- ・雨天時も室内での活動に変更することができ、交流の機会が確保できた。数回の室内遊びも同じ内容を行ったことで、本校の幼児にとって遊びの内容が理解できて保育園児と共に活動を楽しめる機会となった。

②課題

- ・園庭での「しっぽとり」など広い場所での遊びは、年少児にとってルールを理解等が難しかった。今後、活動内容（設定遊びや室内遊び等）を実態に合わせて検討していく必要がある。自由遊びでは、広い園庭のいろいろな遊具で遊べる機会となり幼児は楽しんだが、保育園児と同じ遊びで交流する場面は少なかった。自由遊びの時間や遊び方の工夫をしていきたい。

(2) 小学部

①成果

- ・大きな集団の中での活動を経験することで、集団で行動する意識が徐々に芽生えてきた。にぎやかな雰囲気の中で活動することで、楽しみながら学習に参加したり友達と話をしたりすることができた。
- ・今までの交流の積み重ねにより、コミュニケーションをはかる姿が多く見られるようになった。
- ・児童の実態を知ってもらえるよい機会となり、今後の活動につなげることができた。
- ・他の児童の考えに触れることができた。また、他の児童の反応やクラス全体の雰囲気を気にして読み取ろうとするなど、一人学級ではできない集団での経験ができた。
- ・テレビでの資料提示があったため、見て確認しながら活動することができた。メモを取ったり聞き取れないときには、教員に確認したりするなど意欲的に活動することができた。

②課題

- ・ろう学校には運動制限のある児童が2名いるため、交流の内容について丁寧に打ち合わせをする必要がある。
- ・新型コロナウイルスの感染予防対策でふれあう機会が少なかったが、今後積極的にかかわれるような場を作っていけるとよい。

(3) 中学部

①成果

- ・今年度は4年ぶりに対面での交流となった。実際に対面することで同世代の仲間とお互いの表情やしぐさを見ながらコミュニケーションをとることができた。実際に会って交流することの良さを改めて感じることもできた。
- ・9月には春日居中学校の文化祭に参加し、ろう学校の紹介や手話の紹介を行った。これをきっかけに、文化祭の時だけではなく、本校の運動会に春日居中学校の生徒が参加した際にも、両校の生徒が手話などを使いながら自然に会話をする場面が見られた。

②課題

- ・交流の成果を高めるために、ねらいを明確にし、双方で共有したうえで、計画的に進めることが重要である。今年度も「コミュニケーション方法」について考えながら交流することをねらいとした。手話以外にも筆談、UD トークなどのコミュニケーションツールを積極的に活用し、正しく伝え合うことを意識して取り組みたい。伝わることの感動や楽しさを感じるとともに、お互いに認め合いができる交流を今後も続けていきたい。

(4) 高等部

①成果

- ・2年生、3年生は、これまでの交流によって交流会に見通しをもち、期待感をもって臨むことができた。実際の交流の場面でも自分から積極的に関わる姿が見られた。
- ・1年生にとっては、初めての交流ということもあり緊張している様子が見られたが、事前学習や山梨高校の生徒が優しく丁寧に関わってくれたことで楽しく交流ができた。
- ・梨窓 WALK の時には、山梨高校の生徒が積極的に手話で声をかけてくれ、また、本校生徒も手話で声をかける様子が見られるなどお互いに自然な関りをもつことができた。
- ・事前学習や事後学習を通して、期待感を高めたり感じたことや考えたことを文章に残したりすることで、交流の目的に迫ることができた。

②課題

- ・知的代替教育課程の生徒が増加している。校内での事前学習や事後学習を丁寧に行い、ねらいを明確にした上で交流することが大切である。
- ・両校の担当教員の事前の打ち合わせを丁寧に行うことで、スムーズな運営ができた。来年度も同様をお願いしたい。

IV 地域における交流活動（地域交流）

1 目的

(1) 幼稚部

地域の人たちとの活動を通して、豊かな心を育てる。

(2) 小学部

地域の人たちと交流活動を重ねることで、生活経験の拡充を図り、社会性・協調性を養う。
また、地域や社会に目を向ける意識や態度を育てる。

(3) 中学部

地域の人たちとの交流活動を通して、学習経験・生活経験を豊かにし、社会性・協調性を伸ばす。また、自己について考え、社会的自立を図ろうとする態度を育てる。

(4) 高等部

地域のさまざまな人たちとの活動を通して地域に目を向け、社会経験を豊かにし、社会で共生していこうとする意欲を養う。

(5) 寄宿舍

- ・地域の人たちと交流活動を行うことで、コミュニケーション方法を身につけ、人間関係に広がりを持たせたり、社会性を養ったりする。
- ・地域の人たちとの交流活動を通して、様々なコミュニケーション方法を用いることで社会性を養い、相互の理解を深める。

2 交流先

学 部	地域交流先
幼稚部	山梨陶磁会
小学部	養護老人ホーム 山梨市立晴風園
中学部	JA フルーツ山梨 加納岩支所
高等部	山梨クリナース
寄宿舍	大野区ゲートボール愛好会、手話サークル「ふえふき」

3 実施状況

学部	時期	地域交流先	実施学年	指導区分	内容
幼	5/25	山梨陶磁会	全クラス	人間関係 環境	親子陶芸教室（成形）
	9/7				親子陶芸教室（釉薬がけ）
小	6/8	養護老人ホーム	5,6年	自立活動	メッセージカード
	9/15	山梨市立晴風園	全学年	自立活動	敬老の日のお祝い
中	5/17	JA フルーツ山梨 加納岩支所	1年	総合的な 学習の時間	桃の袋かけ体験
	7/5		1年	総合的な 学習の時間	共選所の出荷見学
高	7/3	山梨クリナース	1年	総合的な 探究の時間	勤労体験
寄宿	6/8	手話サークル「ふえふき」	全舎生		レクリエーション

寄宿	9/14	大野区ゲートボール愛好会	全舎生		自己紹介・ミニゲーム
	1/18	手話サークル「ふえふき」	全舎生		サークル企画のレクリエーション

4 地域交流の様子

(1) 幼稚部

- ・陶芸教室が初めての保護者には、作品作りを積極的に行えるように、過去の陶芸教室の様子や作品写真を事前に見てもらい、当日に臨めるようにした。
- ・事前に、親子で作るものやイメージ、釉薬の色等を話し合ってくるように保護者に伝えた。当日は、講師にイメージを伝え、アドバイスを受けながら作る様子が見られた。
- ・講師に粘土を切って積み上げていく様子を実際に見せてもらった。また、途中で子供達が作った作品をどのように活かしていくか等アドバイスを受けながら活動した。
- ・子供達は粘土の感触を十分楽しみ、保護者も子供達の作った形を生かしながら成形に取り組んでいた。親子で熱中して取り組んでいる様子が見られた。
- ・釉薬塗りでは、焼くとどのような色になるのか見本を見てから、塗りたい色を選び塗った。重ねて塗ってもよい、塗っていないところもあってもよいことを講師から聞き、親子で楽しんで塗る様子が見られた。



アドバイスを頂きながら色々なものを作る様子



見本を見ながら釉薬を塗る様子

(2) 小学部

- ・6月は、児童会役員で小学部みんなのメッセージカードを晴風園の玄関前まで届けた。晴風園の方々は、玄関前で並んで出迎えてくれ、一緒に写真を撮ったり会話をしたりした。手紙と手書きの塗り絵をお土産に頂いた。
- ・9月は全学年の児童が晴風園に行き、交流することができた。晴風園の方々と歌を歌ったり風船バレーをしたり一緒に写真を撮ったりすることができた。話しかけられたときに、手話でうまく伝えられなくても、間に教員が入り少し支援するだけで、楽しく話をする姿が見られた。



6月の訪問



9月の訪問

(3) 中学部

- ・JA フルーツ山梨加納岩支所の御協力をいただき、桃の袋かけ体験と、桃の箱詰め、共選所の出荷見学を行った。暑い中での桃の袋かけ等の作業のやり方を教えてもらいながら、職人さんとの交流をすることができた。また、桃に関する作業体験を通し、桃の種類や出荷先などに興味を持ち、たくさんの細かな質問をすることができた。



桃の箱詰め体験

(4) 高等部

- ・1年生が山梨クリナースで勤労体験を行った。朝礼で自己紹介をした後、クリーニング作業に関わる4種類の仕事を体験することができた。スタッフや利用者さんに仕事のやり方を教えてもらいながら、一緒に作業をすすめ、交流をすることができた。
- ・事後学習で、お礼状をお届けした。



スタッフと一緒に浴衣をたたむ作業



シーツを機械に挟み込む作業



クリーニングするものを機械に載せる作業

(5) 寄宿舎

- ・手話サークル「ふえふき」と4年ぶりに交流ホールで対面で交流を行った。第1回は交流会の内容を寄宿舎が立案し、自己紹介、レクリエーション、茶話会を行った。レクリエーションについては舎生が一から内容を考え、手話と口形のみの表現をどれだけ相手を読み取れるのかを競うレクリエーションを行った。茶話会では「私の好きなこと」というトークテーマで会話した。サークルの方と好きな食べ物が一緒に喜ぶ舎生がいるなど、交流を楽しんでいる様子がうかがえた。第2回は手話サークルの方が企画運営をし、自己紹介、レクリエーション、茶話会を行った。サークルのご希望で第1回と同じレクリエーションを行い、今年の目標というテーマで茶話会を行った。
- ・大野区ゲートボール愛好会の方たちと交流会を行った。自己紹介と寄宿舎の紹介をした後、愛好会の方々に教えていただきながらゲートボール体験を行った。寄宿舎を紹介した際には、「こんなにたくさん当番やっているのだね」と驚く方がいたり、「遠方だから寄宿舎に泊まっているのだね」と理解を示す方がいたりするなど、やりとりがあった。



大野区ゲートボール愛好会の方たちと



手話サークル「ふえふき」との交流の様子

5 成果と課題

(1) 幼稚部

①成果

- ・山梨陶磁会の指導による「親子陶芸教室」は今回で25年目となる。親子で関わりながら、幼稚部段階の子供の豊かな発想を大切に自由な作品作りが楽しめる場となっている。活動が難しい陶芸であるが、本校にはその施設設備があるのでこれを活用し、さらに専門家から教えていただく貴重な機会でもあるため今後も継続していきたい。
- ・初めて作品作りを行う保護者に、事前に陶芸教室の様子や作品写真、釉薬の種類を表を見てもらったことで、イメージ作りに役立ったと思われる。また、毎年行うことで、子供達も保護者も見通しがもて、自分の作りたい物を考えてから参加するようになっている。
- ・陶芸釜の使用マニュアルを見ながら、本校職員でスムーズに素焼き、焼成ができた。トラブル（割れ、脱落等）についても講師にアドバイスをいただき対応できた。
- ・講師の先生からイメージ、想像力が豊かな作品が多く、この年齢でしか表現できない作品に、とても感動したと評価をいただいた。
- ・講師の先生より「陶芸作品は時間を形として残せるものである」という話があった。その時の子供達の様子を書き入れておくと、後でその作品を見た時、その年に戻ることができる。幼少期に作品を作り残しておく、ということを言い伝えていきたい。

②課題

- ・釉薬の塗り方の工夫や作品を作る際に割れないようにするための留意点等について講師から話を聞き、それを記録に残し、引き継いでいく。
- ・陶芸による交流が継続しスムーズに行われるようにするために、施設、設備等の維持管理、材料・道具等の補充をしていく。
- ・活動時間を多く取ったため、作品発表を実施できなかった。来年度以降は、状況を見ながら終わりの会で、一人ずつ自分の作品を発表する機会を設けることも取り入れていきたい。人前で表現するよい機会となるので実施していけるとよい。

(2) 小学部

①成果

- ・同じ地域にいる世代の異なる方と普段の学校生活とは違った雰囲気のかかわりを経験することができた。
- ・自分のたちの訪問を楽しみにしてくれていることを確認することができた。

②課題

- ・今後も進行や写真撮影等、打ち合わせを丁寧に行っていきたい。
- ・近隣のため、徒歩での訪問だった。9月は気温が高く、マスクも着用していたため、熱中症の危険性がある。短時間でも水筒の持参等、暑さを対策する必要がある。

(3) 中学部

①成果

- ・桃に関する作業を体験したり、共撰所の見学をしたりすることで、山梨の産業を学ぶとともに桃への興味関心を持ち、たくさんの質問をすることができた。また、質問をすることで、新たな知識を身につけることができた。

②課題

- ・桃の袋かけ作業をどの場所で行うのか等の綿密な連絡をしていく。

(4) 高等部

①成果

- ・1年生は校内実習の際に働くことを知る機会としてこの交流を実施している。体験を通して利用者さんや支援員さんと交流することで、様々な障害を知ったり、色々な方とのコミュニケーション方法を考えたりする機会になった。また、福祉事業所の仕事を知る機会にもなった。勤労体験を通して、自分の適性等を考える機会にもなった。

②課題

- ・担当者が事前に仕事の内容や作業時間等を丁寧に打ち合わせたことで、スムーズな交流ができた。引き続きお願いしたい。

(5) 寄宿舍

①成果

- ・手話サークルとの交流会では、自身の役割だけでなく、サークルの方の名札を積極的に配る舎生がいるなど、主体的に参加しようとする意欲がうかがえた。様々な年代のサークルの方々と交流することでコミュニケーション方法やマナーを考えるきっかけになった。また、舎生からも手話サークルに興味があるという意見があったので、県内の手話サークルについて調べる機会を作った。
- ・大野区ゲートボール愛好会との交流では、寄宿舍紹介の中で補聴器や普段の生活について紹介したが、愛好会の方からも質問が出てお互いに交流している様子があった。寄宿舍紹介やゲートボール体験を通じて、お互いを知り合う機会となり良かった。
- ・交流の中で目上の方への接し方について経験不足が伺えたため、マナーについて学ぶ機会を作った。

②課題

- ・直接的な交流ができるようになってきたからこそ、マナーや言葉遣い等についても学ぶ機会を今後も作っていきたい。

V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

1 目的

居住地校との交流及び共同学習を通して、児童生徒の経験を深め、社会性を養い、居住地での好ましい人間関係を形成し、その能力と可能性を最大限に伸ばして社会生活への円滑な移行を図るための基礎を養う。

2 実施児童・生徒

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部 6 年	甲府市立里垣小学校	3	朝の会、書写、国語、図書、算数など（半日参加）
小学部 6 年	忍野村立忍野小学校	5	国語、算数、音楽など（終日）
小学部 6 年	山梨市立山梨小学校	3	朝の会、国語、算数
小学部 5 年	南アルプス市豊小学校	4	国語、算数、社会、書写、図工、音楽、総合、クラブ活動、朝の会、帰りの会、給食、掃除
小学部 1 年	甲斐市立双葉東小学校	4	算数、体育、学級活動など
中学部 1 年	北杜市立長坂中学校	9	国語、英語、音楽、道徳、社会、体育、朝の会、帰りの会、部活動（卓球部）

3 成果と課題

<小学部>

①成果

- ・集団授業で他の児童の考え方や作品に触れることができ、よい刺激となった。給食や掃除などの活動では、他の児童にやり方を聞いたり、協力したりして進めており、集団でのよい交流の機会となった。
- ・大勢の友達のいる環境に入ることによって、多少気後れする様子はあるが、友達の様子や学習内容に多くの刺激を受けながら経験を広げることができた。

②課題

- ・本校の学習進度が遅れていたため、授業についていくのが難しいことがあった。取り扱う内容を早めに伺い、進度の差による影響を少なくしたり学習内容を提案したりしたい。
- ・学習予定や内容など詳しく教えていただき、児童も見通しをもって登校できていた。今後も相手校と連絡を密にとり、実施していく。

<中学部>

①成果

- ・朝の会、帰りの会や授業（国語、英語、音楽、道徳、社会、体育）に参加することができた。
- ・一斉授業でたくさんの友達がいる雰囲気を感じられる良い機会となった。友達から声を掛けてもらい、やりとりする様子が見られた。
- ・長坂中学校では卓球部の練習にも参加し、本校の部活との違いや、卓球を通して交流を深めることができた。

②課題

- ・実り多い交流になるよう積極的に関わろうとする態度を養う。

- ・実施予定前に、綿密に授業内容などの確認をするために、今後も連絡を密にしていく。



I 学校概要

1 学校の概要

学校名	山梨県立甲府支援学校
所在地	〒400-0064 山梨県甲府市下飯田 2-10-3
電話番号	055-226-3322
校長名	小田切 一博
交流及び共同学習主任名	清水 亜希子

2 学校教育目標

- 健康で心豊かな人
- 自ら感じ、考え、表現する人
- 認め合い、伝え合い、助け合う人
- 自立に向けてあゆむ人

II 交流及び共同学習推進会議の経過

1 交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所 属・職 名	備 考
1	甲府市池田地区自治会連合会・会長	会長
2	甲府市新田地区自治会連合会・会長	副会長
3	池田地区シニアクラブ連合会・会長	副会長
4	池田おやなぎ連・会長	
5	甲府市立池田小学校・校長	
6	甲府市立新田小学校・校長	
7	甲斐市立敷島中学校・校長	
8	山梨県立甲府城西高等学校・校長	
9	山梨県立甲府支援学校・PTA 会長	
10	山梨県立甲府支援学校・校長	

2 経過

開催時期	内 容
5月22日(月)	今年度の計画について
2月26日(月)	今年度の活動報告について

III 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

1 目的

- 小学校、中学校、高等学校との交流及び共同学習を実施することにより、
- (1) 児童生徒の経験を広め、積極的に活動する態度を養う。
 - (2) 児童生徒の社会性を養い、豊かな心をはぐくむ。
 - (3) 互いを理解し合い、共に学び高め合う機会を持つ。

【各学部の目的】

(1) 小学部

- ①大きな集団やたくさんの友達と活動し、新しいことを体験したり学んだりする。
- ②自分からかかわろうとしたり、自分の気持ちを表したりする。

(2) 中学部

- ①経験を広めると共に、新しいことを学んだり挑戦したりする。
- ②同世代の生徒たちの考えに触れ視野を広げると共に、自分の考えを表現する。

(3) 高等部

- ①いろいろな活動をすることで経験を拡大し、社会性を育て主体的に行動する力を身につける。
- ②同世代の生徒たちの考えや行動に触れ自分の考えを表現したり、自分を見つめ直したりする。

2 基本方針

- (1) 共に学び合い、共に育ち合う場となるような交流及び共同学習を目指して、その方法や内容などを両校職員の共通理解のもとに探っていく。
- (2) お互いが共に学習することで、相互理解を深め共生社会の実現の一助となるよう努める。
- (3) 校内だけでは体験できない活動を設定できる場として、交流及び共同学習の内容について両校職員で創意工夫していく。
- (4) 両校児童生徒の変容、成長等を把握し、児童生徒のねらいに対する評価を交換し合う。

3 提携校

学 部	交流及び共同学習提携校
小学部	甲府市立池田小学校、甲府市立新田小学校
中学部	甲斐市立敷島中学校
高等部	山梨県立甲府城西高等学校

4 実施内容

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容	
小	10/11	甲府市立池田小学校	2年生	自立活動 国語、音楽 図画工作、生活	・池田小学校の各学年と本校の学年ごとの交流会を実施。	
	10/12		3年生			
	10/13		1年生			
	11/22		6年生	自立活動 国語、音楽 図画工作、生活		・池田小学校の各学年と本校の学年ごとの交流会を実施。
	11/28		4年生			
	11/29		5年生			
	11/14～18		全学年	自立活動 図画工作、生活		甲養祭展示発表での作品交流 ポスター配付

	5月	甲府市立 新田小学校	全学年	自立活動 国語、音楽 図画工作、生活	自己紹介カード、ビデオ メッセージによる交流 共同作品の交換
	5/15				第1回新田小児童と本校 教員との話し合い活動
	5/26		全学年	自立活動 生活、音楽、体育、 国語、図画工作	第1回交流会 新田小5年生の各班と本校 の学級ごとの直接またはオ ンラインでの交流
	10/6				第2回新田小児童と本校 教員との話し合い活動
	10/19		全学年	自立活動 生活、音楽、体育、 国語、図画工作	第2回交流会 新田小5年生の各班と本校 の学級ごとの直接またはオ ンラインでの交流
	11/14～18		全学年	自立活動 図画工作、生活	甲養祭展示発表での作品 交流 ポスター配付
中	7/6	甲斐市立 敷島中学校	全学年	自立活動 特別活動	第1回交流会 敷島中学校1年生と本校と オンラインでの交流
	11/14～18		全学年	自立活動 美術	甲養祭展示発表での作品 交流 ポスター配付
	12/7		全学年	自立活動 音楽、美術	第2回交流会 敷島中学校1年生と本校と オンラインでの交流
高	4/27	山梨県立 甲府城西 高等学校	全学年	自立活動 美術	甲府城西高へ贈呈する応援 旗製作、贈呈
	11/14～18		全学年	自立活動 美術	甲養祭展示発表での作品 交流 ポスター配付
	9月～ 12月		全学年	自立活動、音楽	自己紹介カードの交換 交流音楽集会のDVD交換 クリスマスカードの交換
	12/8		全学年	自立活動、各教科	甲府城西高校の生徒による 体験活動及びボランティア 活動

5 学校間交流の様子

(1) 小学部

①池田小学校との交流及び共同学習

6月に学年代表の教員が集まり、今年度の交流についての話し合いを行った。直接交流を計画しながら、感染症の流行に備え、オンラインでの交流も同時に計画した。双方の学校で感染状況を確認し、本年度は、全学年で対面での直接交流を実施することができた。

1年生は本校からは『虹』の歌、池田小学校からは運動会でのダンスを発表した。2年生は本校からは『ツバメ』のダンス、池田小学校からは運動会でのダンスを発表した。3年生は、本校からは甲府支援クイズ、池田小学校からはリコーダーの合奏や合唱の発表をした。4年生は、じゃんけん陣取りゲーム、池田小学校の連合音楽会の鑑賞を行った。5年生は、池田小学校の紹介、『サチアレ』のダンス、音楽鑑賞を行った。6年生は、お互いの修学旅行の報告をし合った後、ボッチャ体験を行った。本校の児童は、大人数に圧倒されている様子があったが、交流が進むにつれて、楽しんでいる表情が見られた。



②新田小学校との交流及び共同学習

5月と10月に2回の交流を実施した。本年度は、感染症予防対策をしながら直接交流を実施することができた。交流の実施前には、本校の教員が新田小学校を訪問し、新田小学校の児童と一緒に交流でどんなことをしたいかなど、活動内容を考えた。

1回目の交流では、全員で体育館に集まり、全体会を行った後、ブロックごとに分かれて自己紹介やクイズ、本の読み聞かせなどを行った。2回目の交流では、全体会を行わずブロックごと教室に分かれて、様々なゲームを行ったり、新田小学校の児童が運動会で踊ったフラッグの発表を行ったりした。



(2) 中学部

第1回の交流では、GoogleMeetでオンライン交流を実施した。敷島中学校からは6月に実施した林間学校についてまとめた新聞の発表、本校の1年生からは学習の取り組み、2年生から校外学習の報告、3年生からは修学旅行について発表した。また、「サイコロトーク」というサイコロを投げて質問し合うゲームも実施した。サイコロに書かれた質問に答えることで、互いを知ることができた。

第2回の交流も同様にGoogleMeetを利用してオンライン交流を実施した。お互いの学校について知ってもらうために、学校にちなんだクイズ大会を行った。本校からはポッチャのボールを貸し出し、敷島中学校からは陸上部で使う砲丸をお借りした。砲丸を持った本校の生徒は、予想以上の重さに驚き、砲丸の感触を楽しむ様子が見られた。

本年度は、本校の学園祭の『甲養祭』だけでなく、敷島中学校の学園祭である『年輪祭』にも本校の生徒の作品を展示し、作品交流を行った。



(3) 高等部

今年度も高校総体に向けて、甲府城西高校の壮行会に使用していただく応援旗を制作した。美術・造形の授業で2枚の応援旗を制作した。また、応援旗作成の様子や応援メッセージも作成し、応援旗と一緒に教員が届けた。

本校の学園祭『甲養祭』に甲府城西高校の生徒の作品を展示した。甲養祭期間中に高等部生徒が作品を鑑賞し、感想やお礼のメッセージを作成して城西高校に届けた。

例年行っている本校と盲学校、甲府城西高校の3校合同音楽集会は本年度も感染症予防対策のため、ビデオでの鑑賞とした。ビデオには甲府城西高校の学園祭の様子（合唱部、吹奏楽部の発表の様子）が収録されており、音楽の学習グループごとに鑑賞した。鑑賞後には本校の音楽の授業の様子を撮影し、ビデオにまとめて届けた。

インターアクト部との交流では、今年度は自己紹介カードを交換した。その後、好きなものや得意なことなどの情報交換をし、それをもとにクリスマスカードを作り、交換した。自己紹介カードの交換により、互いを知るきっかけを作ることができた。

また、本年度は、甲府城西高校の生徒が本校に来校して行う、体験活動及びボランティア活動を再開することができた。本校の概要説明や校内見学で本校のことを知ってもらい、清掃活動や教材づくりのお手伝いのボランティア活動にも取り組んだ。久しぶりに来校してもらうことができ、本校について知ってもらう貴重な機会となった。



6 成果と課題

(1) 小学部

①池田小学校との交流及び共同学習

本年度は、全学年で直接交流を行うことができた。1～3年生は、初めての直接交流になり、距離をとっての活動ではあったが、顔を合わせて交流を深めることができた。直接交流に向けて、双方の学校での感染症の状況を確認し、保健とも連携をとることで、安全に直接交流を実施することができた。また、オンラインでの交流になることも考慮し、teamsを使用したオンラインの練習を事前に行い、オンラインでの交流にも備えることができた。合奏や合唱など本校ではなかなか聴くことのできないものを聴くことができ、貴重な機会となった。

②新田小学校との交流及び共同学習

打ち合わせ前に事前に子どもたちからの交流内容を送ってもらい、担当職員が確認することでスムーズに打ち合わせを行うことができた。1回目の交流では、体育館に全体が集まってから、ブロックごとの交流会を行った。絵本を読んでくれるところもあれば、ダンスを披露してくれるところもあり、各ブロックの音が気になることがあった。2回目の交流では、全体会を行わずに、ブロックごとに分かれて活動を始めたことにより、交流時間が長く取れて充実した時間が過ごせた。場所もブロックごとに分けたため、音が混ざることもなく活動することができた。

(2) 中学部

今年度もオンラインでの交流を2回行った。ビデオ交換などの間接交流に比べて、直接声をかけ合ったり、同じ時間を共有したりと対面交流に近い形で交流することができた。前日に機器の設定などリハーサルを行うなどし、当日はスムーズに行うことができた。しかし、会の途中でトラブルが起こることもあり、事前にトラブルを想定して対処方法を調べておくことや機器の調整を十分に行っておくことが今後の課題である。

本年度は、敷島中学校の学園祭である『年輪祭』に誘っていただいたり、直接交流の実施を検討したりしたが、感染症予防対策を考慮する中で、作品交流やオンラインでの交流となった。来年度は、感染症の状況や生徒の健康状態を考慮しながら直接交流の実施を検討していきたい。

(3) 高等部

同世代の生徒の作品や学園祭での様子を見ることで、いろいろな活動に取り組んでいることが分かり、本校の生徒にとって良い刺激になった。今年度の交流はビデオや自己紹介カードの交換などの間接的な交流であり、直接生徒同士の交流ができなかったため、相手を意識できるような活動内容を検討するとより良かった。新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことで活動の制限が緩和されてきたため、来年度は直接交流も視野に入れ、計画を立てていく。また、本年度の課題を検討し、間接交流であっても、互いの顔が見えるような交

流、相手を意識できる交流を計画、実施していきたい。

体験活動及びボランティア活動では、感染症予防対策のため、生徒同士の関わりをもつことができなかった。来年度は、感染症の状況を考慮し、感染症予防対策をしながら、生徒同士の関わりができるような活動も取り入れていきたい。

IV 地域における交流活動（地域交流）

1 目的

- (1) 交流を通して、児童生徒の経験を広げ、自己表現できる豊かな人間性を育てる。
- (2) 地域社会の方々に、学校や児童生徒の様子を理解してもらい、共に生きていくことの大切さを学び合う場とする。

2 基本方針

- (1) 交流及び共同学習を計画的、継続的に実施するために、学校や地域の関係団体（関係機関）等の関係者によって構成する連絡組織を設ける。
- (2) お互いが共に活動することで、相互理解を深め共生社会の実現の一助となるよう努める。
- (3) 児童生徒の実態を踏まえ、一人一人が十分に力を発揮でき、成長できる活動が行えるよう創意工夫する。
- (4) 児童生徒の変容、成長等を把握し、地域の方々にわかりやすく伝えながら、その意義を認め合いかわりが深まるようにする。

3 交流先

学 部	地域交流先
寄宿舎	池田地区シニアクラブ連合会
全学部	池田おやなぎ連 池田地区文化協会 新田地区文化協会

4 実施内容

学部	時期	地域交流先	実施学年	指導区分	内容
寄宿舎	7/7	池田地区シニアクラブ連合会	全舎生	舎生会行事	夏まつり
	1/15	池田地区シニアクラブ連合会	月曜日舎生	舎生会活動	新年お楽しみ会
全学部	11/14 ～18	池田おやなぎ連	全学年	自立活動 音楽	甲養祭でお囃子演奏の映像展示
	10/21 ～22	池田地区文化協会	小学部 高等部	自立活動 図画工作 美術	池田地区文化祭作品展示
	10/29	新田地区文化協会	中学部 訪問学級	自立活動 図画工作 美術	新田地区文化祭作品展示

5 地域交流の様子

(1) 寄宿舎

7月7日の夏まつりに池田地区シニアクラブから5名の方に参加いただき、直接交流を実施することができた。「玉入れゲーム」やクイズ、「よっちゃばれ」を踊って交流を深めることができた。

1月15日には、2回目の地域交流会として新年お楽しみ会へ池田地区シニアクラブの6名

の方に参加をしていただき実施した。舎生とシニアクラブの方でペアを組んで「絵かるた取り」で遊んだり、チームを作って「福ねらいポッチャ」をしたりして交流を行った。舎生と会話を楽しんだり、互いに名前を呼びながら応援したりと、交流を深めることができた。



(2) その他

甲養祭では、例年交流校及び地域の方の作品の展示や「おやなぎ連」による太鼓の演奏による交流を行っている。しかし、今年度も感染症予防対策により、「おやなぎ連」による太鼓の演奏は実施できなかった。そのため、8月に池田地区で行われた「池田ふるさと祭り」での演奏を撮影させていただき、映像展示を行った。児童生徒は、映像を見ながら一緒に太鼓を叩くなどして、太鼓の演奏を楽しむことができた。作品交流では、学校間交流を行っている全ての提携校と地域の文化協会の方々から作品をお借りし、展示発表を行った。昨年度と同様に協会の方の見学はできなかったため、展示終了後に展示の様子の写真を送付した。

10月には、池田地区文化協会による池田地区文化祭と新田地区文化協会による新田地区文化祭が開催された。池田地区文化祭には、本校の小学部と高等部の児童生徒の作品を展示し、新田地区文化祭には、本校の中学部と訪問学級の生徒の作品を出展した。甲養祭の展示会場を開放することはできなかったが、地域の方に本校の生徒の作品を見ていただく機会ができた。

6 成果と課題

本年度も、感染症予防対策を講じながら直接交流が実施できてよかった。活動を通して、池田地区シニアクラブの方と舎生がゲームをしたり、話をしたりと交流を深めることができた。直接交流を実施するうえで、感染症予防対策を保健部と確認し、距離を保つような活動内容を考えたり、道具を共有しないように数を用意したりと準備は大変だったが、必要な対策を講じて実施することができた。感染症予防対策のため、お招きする方の人数をしばり、限られた人数の中での交流だったが、今後は人数制限の緩和も検討していきたい。

「おやなぎ連」の方との交流については、甲養祭にお招きできず、交流できない年が続いていたが、本年度は映像展示という形で間接的に交流することができた。来年度は、甲養祭に限らず、交流できる場を設定できるよう検討していきたい。

V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

1 目的

- (1) 居住地の児童生徒と相互に理解を深めることを目的とする。
- (2) その後の地域における直接的、間接的交流に発展することを目指す。

2 実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部1年	昭和町立常永小学校	2	授業見学 「甲養祭」のポスター配付
小学部3年	甲府市立大国小学校	2	「大国まつり」に参加 「甲養祭」のポスター配付
小学部5年	甲州市立塩山南小学校	2	「みなみっこまつり」に参加 「甲養祭」のポスター配付

小学部 5 年	山梨市立加納岩小学校	2	集会に参加 「甲養祭」のポスター配付
小学部 6 年	甲府市立甲運小学校	2	算数の授業見学 「甲養祭」のポスター配付
小学部 6 年	甲府市立羽黒小学校	2	「わくわくランド」に参加 「甲養祭」のポスター配付

3 成果と課題

今年度は6名の児童生徒が居住地校交流を行い、全員が交流校に訪問し、直接交流を実施することができた。インフルエンザの流行により、延期になる場合もあったが、担当者間で連絡を取り合い、柔軟な対応をすることができた。

交流校に訪問すると交流校の先生方や友達に温かく迎え入れてもらい、友達に声をかけられると嬉しそうに笑顔を見せる様子も見られた。直接会うことで、居住地の友達と関わる機会ができ、貴重な経験ができた。活動内容については、普段の授業の様子の見学や行事への参加が主であった。居住地校交流に向けての準備が難しかったり、活動場所（車いすで行ける場所）に制限があったりするなど、直接交流の受け入れに対する不安が感じられる場合もあったが、本校の児童の実態などを丁寧に伝え、打ち合わせをすることで、実施することができた。また、併せて自己紹介カードや甲養祭のポスター、手紙を渡すなど、間接交流も実施した。

今後の居住地校交流の実施に向けて、交流のための特別な場を設定するのではなく、日常の中で自然なかかわりがもてるような交流の実施方法も提案できるようにしていきたい。

居住地校交流は、児童生徒の居住地でのつながりを作っていくために大切なことである。今後の感染症の状況を踏まえながら、交流方法を模索し、居住地校交流を継続していきたい。

I 学校概要

1 学校の概要

学校名	山梨県立あけぼの支援学校
所在地	〒407-004 山梨県韮崎市旭町上條南割 3251-1
電話番号	0551-22-6131
校長名	相山 洋幸
交流及び共同学習主任名	清水 絵美

2 学校教育目標

「いきいきと」を校訓とし、教育と医療・福祉が密接に結びついた特色ある教育を実現し、質の高い自立と社会参加に向けて可能性を最大限に引き出す教育を行う。

II 交流及び共同学習推進会議の経過

1 交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所 属・職 名	備 考
1	山梨県立あけぼの支援学校・教育振興会会長	顧問
2	山梨県立あけぼの支援学校・校長	会長
3	韮崎市旭町上條南割地区・代表区長	副会長
4	韮崎市立甘利小学校・校長	副会長
5	韮崎市旭町上條南割地区・次年度代表区長	
6	韮崎市旭町上條南割地区・老人会会長	
7	韮崎市福祉課・課長	
8	富士川町立増穂南小学校・校長	
9	韮崎市立韮崎西中学校・校長	
10	甲府市立甲府商業高等学校・校長	
11	学校法人日本航空高等学校・校長	
12	山梨県立韮崎工業高等学校・校長	
13	山梨県立あけぼの支援学校・PTA会長	

2 経過

開催時期	内 容
6月8日(木)	一堂には会さず、前年度の地域交流・学校間交流紹介、今年度の地域交流・学校間交流・居住地校交流・交流及び共同学習推進会議開催についてなどの資料を送付し、アンケートにて質問・意見をうかがう。
2月20日(火)	今年度の地域交流・学校間交流・居住地校交流の活動報告、来年度の交流及び共同学習推進会議についてなど。

Ⅲ 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

1 目的

（1）本校の目標

- ①小学校、中学校、高等学校との交流及び共同学習を通して児童生徒の経験を広め、社会性を育み、豊かな人間性を養う。
- ②児童生徒のふれあいを通してお互いの存在を理解し、大切にしていこうという気持ちを育てる。

（2）小学部

- ①同年代の児童との活動を通して、雰囲気を感じて自分の意思や感情を表現することができる。
- ②日頃の活動を生かした交流及び共同学習を行いながら、お互いの理解やかかわり合いを深める。

（3）中学部

- ①同年代の生徒との活動を通して経験を広め、また他校の生徒達の考え方等に触れて視野を広げる。
- ②日常の学習活動や生活とは異なる集団活動の中で、かかわりや刺激を受け止め、生徒自身の意思や感情を表現できるようにする。

（4）高等部

- ①他校の生徒と活動する機会を通して経験を広め、社会性を育てる。
- ②同世代の生徒達との活動を通してお互いを理解し合い、他校の生徒達の考え方等に触れることで、自分の生活を振り返る。
- ③交流及び共同学習会の雰囲気を感じ、他校の生徒からのかかわりに、自分なりの表現で応じることができるようにする。

2 基本方針

（1）本校の基本方針

- ①共に学び合い、共に育ち合う場となるような交流及び共同学習を目指して、その方法や内容等を両校教師の共通理解の基に探る。
- ②提携校の児童生徒に本校児童生徒について理解してもらうと共に、提携校に対する理解も深めるよう努力する。
- ③障害が重度重複化、多様化する中で、一人ひとりを生かすことができる交流及び共同学習のあり方について検討する。
- ④両校児童生徒の反応、変容等を把握し、意義のある交流及び共同学習の実践に努める。
- ⑤保護者や地域社会への啓蒙のための方法について検討する。

（2）小学部

- ①提携校と交流及び共同学習に関する目標を明確にした上で、学習形態や指導内容等を綿密に話し合い、相互理解の基に実施する。
- ②甘利小学校は児童数が多いので、形態や内容等について相互の教師で話し合いを深めながら工夫して実施していく。
- ③増穂南小学校とは、これまでの積み重ねや少人数の良さを生かし、学年交流の形態を主に実施する。

- ④作品展示等の間接交流を工夫して行う。(あけぼの祭、ゆずっ子文化祭、甘利小音楽発表会で作品交流)
- ⑤日常的な学習や活動を生かした交流及び共同学習が実施できるように工夫する。
- ⑥両校職員が交流及び共同学習に対する基本的な考えを共通確認することや互いの意思疎通を図るために、打ち合わせ会では、ビデオ等を活用しながら話し合いを深めていく。
- ⑦交流及び共同学習を楽しみにできるように、ビデオレターや紹介カード、児童情報カード等を作成し、お互いに事前の指導に役立てるようにする。

(3) 中学部

- ①交流及び共同学習の目標や生徒個々の実態を踏まえた上で、活動内容を設定する。
- ②ビデオレターや紹介カードで生徒間の相互理解を図ったり、それぞれの学園祭で生徒の作品を展示し合い、作品を通して理解を深めたりすることができるようにする。
- ③内容や実施方法は両校で綿密に打ち合わせを行い、生徒が主体的に企画・運営する部分を設け、充実した交流及び共同学習ができるように工夫する。

(4) 高等部

- ①お互いの理解をより深めること、お互いに刺激し合うこと、実年齢に伴ったかかわりを考え、交流及び共同学習を行う。
- ②3校間のつながりを大切にしながら交流及び共同学習を実施し、お互いに刺激し合えるように設定する。また、全ての生徒にとって充実した交流及び共同学習会となるように努める。特に、各校ごと1名の生徒を担当として位置付けることでかかわりを深め、相互に生活年齢に即した対応や活動内容の設定等を心がけていく。
- ③3校間で事前に活動の打ち合わせを綿密に行い、生徒間の相互理解が図れるように事前に情報交換をしておく。当日生徒が主体的に運営する部分を設け、充実した交流及び共同学習ができるように工夫する。また、可能な限り事後学習を行う。
- ④第1回目の交流及び共同学習は、本校が企画運営を行う。第2回目は、甲府商業と日本航空高等学校が主体となり、隔年で企画・運営にあたる。

(5) その他

交流及び共同学習の実施にあたっては、教育課程上の位置付けや指導の目標などを明確にして適切な評価を行い、次の交流及び共同学習へ生かしていく。また、個別の指導計画や指導要録へ記載する。

3 提携校

学 部	交流及び共同学習提携校
小学部	韮崎市立甘利小学校（5年生）、富士川町立増穂南小学校
中学部	韮崎市立韮崎西中学校（福祉ボランティア委員）
高等部	甲府市立甲府商業高等学校（インターアクトクラブ）、 学校法人日本航空高等学校（国際クラブ）
学校全体	山梨県立韮崎工業高等学校（木材加工班）

4 実施状況

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容
小	7/4	富士川町立 増穂南小学校 (全校)	小全員	道徳科 特別活動	自己紹介、質問コーナー等 ※オンラインによる交流会を 実施 作品交流 (学園祭等)
	11/1	韮崎市立甘利小学校 (5年生)	小全員	道徳科 特別活動	自己紹介、作品の説明等 ※オンラインによる交流会を 実施 作品交流 (学園祭等)
中	7/4	韮崎市立韮崎西中学校 (福祉ボランティア委員)	中全員	道徳科 総合的な 学習の時間	自己紹介、クイズ、ゲーム等 ※オンラインによる交流会を 実施 作品の交換
高	6月	甲府市立 甲府商業高等学校 (インターアクトクラブ) 学校法人 日本航空高等学校 (国際クラブ)	高全員	道徳科 総合的な 探究の時間	プロフィール票の交換、ビデオ レターの交換による間接交流
	11/27	甲府市立 甲府商業高等学校 (インターアクトクラブ) 学校法人 日本航空高等学校 (国際クラブ)	高全員	道徳科 総合的な 探究の時間	歌、ゲーム等 ※オンラインによる交流会を 実施
全校	6/14	山梨県立 韮崎工業高等学校 (木材加工班)	対象学部 学年	道徳科 特別活動 総合的な 学習の時間 総合的な 探究の時間	自己紹介、クイズ等 ※オンラインによる交流会を 実施
	1/15	山梨県立 韮崎工業高等学校 (木材加工班)	対象学部 学年		教材受け入れ式 ※オンラインによる交流会を 実施

5 学校間交流の様子

(1) 小学部

増穂南小、甘利小とそれぞれ Teams によるオンラインでの交流を行った。本校小学部の6つの学習グループに合わせ、6グループに分かれて行った。7月に行った増穂南小との交流会では本校の教員が進行役を務めた。グループごとに質問コーナーや歌や合奏をしてやりとりを楽しんだり、増穂南小の児童が本校児童に向けて絵本の読み聞かせを行い、じっくり聞き入ったりする様子が見られた。



11月の甘利小との交流では、本校の児童のために甘利小の児童が自分たちで作成してくれた教材を通じ、実際に教材を使っている様子を見てもらいながら感想を伝え合う等の交流会を行った。オンラインであっても児童の表情や言葉から嬉しさや喜びを伝えあい、気持ちを共有することができた。事前に、両校で児童の自己紹介カードを交換し、本校からは児童の様子がわかる映像を送り、お互いの理解をより深められるよう工夫した。

また、事前学習として、本校教員が両校に赴いて本校の様子等を伝える福祉講話を行った。福祉講話では、本校児童生徒の登校の様子や校内の施設の様子等の映像を紹介した。相手校

の児童たちは真剣に映像を見て、自分たちとの学校の違いを見つけて友達に伝えたり、教員の説明を聞きうなずいて納得したりする様子が見られた。スクールバスに車いすを乗せるときの昇降機の動きや保健室には看護師もいること等を知り、驚いていた。本校から車いすを持っていき、車いす操作の体験も行った。2種類の車いす（競技用と普段用）の操作の違いに戸惑っている様子や操作に慣れずに蛇行しながらも興味をもって操作する様子が見られた。甘利小で行ったボッチャ体験では、ボールの投げ方を工夫して意欲的に取り組み、得点に一喜一憂しながら皆で盛り上がり、ボッチャの楽しさを体感できる機会となった。



(2) 中学部

韮崎西中学校福祉ボランティア委員会の生徒19名との交流会を、7月4日（火）に行った。6月中旬には自己紹介の動画撮影や自己紹介カードの交換を行う等の準備を行った。本校の生徒は、自己紹介カードから交流するグループの友達はどうな人かを意識しながら好きな事や好きな音楽を調べたり、活動内容を考えて選んだりする等の様子が見られた。当日はZoomによるオンラインでの交流会の実施となった。両校それぞれ4グループに分かれ、自己紹介の後、グループごとに「トークタイム・心理ゲーム」「ジェスチャークイズ」「好きなこと・得意なこと紹介・発表」「イントロクイズ」を行った。活発に発表したり質問に答えたりし合うことで、画面越しではあるが、互いの存在を近く感じながら、活動に取り組むことができた。生徒達はとても良い表情をして画面を見つめたり、声や音楽に聴き入ったりして、楽しい時間を共有することができた。両校生徒共にリアルタイムで声をかけ合いながら笑顔溢れる交流になった。



(3) 高等部

6月に行った本校高等部、甲府商業高等学校、日本航空高等学校との3校間での1回目の交流会は、感染症蔓延防止のため間接交流の形で行った。1回目の間接交流では、毎年行っているプロフィール交換をし、本校高等部棟の廊下に掲示した。また、メッセージビデオの交換も行い、相手校の学校紹介ビデオを見たり、本校高等部各グループの学習活動の様子を送ったりした。プロフィールカードの内容をビデオメッセージで詳しく知ることができたため、繰り返しビデオメッセージを見て、相手校の生徒への関心を高めることができた。あけぼの祭では各交流相手校が作った活動紹介のポスターを高等部棟の廊下に掲示した。あけぼの祭の期間が終わってもしばらく掲示していたことで、廊下を通りながらポスターに関心をもって立ち止まる生徒の様子が見られた。11月に行った2回目の交流会は、Teamsを使い、3校でオンラインでの交流を行った。本校は、事前に各グループで発表する内容を考え、授業で取り組んできたことや自分に関するクイズ等、楽しめる内容を工夫して設定した。自己紹介やクイズ等をして両校とやりとりを楽しんだり、マジックや音楽発表をしたりして場の雰囲気盛り上げたグループもあった。甲府商業高等学校からはダンス部の発表があり、画面にダンスの様子が映し出されるとじっと視線を向ける生徒や笑顔を見せる生徒の様子が見られた。日本航空高等学校からは、国際クラブの部員数名がタイ出身ということで、クイズ形式でスライドを活用しながらタイについて紹介してくれた。答えを選択肢で提示してくれたので本校の生徒たちもクイズに取り組みやすく、楽しくやりとりしやすい工夫がされていた。また、初めて見聞きする食べものや民族衣装等が写真で紹介され、興味深そうに画面に注目する生徒も多く見られた。本校の生徒達は、普段関わることがない他校の生徒達とゲームやクイズを通して楽しくかかわることができ、また、互いの活動に感想を伝え合うこともでき、交流を通して良い刺激を受けた様子だった。



(4) 蕪崎工業高校との交流

蕪崎工業高等学校とは、毎年本校の児童生徒が使う教材の製作を通じた交流を行ってきた。今年度は、小学部がテレビ台、座位机、移動式の棚、中学部がキャスター付きテーブル、高等部がスライディングブロックの製作を依頼した。

1 回目の交流会は、6 月 14 日（水）にオンラインで両校をつないで実施した。両校の参加児童生徒を 3 つのグループに分け、それぞれのグループごとの自己紹介や質問タイムで盛り上がった。蕪崎工業高等学校生徒からの趣向を凝らした自己紹介やその自己紹介の内容からの質問が出された質問コーナーでは、様子が映し出された画面を本校の児童生徒は興味深そうに見つめていた。本校からは、これまでにいただいた教材の紹介や実際にそれらを日々の学習活動に活用している様子を伝えるなどして、感謝の気持ちを伝えた。終始楽しい雰囲気の中、オンラインでの交流でも両校の児童生徒がお互いの多様性を感じ合い、認め合う良い機会となった。



1 月 15 日（月）には、両校をオンラインでつないで教材教具受け入れ式を実施した。事前に本校の職員が蕪崎工業高校に赴いて教材を受け取り、当日は作成依頼のあった各学習グループの教室に教材を渡した上で蕪崎工業のみなさんとオンラインでつながり、教材作成上の工夫点等を聞いたり、どのように使うのかを見てもらいながら感謝の気持ちを伝えたりした。実際に対面してやりとりすることはできなかったが、画面を通して話を聞いたり、教材を活用している場面を見せたりすることができ、児童生徒達も喜んでいる様子であった。



6 成果と課題

(1) 小学部

増穂南小とのオンライン交流では、事前に 4 年生の児童に向けて福祉講話や車いす体験を行ったことで、本校への理解や交流への期待感が高まったと感じている。交流会当日は、昨年と同様に Teams のブレイクアウトルームを活用し、グループごとに時間を確保し交流が深められるようにした。やりとりの中で、コロナ禍以前の対面での直接交流を体験している児童の中には、「あけぼのに行ってみんなと交流したい。」と話す児童もいた。また、交流後の感想文では「緊張したけど楽しかった。来年の交流が楽しみです。」と書かれたものもあった。こうしたことから、1 年生から 6 年生までが毎年継続して交流することで、交流の経験が積み重ねられ児童の記憶の中に大きく残っていることを実感した。

甘利小学校 5 年生と交流についても、増穂南小と同様に事前に福祉講話を行った。甘利小からは、ICF について話してほしいという要望があったため福祉講話の内容に加えた。身近な状況を具体例として挙げ、環境を工夫することで活動制限がなくなったり緩和されたりすることがあることを伝えた。多くの児童が話を聞いてメモをとったり質問をしたり感想を伝えたりする様子が見られ、本校児童に対する関心の高さを感じた。また、車いす体験やボッチャ体験では実際に体験できたことで、車いす操作の難しさやボッチャの楽しさ等を実感できた様子であった。交流会当日は、オンラインであったが、本校児童のために作成してくれた教材をどのように使っているのか、どんな様子で使っているのかを知ることができた。交流後、甘利小の児童からは、「頑張って作ったものを喜んでもらえて良かった。」等の感想が挙げられたとのことであった。

2 校との交流は、画面越しではあるが、互いに声をかけ合ったり教材を通して相手のことを感じたりすることができたのではないかと感じた。質問コーナーでは互いに言葉を交わして答えたり、イラスト等を使って答えたりして盛り上がっていた。児童の実態や目標に合わせて、交流グループごとに活動内容を工夫した。時間の制限があったので、本校の教員からは「もっと交流したかった。」という感想が聞かれた。

コロナ禍以降、健康面への配慮が特に必要な本校児童の実態をふまえ、感染症予防対策として外部の方と対面での交流ができない現状にある。オンラインの交流では感染の心配

はないが、直接会って声を聴いたり触れ合ったりすることができないことは双方の児童にとって非常に残念なことである。また、教員の多忙化解消のため行事の精選が行われ、打ち合わせ等を通じて交流行事に対する考え方も学校によって差が出てきているように感じる。

そのような状況下であるが、オンラインの交流であっても対面の交流であっても、互いの理解を深め、相手のことを思いやれる交流を目指し、両校にとって、交流することの大切さを再認識していきたい。

(2) 中学部

韮崎西中学校との交流は、感染状況によって対応できるよう様々な方法を模索していたが、オンラインでの交流を実施した。今年度で3回目のビデオ通話でのやりとりであったことから、これまでのノウハウを生かしながらスムーズにオンラインでの交流会を運営することができ、リアルタイムで他校の同年代の生徒の様子や考えに触れることができた。

活動する時間を多く確保するために、4グループを2チームに分けて時間差を設けて実施することで、交流時間を長く設定することができた。今後、直接会って触れ合う交流会の実施を目指しながらも、オンラインでの交流会をどのようにして充実させていくかを検討しながら、限られた時間を有効に使える方法を模索していく必要がある。

交流会において、本校生徒は自身の意思や感情を豊かな表情や言葉、身体の動きで表現することができた。相手校の教員からは、自校の生徒があけぼの支援学校の生徒とのオンラインによるビデオ通話でのやりとりをととても楽しんでいた等の話を伺った。相手校の生徒も本校生徒のことを理解してもらった機会となったのではないかと考えている。

他者への理解を深める観点から、今年度も実施した自己紹介カードの交換や自己紹介動画を引き続き工夫しながら実施することで、交流相手への理解を深められるよう手立てを模索し、工夫して実施していく必要がある。

本校の生徒の実情から、感染症予防対策を十分にしていける必要があるため、交流相手校の生徒が校内に入ることが難しい状況が今後も考えられる。オンラインによる交流会では、ビデオ通話を利用したメッセージのやりとりをしたり、両校で考えた共に活動できる内容を行ったりしながら、生徒たちが達成感を感じられるよう内容を工夫していくことや、オンラインだからこそ得られる成果を求めながら計画していくことが重要であると考えられる。今後も時間を共有する中で、リアルタイムな生徒の反応や感動を共に実感でき、相手への理解を深めることができるような交流にしていきたい。

(3) 高等部

今年度の交流会も昨年度に引き続き、1回目は間接交流、2回目はオンラインでの交流の形式で実施した。交流相手校のビデオレターをそれぞれのタイミングで見ることができたので、お互いを知るという意味でとても有効だった。相手校の自己紹介の映像を見て、楽しそうな表情を見せたり、新鮮な刺激を受ける生徒がいたり、興味関心をもって取り組むことができた。第2回の交流会は、Teams を使ったオンラインで行った。本校は、それぞれのグループで考えた内容を発表し、自己紹介クイズや音楽発表、マジックを披露する等、それぞれの生徒の個性を生かして、場を盛り上げることができた。甲府商業高等学校からは、ダンス部の映像発表があった。日本航空高等学校からは、生徒の数名がタイ出身ということで、タイにまつわるクイズが出題された。それぞれのグループで話し合う姿も見られ、知らないことも多く、興味深くクイズに参加することができた。お互いに質問をしたり、返答したりする中で、自然とコミュニケーションをとることができ、和やかな雰囲気の中で楽しく交流をすることができた。なかなか普段接する機会のない他校の生徒と関わることができ、生徒にとってとても良い刺激になった。事前準備として、3校担当者が集まったオンライン接続テストを行った。また、昨年度の反省を生かし、事前に使用する動画を準備して、各 PC にダウンロードしていたので、とてもスムーズに視聴することができた。これからも互いに、充実した交流が実施できる内容や方法を相手校とも協力しながら検討していきたい。

(4) 全校（韮崎工業高等学校との交流）

6月の交流が今年もオンラインでの交流となったが、相互の様子をリアルタイムに見合う中で本校の児童生徒の様子を知ってもらったり相手校の様子を知ったりすることがで

きた。大型モニターに交流相手を映したものを見合うことで、互いの存在を確認し合いながら、その場で質問したり、答えたりすることができたことはオンラインならではの良さであり、和やかな雰囲気は画面上からでも伝えることができた。オンラインでの交流ではあったが、互いに相手を理解しようとする気持ちや感謝の気持ち、交流の楽しさを味わうことができたと考える。

1月の教材受け入れ式もオンラインで実施することができた。事前に教材を受け取っておいたため、当日は児童生徒が活用している様子を見ていただくことができた。また、葦崎工業高校の生徒からは、作成上の工夫点や大変だったことなどを聞くことができ、教材作成への思いを共有することで、より大切に扱おうという気持ちを高められたと感じている。

以前のように直接会えることが相互理解のためにはとても大切なことであるが、オンラインという方法でもお互いの気持ちを伝えあうことができ、有意義な交流となっていると感じる。今後も、感染症予防対策を講じながら、どのような形で交流を実施することが望ましいのか、両校で話し合いながら計画していきたい。

IV 地域における交流活動（地域交流）

1 目的

(1) 本校の目標

- ①地域の方々と共に活動する中で、生活経験や対人関係を豊かにし、社会に積極的に関わろうとする力を育てる。
- ②地域の方々からのかかわりを受け入れたり、自分からも何らかの表現を返したりして、一緒に活動を楽しむことができるような気持ちを育てる。
- ③地域の方々の趣味や特技を生かすことで交流及び共同学習や授業をより充実させると共に相互理解を促進する。

2 交流先

学 部	地域交流先
小学部	旭町上條南割地区の方々及び老人会の方々
中学部	旭町上條南割地区の方々及び老人会の方々
高等部	旭町上條南割地区の方々及び老人会の方々

3 実施状況

感染症防止対策のため、直接的に触れ合う交流は実施できなかった。昨年度は交流会の実施に替えて、旭町上條南割地区の方々及び老人会の方々に向けたメッセージカードを作成し、送付することで数年ぶりの間接交流が実施できた。しかし、今年度については地域交流を経験したことのない児童生徒が増え、今後の児童生徒の実態を考慮すると、昨年度のようにメッセージカードを送る方法は難しいと考える。

そこで、今年度は学校近隣にあるセブンイレブン（葦崎旭町店）に本校の児童生徒の作品またはそれに代わる掲示物（ブログの記事等）を展示させていただくこと、また、掲示したものと同じものを南割地区（4地区）の回覧版で回覧していただくことを地域の方々と交流する方法として検討を進めている状況である。本校児童生徒のことを知っていただき、理解を深めていただく機会となればと考えている。

4 課題

本校の実情から、来年度以降も感染症防止対策のため直接触れ合う交流会は実施することが難しい状況が考えられる。しかし、地域の方々と繋がり合っていくことは児童生徒にとって今後も必要なことである。今後も地域交流として継続して取り組んでいける一つの方法として、まずは地域の方々に本校の児童生徒を知っていただくことを目的として、地域のお店や回覧板で情報発信をしていくことから始めたい。今後続けていく中で、掲示をしていただくスペースやお店を増やしたり、本校の情報を継続して回覧していただくことでより身近に本校のことを感じたりしていただけるよう、工夫をしていく必要がある。

V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

1 目的

- (1) 同年代の小中学校の児童生徒と共に活動することにより、相互理解を深める。
- (2) 居住地域における交流及び共同学習を通して、日常的な地域での社会参加へ発展させていく。
- (3) 将来的な視点に立ち、より充実した人間関係の基盤を整える。

2 実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施内容
小学部・1年	甲府市立伊勢小学校	1	音楽（手あそびや楽器演奏）
小学部・3年	甲府市立池田小学校	1	音楽（合唱や楽器演奏の鑑賞）
小学部・3年	北杜市立長坂小学校	1	国語、算数、体育、音楽、道徳
小学部・5年	北杜市立須玉小学校	2	朝の会、国語（推薦図書の紹介）、算数、理科、外国語、体育
小学部・5年	北杜市立白州小学校	1	特別活動、理科（自由研究の発表）
中学部・2年	韮崎市立韮崎西中学校	1	理科、英語、社会、音楽

3 成果と課題

小学部1年生の児童1名は、特別活動として音楽活動に参加した。手遊びをしたり、一緒に歌を歌ったり楽器を鳴らし合ったりした。初めての交流だったが、たくさん話しかけられ、笑顔で応えていた。

小学部3年生の児童1名は、音楽の授業に参加した。相手校の児童の合唱や楽器演奏を鑑賞した。最初は緊張していた相手校の児童も、時間が経つにつれてたくさん話しかけてくれるようになり、本校児童も終始笑顔で参加することができた。

もう一人の小学部3年生の児童1名は、給食を含めた一日通しての交流を行った。国語、算数、体育、音楽、道徳の授業に参加した。数学では、すでに学習した内容であったため自信を持って発言していた。音楽ではリコーダーを持参し、「ソ」の音を担当し一緒に演奏することができた。体育ではボッチャに取り組んだ。保護者と教師は遠くから見守り、子どもたちだけで活動することができた。

小学部5年生の児童1名は、夏休み明けの学級活動と理科の授業に参加した。友達が車いすを押してくれたり、他の児童が話しかけてくれたりと、自然に触れ合う様子が見られ、関わりを深めることができた。音楽室で4つのゲームをし、勝つたびに「イエーイ！」と言ったり手を挙げてガッツポーズをしたりして、緊張せずに楽しんでいた。理科では、5年生が夏休みに取り組んだ自由研究の発表を聞いた。たくさんの発表を真剣に聞いていた。低学年時から交流を継続しているため、5年生の教室にすっかり溶け込んでいた。

もう一人の小学部5年生の児童1名は、給食も含めた一日通しての交流を行った。朝の会、理科、国語、算数、外国語、体育の授業に参加した。大きい集団の中でも物おじせずに自己

紹介ができ、休み時間には友達に校舎内を案内してもらっていた。国語では、自分の推薦する図書を紹介文を発表した。算数では、友達と分担して計算機で人口密度を調べた。理科の実験にも参加しビーカーの水を捨てる等の活動ができた。予習をしていたため、おおよその内容を理解でき、学習活動を楽しむことができた。

今年度、新規に居住地校交流を実施する児童生徒は1名だった。昨年度、居住地校交流を実施した5名のうち4名は、引き続き継続して実施することができた。児童生徒によっては、実施予定直前に交流相手校で感染症が見られたため、保護者に判断していただき、交流は延期や中止となったケースもあった。計画していた回数よりも実施回数が少なくなってしまう児童生徒もいたが、その都度、担当者間で連絡をとり予定を調整し再度計画することで実施することができた。係としては、学校に伺うことが難しい場合を想定し、一つの方法としてオンラインでの交流も必要に応じて計画していくことを提案する等、検討している。

来年度も、感染延防止対策に努めながら、さらに居住地校交流実施希望者を増やしていきけるように、保護者に向けて情報提供を行っていききたい。また、互いに有意義な交流ができるように児童生徒や保護者の願いを大切にしながら居住地校と丁寧な打ち合わせや情報交換を行い、同年代の小中学校の児童生徒と共に活動する機会を増やしていききたい。そして相互理解をより深められるようにしたい。

I 学校概要

1 学校の概要

学校名	山梨県立わかば支援学校
所在地	〒400-0226 南アルプス市有野 3346-3
電話番号	055-285-1750
校長名	小林 勝
交流及び共同学習主任名	富田 夏紀

2 学校教育目標

たくましい力 ゆたかな心

II 交流及び共同学習推進会議の経過

1 交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所 属・職 名	備 考
1	南アルプス市教育委員会・教育長	
2	南アルプス市社会福祉協議会地域福祉課・課長	
3	南アルプス市源地区自治会連合会（交流及び共同学習推進会議担当）・有野南自治会長	会長
4	南アルプス市立白根源小学校・校長	副会長
5	南アルプス市立楡形中学校・校長	
6	南アルプス市立白根御勅使中学校・校長	
7	早川町立早川中学校・校長	
8	山梨県立農林高等学校・校長	
9	山梨英和中学校・高等学校・校長	
10	山梨県立白根高等学校・校長	
11	山梨県立わかば支援学校・校長	

2 経 過

開催月日	内 容
5月29日（月）	今年度の交流計画について
2月2日（金）	今年度の実施報告及びまとめや次年度の方向性について

Ⅲ 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

1 目的

（1）全体

小学校、中学校、高等学校との交流及び共同学習を通して、

- ①様々な活動を通じて、より豊かな人間性を養い、協調性や社会性を育てる。
- ②交流提携校の児童生徒に障害のある児童生徒への理解や認識を深めるようにする。
- ③互いに仲間としての意識をもち、共に学ぶ楽しさを味わうとともに、好ましい人間関係を育てる。

（2）小学部

- ①互いの存在を知り合うことができる。
- ②同学年児童とともに活動する中で、楽しく過ごすことができる。
- ③友だちを意識し、自分からかかわろうとしたり、かかわりを受け入れようとしたりする気持ちを育む。

（3）中学部

- ①同世代の生徒との交流及び共同学習を行う中でより豊かな人間性を養う。
- ②同世代の生徒とのかかわりを広げ、共に学ぶ楽しさを味わう。
- ③交流提携校の生徒や教師に本校の生徒への理解や認識が深まるようにする。

（4）高等部

- ①互いの存在を知り合い、同世代の生徒の考え方等にふれることで、同じ高校生としての意識を高める。
- ②同世代の生徒との活動や作品交流を通して、互いの理解を深める。
- ③活動を通して、互いの個性を尊重しながら、人とかかわろうとする気持ちを育てる。

2 提携校

学 部	交流及び共同学習提携校
小学部	南アルプス市立白根源小学校
中学部	南アルプス市立楡形中学校、南アルプス市立白根御勅使中学校、早川町立早川中学校
高等部	山梨県立農林高等学校、山梨英和中学校・高等学校、山梨県立白根高等学校

3 実施状況

学 部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内 容
小	10月10日(火)	南アルプス市立	1年	遊びの指導	ふれあい遊びなど
	11月24日(金)	白根源小学校	2年	遊びの指導	ふれあい遊びなど

	11月16日(木)	南アルプス市立 白根源小学校	3年	生活単元 学習	発表
	12月5日(火)		4年	生活単元 学習	ゲーム
	10月24日(火)		5年	生活単元 学習	ゲーム
	11月29日(水)		6年	生活単元 学習	ゲームなど
中	7月13日(木)	南アルプス市立 橿形中学校	1年	生活単元 学習	歌、ゲームなど
	11月24日(金)			生活単元 学習	歌、ダンス、クイズ
	7月4日(火)	南アルプス市立 白根御勅使中学校	2年	生活単元 学習	ダンス、ゲーム
	12月12日(火)			生活単元 学習	歌、ゲーム
	10月17日(火)	早川町立 早川中学校	3年	生活単元 学習	ゲーム、発表
高	6月7日(水) 12月6日(水)	山梨県立 農林高等学校	1年	生活単元 学習	直接交流(農林) 直接交流(わかば)
	6月30日(金) ~7月1日(土)	山梨英和中校・ 高等学校	1~ 3年	美術・ 作業学習	作品交流
	10月17日(火)		2年	特別活動	代表交流
	12月7日(木)		2年	音楽	全体交流 (マンドリン演奏)
	12月12日(火) ~15日(金) 12月18日(月) ~22日(金)	山梨県立 白根高等学校	1~ 3年	美術・ 作業学習	作品交流

4 学校間交流の様子

(1) 小学部

① 1年生

- ・事前学習では、当日見通しをもって取り組めるように日時や内容を確認したり、自己紹介カードを見たりして期待感を高めた。
- ・当日は、本校は体育で取り組んでいる『ゆめ体操』を、白根源小学校は運動会で行ったダンスを発表し合った。本校の児童は迫力のあるダンスに釘付けで、立ち上がって一緒に体を動かす児童もいた。

- ・ふれあい遊びやボール運びでは、多くの児童が白根源小学校の友達と楽しくかかわることができ、良い表情をしていた。バルーンは小学校では経験しない活動であることから、全員が参加してとても盛り上がった。各活動が終わるたびに「もう1回やりたい」という声がたくさん上がり、とても楽しんでいる様子だった。



② 2年生

- ・事前学習では、日時や内容等を確認し、期待感をもって当日の交流につながるようにした。
- ・交流の始めは、お互いに「グータッチハイタッチ」をして、「よろしくね。」のあいさつをし、和やかなスタートとなった。前半は、本校で遊びの指導の学習で行っていた「どんどんばし」の遊びを3グループに分かれ、順番に行いながら交流した。曲に合わせて橋に見立てた平均台を列になって歩いたり、途中にある友達が作ってくれた橋では、捕まらないかとドキドキしながら通ったりした。友達と一緒に橋役になるなど、遊びを通して自然なかかわりが見られ、とても楽しそうだった。後半も3グループに分かれて、「ゴロゴロドカン」のボール遊びをした。隣の友達に優しくボールを渡したり、もらったりしながら活動した。源小学校の子どもたちは、わかばの子どもたちのペースに合わせてくれながら優しくかかわってくれた。交流が終わった後、源小の子どもたちがわかばの2年生の教室を見学した。友達に自分の好きな物を紹介する児童もいた。
- ・当日、白根源小の子どもたちから松ぼっくりけん玉を一人一人にいただいた。子どもたちはとても喜んでいて。後日みんなでお礼のお手紙を書き、源小に届けた。



③ 3年生

- ・事前学習では、交流の日時と内容について学習し、その中で白根源小から届いた自己紹介カードも紹介した。交流会への期待感を高めるため、自己紹介や発表の練習はクラス毎に当日まで朝の会等で取り組んだ。
- ・交流会前半は、3グループに分かれ自己紹介を行った。白根源小の児童はイラスト入りのカードを使って、本校の児童は好きな食べ物をイラストやクイズにしたり、得意なことを披露したり、打ち解けた雰囲気の中でお互いを知ることができた。その後、運動会や学習で取り組んだ活動を発表し合った。白根源小の発表『ソーラン節』では、元気な掛け声と力強い動きを本校の児童もよく見ていた。本校は、『第二校歌』と『ゆうき体操』を発表し、最後に両校一緒に『ゆうき体操』をした。
- ・初めての対面での交流であったが、終わりの会ではリラックスした表情が見られ、別れ際には「楽しかった」「また、来てね」等の声が方々で聞かれた。



④ 4年生

- ・事前学習では交流校や日時、内容について学習し、自己紹介カードを作成した。
- ・交流内容は「自己紹介」「ジェスチャーゲーム」「だるまさんがころんだ」で、細かいルールについても白根源小学校の児童が考えてくれた。
- ・当日は白根源小学校の児童が司会進行を行い、本校の児童に寄り添った声かけなどの対応を受けた。
- ・本校の児童の様子としては、積極的に話しかける児童がいたり、話しかけることができなくても活動自体を楽しんだりする児童の姿が見られた。



⑤ 5年生

- ・事前学習では、白根源小学校の友達について予め用意いただいた画像データで紹介した。また当日行う予定の「集まりっこゲーム」の練習を行った。「はじめの会」を学級委員長の司会進行で行うため、しっかり練習して期待感を高めた。
- ・交流当日は、「はじめの会」後、各班でお互いに自己紹介したり、ゲームリーダーを決めてかけ声の練習をしたりした。久々の直接交流ということもあり、お互い緊張感も強かったが、好きな物などが共有できると徐々に笑顔も見られるようになった。
- ・「集まりっこゲーム」では、本校と白根源小学校の児童が一つの班としてまとまり活動できた。ゲームとしては、初めての児童がほとんどだったが、簡単なルールのため、理解しやすく活動としてもダイナミックなので楽しく活動でき、また班という小集団でまとまることのできた。



⑥ 6年生

- ・事前学習では、これまでの交流の写真を振り返り、今年度の交流の活動内容や自分の役割について取り組んだ。また事前に自己紹介カードを作成し、白根源小学校の6年生と交換をすることで実際に会えることに期待感をもっていた。
- ・交流当日は緊張している様子だったが、一緒にゲームや発表をする中で徐々に緊張がほぐれ、嬉しそうに活動に取り組む姿が見られた。
- ・活動後、白根源小学校の児童から本校の児童に話しかけに来てくれ、恥ずかしそうにしながらも会話を楽しむことができた。



(2) 中学部

① 1年生：橿形中学校との交流

5月から6月にかけて、橿形中学校の場所や特色などについて本校と比べながら事前学習をした。交流内容を確認後、ゲームやクイズ、歌や歓迎の看板作りなどの係を各

クラスで分担し、必要なものを考えて作ったり、案を出し合ったりして準備を行った。また、楡形中学校からの自己紹介カードを廊下に掲示し、交流への期待感をもつことができた。第1回の交流は、本校の体育館で行った。本校の司会で進行し、お互いの校歌を対面で披露し合い、『〇×クイズ』では学校に関するクイズを出し合った。『ボール運びゲーム』では両校の合同チームに分かれ得点を競い合い、力を合わせて全力で走る姿や相手を気遣いペースを合わせる姿が見られた。2回目は楡形総合体育館で行った。広い体育館に響く楡形中学校の合唱に静かに聞き入り、本校は学習発表会で披露した『ザ・武田節』のダンスを元気いっぱい踊ることができた。その後のクイズやゲームも第1回同様楽しむ姿が見られた。2回とも交流の終わりにお互いに感想発表を行い、交流で楽しかったことや感謝の気持ち、また会いたいという思いを伝えることができた。



② 2年生：白根御勅使中学校との交流

1回目は本校体育館において本校生徒主体で行った。中学部に入って初めての直接交流だったが、事前学習として自己紹介を作成して交換したり、ゲームや発表等の準備を入念に行ったりしたことで、見通しをもてたり、期待感を高めることができたりした。

当日は学校紹介、ダンス、ボール運びゲームを行った。学校紹介では、相手校の生徒が応援演技を披露し、生徒たちは本校では見られないパフォーマンスを見ることができ、喜ぶ様子があった。ダンスは何度か集会で踊ったことのある「愚蓮華」で、楽しい雰囲気だった。「ボール運びゲーム」では、実際に相手校の生徒との共同の活動で緊張や恥ずかしそうな様子もあったが、ほとんどの生徒が参加することができた。

2回目は白根御勅使中主体で、相手校に赴いて行った。チームごとに自己紹介をした後、ゲームを行った。玉入れでは相手校生徒が本校生徒に合わせてかごの高さを変えてくれたり、ゲームで使用した道具を相手校の生徒が本校生徒に手渡してくれたりするなど、交流学习のねらいであるお互いを尊重し合う場面が1回目よりも多く見られた。



③ 3年生：早川中学校

中学部に入学して初めての直接交流を10月17日に早川中学校と行うことができた。フルーツバスケット、きりなしオセロの2つのレクリエーション、両校の発表会を行った。

フルーツバスケットでは、早川中学校の生徒の動きの速さに驚きながらも、負けまいと頑張る様子が見られた。きりなしオセロは混合チームで行い、勝利に向けて1枚でも多くオセロを返そうと白熱した戦いが繰り広げられた。本校の発表は、第一校歌と第二校歌を披露し、特に第二校歌では曲に合わせて身振り手振りで元気よく表現した。早川中学校は学校や町の紹介とクイズを出してくれ、本校の生徒はきれいな景色に見とれたり、クイズに積極的に参加したりと、短い時間ではあったが、充実した時間を過ごすことができた。



(3) 高等部

① 1年生：農林高等学校との交流

6月7日と12月6日に農林高校農業クラブと4年ぶりの直接交流を実施した。1回目は農林高校へ行き、田植えの体験をさせてもらった。初めて田んぼに入り田植えをする生徒もいる中、農林高校の生徒にリードしてもらい、やり方を教わりながら息を合わせて田植えをすることができた。ペアとなる生徒の写真を事前に交換していたので、当日はやや緊張しながらも名前を呼び合ったり、恥ずかしそうに手を差しのべたりする場面もあった。

2回目は、植えた稲から採れたお米を農林高校に持参してもらい、調理活動と会食を行った。時期的にすべての生徒が参加するのは難しかったが、とても賑やかな活動となった。カレー、豚汁、スイートポテトの3つのグループに分かれ、協力して調理をすることができた。1回目の交流から名前を覚えている生徒もいて、久しぶりの再会にとっても良い表情が見られた。会食後には、植えた稲を育て収穫するまでの過程を農林高校の生徒がスライドで発表し、同年代の立派な発表に良い刺激を受けた。別れ際は互いに良い表情で手を振る姿が見られて、改めて直接交流の良さを実感した。事後学習として1、2回目とも農林高校にお礼状を書き、振り返りと共に相手を思い出したり、感謝を伝えたりした。



② 2年生：山梨英和中学校・高等学校との交流

6月に行われた作品交流では、高等部の美術制作や作業学習で制作した作品を英和高校の学園祭に展示した。生徒の皆さんや来場した方々に観ていただき、感想を送っていただいた。10月の代表交流では、本校高等部2年の学年委員と英和高校マンドリン部とで交流を行い、それぞれの学校の様子を伝え合った。互いの学校に関するクイズを出し合ったり、全体交流に向けて話し合ったりして、他校の生徒とかかわりをもてる貴重な時間とな

った。12月の全体交流は、本校として初めて学年全員で英和高校に赴き、交流を実施した。英和高校の学校見学では、普段見ることないチャペルに釘付けになっている生徒が多く、貴重な体験となった。マンドリン部とのセッションでは、「花は咲く」をマンドリンの演奏に合わせて、わかばの生徒が歌い合同演奏会を行った。マンドリン部の先生の指揮に合わせて、笑顔で演奏したり、歌ったりしている生徒の姿に直接交流の良さを改めて感じた。交流後はお互いにメッセージ交換をし、感謝を伝えたり、これからの健闘を祈ったりして互いの学校についての理解を深めることができた。



③白根高等学校との交流（作品交流）

・白根高等学校の作品展

12月12日～15日に、本校美術室において、白根高校の美術部、写真部、書道部の作品展を行った。「迫力のある絵がたくさんあった」「字が上手」「写真がきれい」などの感想があった。短時間ではあったが、同世代の生徒の作品を鑑賞して刺激を受け、互いに頑張っていることを知る貴重な機会となった。

・白根高等学校での作品展

12月18日～12月22日に白根高校で作品展を行った。本校高等部の美術作品や作業班で作った製品を展示し、活動の様子を知っていただく機会となった。



5 成果と課題

(1) 小学部：白根源小学校との交流

①1年生

- ・本校の授業で行っていた内容を取り入れたこともあり、初めての交流会であったが、多くの児童が見通しをもち、落ち着いて活動することができた。早めに活動内容について連絡を取り合い、白根源小学校でも事前に音楽の授業で取り組んでくれたため、当日はみんなで楽しむことができた。
- ・手をつなぐ活動は自然と距離が近づいてよかった。ボール運びは、白根源小学校の児童にとっては相手の様子を見て自分の力を調整する運動になり、良い経験になった。

- ・普段の授業では活動に入れなかった児童も、交流会では大きな集団の力で自分から参加することができた。
- ・対面し、直接交流できたことがとてもよかった。来年度も、本校で取り組んでいる内容を中心に直接交流できるとよい。

② 2年生

- ・直接会って交流することができて良かった。
- ・本校で行っていた内容を取り入れながら交流を行ったので、友達存在を気にしながら児童が主体的に活動し、自然に関わることができた。また、始めの活動の際、ホールに入ることができない本校児童の所に白根源小の児童が近づいて、ハイタッチをしてくれる微笑ましい姿も見られた。ボール遊びは、白根源小の子どもたちの生の声の合図で行ったが、聞き取りにくさもあったため、今後は曲を流して行うなど工夫したい。
- ・来年度も学習で取り組んでいる内容を元にしながらか交流できると良い。

③ 3年生

- ・初めての直接交流だったので、交流校の友達のことを知ろうというねらいで、グループに分かれ、自己紹介の時間を長めに設定した。自分のことを知ってもらうために、イラストを使ったり、得意なことなどを実演したり工夫した自己紹介ができ、お互いに打ち解け、和やかな雰囲気の中でお互いの発表ができた。
- ・合唱や大勢での踊りを見る機会がないので、白根源小の発表に興味をもって見る児童が多かった。また、日頃本校の児童が学習の中で取り組んでいる体操を全員で行うことができたことも良かった。
- ・来年度は、体育的内容等一緒に活動できる内容での直接交流ができると良い。

④ 4年生

- ・事前の自己紹介カードの作成で児童の交流に対する期待感が高まった。
- ・初めての直接交流であったが、交流相手校の児童が積極的に関わってくれ、本校児童も交流に参加しやすかった。
- ・今回は交流相手校に活動内容の企画をお願いしてしまったが、今後は活動内容を半分ずつ各校で考えるなど工夫していきたい。

⑤ 5年生

- ・本校、白根源小学校とも他の行事と日程が近かったが、簡単な自己紹介カードのやりとりを行い交流への期待感を持たせることで、意識付けを行うことができた。
- ・本校が交流会場ということもあり、本校が主体で計画した。今回、久しぶりに直接交流ができて良かった。
- ・来年度は6年生になり、最後の交流となるので、本校児童が小学校へ出向いて交流したり、白根源小学校の児童にもゲームプランを考えてもらうなど企画に参加してもらったりして、より良い交流にしていきたい。

⑥ 6年生

- ・オンラインや自己紹介カードのみではなく直接会えたことで嬉しそうに活動する児童が多くおり、良い経験となった。
- ・目の前で白根源小学校のフラッグを使った発表を見ることができ、迫力を間近に感じることができた。
- ・感染症の状況にもよるが、直接交流のほうが白根源小学校の児童を意識することができ、より有意義なものになるのではと感じた。

⑦ 小学部全体として

今年度は、年度初めに両校の職員が集まり学年毎に今年度の学校間交流についての打ち合わせを実施することができ、お互いの学校の児童の様子を知ることができたり、日程や活動内容等を話し合ったりしたことでその後、円滑に学校間交流が進められた学年が多かった。感染症の流行が心配される時期の実施であったが、事前に感染状況を確認し、感染症対策をした上で全学年が直接交流を実施することができ、お互いの存在を知ることができたり、一緒に活動することの楽しさを共有したりすることができた。低学年・中学年は本校の授業で取り組んでいる内容を取り入れることで、見通しをもって落ち着いて活動し、白根源小の児童を意識したり、関わりを受け入れたりする様子が見られた。高学年では、学年を意識した今年度とは違った交流の方法等についての意見が出された。今年度の成果や課題を生かして、来年度も両校の児童が共に学び合える有意義な学校間交流が実施できると良い。

(2) 中学部

① 1年生：櫛形中学校との交流

- ・1回目は本校が主体であったため、事前学習を複数回行い、全クラスで役割を分担し、見通しをもちながら進めることができた。また、自己紹介カードを交換し掲示することで、交流への期待感をもつことができた。
- ・2回とも直接交流をすることができ、達成感や次回への期待感を感じている様子が見られた。今後もその時の状況を加味しながら、生徒たちにとって交流が有意義なものになるようにしていきたい。

② 2年生：白根御勅使中学校との交流

- ・事前学習を通し、ねらいを理解し見通しをもって活動に参加することができた。
- ・中学部になって初めて直接交流をすることができた。1回目は本校主体ということもあり、事前学習として自己紹介を作成、交換したり、ゲームや発表等の準備を入念に行ったことで、見通しをもてたり、期待感を高めることができたりした。
- ・2回目は相手校主体の交流で、白根御勅使中に赴いて行った。1回目よりも、直接か関わる場面が多く、チームごとに自己紹介の時間でお互いの話を丁寧に聞いたり、ゲームで使用した道具を相手校の生徒が本校生徒に手渡したりする場面や、玉入れでかごに届かなかった本校生徒に合わせて相手校生徒がかごの高さを変えるなど、互いを尊重し合う機会を多く持てたことがよかった。

③ 3年生：早川中学校

- ・ 中学部になって初めて直接交流をすることができた。本校主体ということもあり、事前学習として自己紹介を作成、交換したり、ゲームや発表等の準備を入念に行ったりしたことで、見通しをもてたり、期待感を高めることができたりした。
- ・ 本校主体だったので、来年度はお互いが主体となる活動内容を計画できると良い。

(3) 高等部

① 1年生：農林高等学校との交流

- ・ 4年ぶりの直接交流だったが、相手の顔や存在を実際に感じての交流は生徒にとっても非常に良かった。2回とも直接できたので、生徒同士の関係が深まる場面があったり、互いの学校を見ることができたりと良い学びの機会になった。
- ・ 田植え後の稲の様子を教えてもらえたこと、とても良い発表の仕方を見ることができたことは良い刺激だった。
- ・ 校外での学習（1回目）と本校が主催（2回目）という緊張感を、また同年代の関わりは生徒たちにとっては普段あまりない機会であり、良い経験となった。
- ・ 2度に渡る交流会の間に日々の学習の交流（オンラインでのやりとりやメール、手紙等）ができるとさらに互いへの関心が深まるかもしれない。
- ・ 生徒たちが企画に携わる機会があるとさらに深い交流になるのではないかな。
- ・ 田植え体験は貴重な体験なので、今後も続けられると良い。
- ・ 調理活動は材料費などの負担があるので、両校で確認しながら進めていきたい。

② 2年生：山梨英和中学校・高等学校との交流

- ・ 作品交流では、英和高校の学園祭に生徒の作った製品や作品を展示していただき、本校の生徒を知っていただく良い機会となった。できればお互いに作品交換をし合えると良い。
- ・ 代表交流では、両校の代表者が10名程集まり、お互いの学校の紹介をしたり、次回の交流に向けての話し合いを生徒主体でできたりして良かった。
- ・ 全体交流では、生徒たちで話し合っただけの活動を実施できたことが良かった。本校の生徒は普段見ることのない場所を見て興味関心を深めたり、合同演奏会通して一緒に活動することの楽しさを感じられたりしたことで、お互いの理解を深めることができた。

③ 白根高等学校との交流（作品交流）

- ・ 間接的な交流ではあるが、同世代の生徒の作品を鑑賞し、お互いの学校に興味関心をもったり、お互いの存在を知ることができたりする貴重な機会となった。
- ・ お互いの様子が見えるよう、ビデオや写真等で制作している様子や鑑賞している様子が見えると良い。

IV 地域における交流活動（地域交流）

1 目的

(1) 全体

本校児童生徒と地域の人々とのふれあいを通し、互いを理解し、共に学ぶ。

(2) 小学部

間接的な交流を通して、児童への理解や認識を深める。

(3) 中学部

地域の人々とのふれあいを通して互いを理解し、伝統や文化などにふれる。

(4) 高等部

①活動を通して、地域への関心を高める。

②地域の方々の考え方にふれ、互いの理解を深める。

(5) 寄宿舎

地域社会の人々と共に活動することにより、相互理解を深める。

2 交流先

学部	地域交流先
小学部	南アルプス市福祉協議会の関係団体
中学部	南アルプス市福祉協議会の関係団体
高等部	南アルプス市福祉協議会の関係団体
寄宿舎	山梨県立白根高等学校奉仕部 有野区、菊乃扇の会

3 実施状況

学部	時期	地域交流先	実施学年	指導区分	内容
小	9月26日(火)	南アルプス市社会福祉協議会	1	あそび	読み聞かせ
	7月13日(木)		2		わらべ歌遊び
中	9月20日(水)	南アルプス市社会福祉協議会	3	自立活動	笑いヨガ
高	12月11日(月)	南アルプス市社会福祉協議会	3	美術	絵手紙の制作
寄宿	6月7日(水)	白根高校奉仕部	舎生	余暇活動	レク・歓談
	10月4日(水)			余暇活動	レク・歓談
	7月19日(水)	菊乃扇の会		余暇活動	盆踊り体験

4 地域交流の様子

(1) 小学部：南アルプス市社会福祉協議会

今年度は地域のボランティア団体の方に来校していただき、1年生は、おはなしの会『ムーミン』の方々、2年生は、わらべうた会『ゆうなの木』の方々と交流した。大型絵本やペープサート、エプロンシアターなど児童の実態に合った内容を工夫してくださり、児童は

興味を持って見たり、聞いたりしていた。いろいろな手遊びや歌を教えてもらうことで楽しい時間を過ごし、地域の方と触れ合うことができた。



(2) 中学部：南アルプス市社会福祉協議会

講師に来校していただき、「笑いヨガ」を行った。生徒たちは事前学習を通して講師の先生にお会いすることを心待ちにしており、当日は20名全員で参加することができた。手拍子や声出し、スカーフを使うなど次々と活動を展開していただき、生徒たちは終始楽しそうに元気よく動き回っていて、自然と笑顔あふれる空間となった。活動の最後には、これまでコロナ禍で制限のあった生徒同士の触れあいを取り入れることもでき、生徒にとっても、教師にとっても有意義な時間となった。



(3) 高等部：南アルプス市社会福祉協議会

12月11日に、絵手紙の講師、南アルプス市社会福祉協議会の方に来校していただき、地域交流を行った。絵手紙を書く時に気をつけることやポイントなどを教えていただき、実物のバナナや柿を見ながら絵手紙を制作した。色の違いなど先生に教えていただいたとおりよく実物を観察して集中して取り組んでいた。出来上がった絵手紙は、社会福祉協議会を通して、南アルプス市のデイサービスに来られる方々にお渡しした。



(4) 寄宿舎

① 白根高校奉仕部

6月7日と10月4日の2回、白根高校奉仕部と4年ぶりの直接交流を行った。第1回

の交流は、本校が主体となって計画をした。事前学習として自己紹介カードを交換し、過去の交流の様子を見ながらイメージを作った。当日はグループに分かれ一人一人自己紹介をしてから、レクリエーション(玉入れゲーム)や寄宿舎案内・見学、茶話会や歓談と有意義な時間を過ごすことができた。はじめは緊張した様子もみられたが、活動に取り組む中でだんだんと表情も明るくなり、同年代の仲間との楽しい時間を過ごすことができていた。第2回の交流では、白根高校が考えた内容で、「じゃんけん列車」と「ボール運びリレー」を行った。舎生が理解しやすい内容のレクリエーションを考えてきてくれたこともあり、伸び伸びと参加する姿が見られた。第1回で会った生徒のことをお互いによく覚えていて、会話も弾み良い雰囲気であら交流を終えることができた。舎生からは、「来年も交流できることが楽しみ」という感想が多く聞かれた。



②菊乃扇の会

7月19日に菊乃扇の会との交流を4年振りに開催した。菊乃扇の会の方々に動作を教えていただきながら盆踊りを体験した。舎生の中には初めて盆踊りを体験した人も多く、夏の風物詩に触れる良い機会になった。体験後はおやつを食べながら歓談をして、それぞれグループごとに積極的に交流ができた。



5 成果と課題

(1) 小学部：南アルプス市社会福祉協議会

今年度は南アルプス市社会福祉協議会に登録している地域のボランティア団体の方々に来校していただき交流ができた。事前に児童の実態や好きな活動や絵本等をお伝えしたこと、また、ボランティア団体の方も慣れていってよかったことで、最初から児童の気持ちをつかんで次々に楽しい内容で進めてくださった。今後も南アルプス市社会福祉協議会の方と連携しながら、児童の実態に即した内容で地域の方々と交流できると良い。

(2) 中学部：南アルプス市社会福祉協議会

コロナ禍が明けて初めての直接交流を行うことができた。事前打ち合わせを入念にしたことで、講師からは場所や空間、活動内容などのイメージをもちやすかったと言っていた

だいた。当日は生徒たちの反応を見ながら次々と活動を展開していただき、自然と生徒たちの笑顔あふれる空間となった。1時間程度の活動だったが、生徒にとっても教師にとっても有意義な時間を過ごすことができた。

(3) 高等部：南アルプス市社会福祉協議会

デイサービスに来られるお年寄りに喜んでもらえる絵手紙を描こうということで、どんな文を絵にそえたらよいか事前に考え、高齢の方を敬う気持ちが込められた絵手紙を作ることができた。また、講師が描いた絵手紙を見せていただき、絵手紙に対する興味関心が高まった。講師の先生へのお礼に生徒たちは合唱を披露し、喜んでいただいた。完成した絵手紙は社会福祉協議会を通してデイサービス事業所に渡していただいたが、直接お渡しできるとよりよかった。地域交流としてのあり方を検討していきたい。

(4) 寄宿舍

①白根高校奉仕部

コロナ禍が明けて、4年ぶりに直接交流を行うことができた。直接交流を経験したことがない舎生も多かったため、事前学習などを通してイメージを深めてから実施できた。対面でレクリエーションをしたり歓談をしたりすることができて、舎生の交流に対する意識が高まったと感じた。全員で楽しめる内容で実施したことで、2回とも良い雰囲気で行うことができた。よりお互いが積極的に関わるようにしていきたい。

②有野区・菊乃扇の会

今年度の反省や課題を踏まえながら、来年度以降もどのような内容で行っていくのか検討していく。

V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

1 目的

- (1) 居住する地域の同年代の児童生徒と共に学び、好ましい人間関係を築く。
- (2) 交流及び共同学習を通して、地域の児童生徒やその保護者、教職員の本校児童生徒への理解が深まるようにする。
- (3) 将来居住する地域の一員として豊かに生活していくための基礎をつくる。

2 実施児童・生徒

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施内容
小学部1年	南アルプス市立 白根東小学校	2	10月に1回実施。音楽の授業に参加した。自己紹介を兼ねたリズム遊びでは、リズムに合わせて時々手拍子をしていた。じゃんけん列車や身体表現と一緒に活動することが難しかったが、最後の合唱では教室に戻り、動画を見ながら聴くことができた。休み時間はたくさんの友達が「一緒に遊ぼう」と声をかけてくれ、本児と一緒に歩いたり、丸太渡りやブランコなどをしたりして過ごすことができた。 2月に2回目の交流を実施予定。
小学部2年	南アルプス市立 白根東小学校	2	10月に1回実施。中休みの時間に友達と一緒に図書室に行くことからスタートした。とても緊張していたが、しっかり自己紹介ができた。音楽の授業に参加する中で、徐々に慣れ、友達と一緒に手をつないで活動したり、列になって歩いたりしながらリズム遊びなどをして楽しむ姿が見られた。 2月に2回目の交流を実施予定。
小学部3年	昭和町立押原小学校	1	10月に実施。図工の授業に参加した。得意な紙ちぎりで一緒にちぎり絵を作った。ちぎった紙を交流校の児童に貼り付けてもらい、作品を完成させることができた。活動後は、ハイタッチをしたり、一緒に駆けまわったりして関わりを持つことができた。
小学部4年	甲斐市立双葉西小学校	2	2学期に1回実施。毎年の積み重ねで、顔見知りである友達に囲まれ、緊張することなく和やかな雰囲気の中で外国語、図画工作、図書の授業に参加することができた。 2月に2回目の交流を実施予定。

小学部 5 年	甲斐市立双葉東小学校	1	10月に実施。音楽では合奏を行った。周りのリズムに合わせて、楽しみながら合奏に取り組んだ。休み時間には、交流校の児童が準備してくれた遊びで一緒に遊んだ。互いを意識し合いながら楽しく活動を実施することができた。
小学部 6 年	北杜市立明野小学校	1	10月に実施。玄関に着くと、友達が出迎えてくれて、嬉しそうであった。レクリエーションでは、一緒に取り組んだことがあるドッジボールやケイドロに取り組んだ。はじめは見ているだけであったが、様子を見ながら友達や先生が声をかけてくれ、一緒に楽しむことができた。
中学部 1 年	昭和町立押原中学校	1	2学期に実施。体育でバレーボールのパス練習などを行った。小学校からの友達に声を掛けられ、一緒に準備をしたり、活動をしたり楽しそうに活動する様子が見られた。
中学部 2 年	北杜市立長坂中学校	1	11月に実施。朝の会を見学後、美術と音楽の授業に参加した。朝の会から嬉しそうな様子で、授業も本人の興味関心のある内容だったこともあり、楽しく参加することができた。グループ活動では同じグループの生徒が教えてくれたり、ハイタッチしたりする様子もあり、楽しい交流となった。
中学部 3 年	甲斐市立敷島中学校	1	11月に実施。交流学級の特別活動に参加し、レクリエーション活動を通して交流を行う予定だったが、感染症予防対策のため内容を変更し、合唱祭を鑑賞した。合唱を聴き、高音と低音の重なりに感動したと感想を伝えることができた。
中学部 3 年	北杜市立明野中学校	1	10月に実施。朝の会は3年学級へ行き、合唱を聴かせていただいた。特別支援学級では、社会科の学習で都道府県の学習をした。交流後には、都道府県に色を付ける活動が楽しかったと手紙で感想を伝えることができた。

3 成果と課題

今年度は予定通り直接交流をすることができてよかった。新規の児童生徒、継続だが初めて直接交流する児童生徒は、初めての場所で緊張する様子が見られたが、交流相手校の児童生徒の関わりによって活動に入ることができた。継続の児童生徒は交流相手校の授業や行事などにスムーズに参加したり、お互いを意識してかかわったりすることができた。昨年度までの積み重ねにより、お互いのかかわりに変化が見られた見

童生徒も多い。一方、学年が上がるにつれ、交流相手校の教科の授業に入ることが難しくなるという課題も出てきている。交流の内容や参加方法などについて両校で打ち合わせを丁寧に行っていきたい。また、年に1、2回の数時間の交流になるため、実態に応じて、直接交流の他にも、手紙や写真を交換するなど工夫し、お互いを理解することにつなげていきたい。引き続き地域とつながっていくためにも、継続して交流を積み重ねていけるとよい。

I 学校概要

1 学校の概要

学校名	わかば支援学校ふじかわ分校
所在地	〒400-0601 南巨摩郡富士川町鰯沢 5673-12
電話番号	0556-27-0067
校長名	小林 勝
交流及び共同学習主任名	一瀬 恭子

2 学校教育目標

たくましい力 ゆたかな心

II 交流及び共同学習推進会議の経過

1 交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所 属 ・ 職 名	備 考
1	富士川町教育委員会 教育長	
2	富士川町社会福祉協議会 事務局長	
3	富士川町中部区 区長	
4	鰯沢奉仕活動の会 会長	
5	下部地区民生委員児童福祉部 会長	会 長
6	社会福祉法人くにみ会 ゆあーずあんどゆうず 施設長	副会長
7	中部区活性化プロジェクト 代表	
8	富士川町立鰯沢小学校 校長	
9	富士川町立鰯沢中学校 校長	
10	わかば支援学校 校長	
11	わかば支援学校ふじかわ分校 副校長	

2 経過

開催月日	推 進 会 議 の 内 容
5月17日(水)	運営要綱、役員選出、事業計画、意見交換
2月26日(月)	本年度の交流及び共同学習について報告、来年度に向けて

Ⅲ 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

1 目的

小学校、中学校との交流をととして

- (1) 様々な活動を通して、より豊かな人間性を養い、協調性や社会性を育てる。
- (2) 互いに仲間としての意識をもち、共に学ぶ楽しさを味わうとともにお互いを尊重しあう態度を養う。

2 提携校

学 部	交流及び共同学習提携校
小学部	富士川町立鰺沢小学校
中学部	富士川町立鰺沢中学校

3 実施状況

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容
小	6月30日（金）	鰺沢小学校 （5学年）	全学年	遊びの指導	自転車リレー 風船つかみゲーム
	11月29日（水）			特別活動	箱積みゲーム 風船飛ばしゲーム 宝探しゲーム
中	6月21日（水）	鰺沢中学校 （1学年）	全学年	特別活動	自己紹介カード 部活動紹介カードの 交換
	11月15日（水）			体育 音楽	ポッチャ 和太鼓の演奏

4 学校間交流の様子

(1) 小学部

鰺沢小学校5年生11名と2回、直接交流を行った。直接交流に先立ち、お互いに自己紹介カードを交換して廊下に掲示した。

1回目の交流では、例年通りふじかわ分枝に鰺沢小児童が来校し、分枝児童にとってなじみのある題材を設定して交流を行った。はじめの会では、互いに緊張していたものの、「各校の紹介」で鰺沢小は学校紹介、本校は校歌を披露した。その後、赤、青、白のグループごとに分かれて自己紹介をし、そのグループで活動を行った。一つ目の種目の「じてんしゃでゴー！」は、本校児童が休み時間に楽しんでいる二人乗りの大型三輪車を使用したもので、目新しい遊具に鰺沢小の児童は興味を示していた。両校の児童で二人一組になり、相談してこぎ手と乗り手になってのリレーを行った。鰺沢小の児童は大型自転車に乗り慣れていないこともあり、操作に四苦八苦し、それをみんなで応援して雰囲気が大いに盛り上がった。本校の



児童がすいすいと乗り回る姿に、鰯沢小の児童が驚く場面も見られた。

「風船つかみリレー」は、袋に詰められたたくさんの風船が送風機を回すと一気に空中に舞い上がる仕組みになっており、鰯沢小の児童が率先して風船をつかみに走り回っていたのが印象的だった。交流会の終了後には、児童数人が輪になって自然に関わって遊び始めていたが、普段はなかなかない、新鮮な姿が見られた。



2回目は、インフルエンザの流行が心配されたが、本校児童が鰯沢小学校へ行き、直接交流を行うことができた。「各校の発表」では、鰯沢小学校の児童が昔話「金太郎」を朗読し、手話を交えて発表してくれた。本校は、分校まつりで取り組んだ



「おいもの体操」を発表した。互いの発表中は、真剣に見合う様子が見られた。そのあと、鰯沢小学校の児童が企画、運営をし「宝さがし」「風船パタパタ」「段ボールつみつき」の3つのゲームを行った。「宝さがし」は、カラーコーンを持ち上げるとカラーボールがある仕組み、「風船パタパタ」は、二人一組でうちわを仰いで風船を落とさないようにする、段ボールつみつきは、時間内に段ボールを崩れないように積み上げるルールで、どのゲームも、ちょうど良い難易度で協力して楽しめるものだった。また、1回目の交流と同じ赤・青・白のグループで、両校とも同じメンバーだったため、リラックスして取り組むことができた。



グループの中でも、ペアになって活動した児童は、相互に名前を呼び、声をかけ合うことも多かった。折り紙や絵など、数多くの景品を鰯沢小学校の児童が用意してくれた。本校の児童は景品を選ぶことを楽しみ、鰯沢小学校の児童は、自分が作った景品を紹介するなどして自然にやりとりをしながら関わることができた。

(2) 中学部

鰯沢中学校1年生との交流を行った。1回目は間接交流、2回目は鰯沢中学校での直接交流を実施した。

1回目はお互いの自己紹介カードの交換及び各学校の教室や部活動の紹介などのポスターの交換を行った。生徒たちは交流相手校から届いた特別教室や部活動などの紹介に関心をもって読んでいた。自分の学校には無く、鰯沢中学校にはある特別教室など、何に使うのかなど興味を抱いていた。また、自己紹介カードに書かれた部活動と、学校紹介に書かれた部活動を照らし合わせたり、自分ならどの部活動をやってみたいかなど、感想を述べたりすることができた。その後、自己紹介や学校紹介への感想やお礼をまとめて交換することができた。

2回目は、鰯沢中学校で障がい者スポーツであるボッチャを行った。鰯沢中学校の生徒はボッチャが初めてということで、分校の生徒がルールを説明した後、3チームに分かれてリーグ戦で行った。各チームで順番や投げる球筋などを相談しながら行う姿が見られた。ボッチャボールは独特の重さがあり、投げ方によって玉の勢いをコントロールすることができる

が、慣れないと難しいところがある。分校の生徒がねらったところに投げるのを見て拍手が起こる場面があった。次に、お互いが練習している太鼓の演奏を披露し合った。分校からは分校まつりに発表した演奏を、鰺沢中学校は鰺沢ばやしの発表を行った。分校の生徒は音楽の授業で太鼓をたたくことに慣れ親しんでいる活動である。鰺沢中の生徒に鰺沢ばやしの叩きかたを口伝とともに教えてもらい、全員で鰺沢ばやしを少したたくことができた。また、練習中も分校の生徒のリズムに合わせて鰺沢中学校の生徒が篠笛を吹いてくれる場面もあり、みな嬉しそうだった。



5 成果と課題

(1) 小学部

鰺沢小で交流する児童は毎年5年生なので交流する相手は毎年変わるが、この形での交流及び共同学習が長年続いてきたことや、互いの児童の人数が近いこともあり、スムーズに交流ができています。年度初めに担当者同士で打ち合わせを行い、昨年の様子を踏まえて2回の交流及び共同学習の主な内容を決めておくことで、互いに見通しをもって計画を立てて臨むことができた。

2回目の交流は鰺沢小の児童が中心となってグループごとに計画を立ててくれたが、内容が本校の児童にとって大変わかりやすく、また、一緒に楽しめるものであったことにとっても驚いた。分校の児童を思い浮かべながら、内容を考えたり景品をたくさん作ってくれたりしたことを思うと大変嬉しい気持ちになった。

また、児童同士の自然な関わりが見られたのが大変印象的であったため、自由な時間があってもよいのではという意見もあった。今年はお互いの体育館での活動のみとなっていたが、学校を案内しあったり、休み時間に校庭で一緒に遊んだりするような時間を設けていくことも考えていきたい。

交流時期については、両校とも行事の関係や夏の暑さ、冬の感染症流行等により、設定できる日が限られてしまっているのが現状である。互いの学校も担当者も多忙な中だが、交流及び共同学習の意義を確認しあい、今後も両校にとってより良い活動にしていきたいと考えている。

(2) 中学部

本校の生徒がボッチャを体育で学習していた競技であったため、ルールなどの説明をしながら一緒に楽しむことができた。また、音楽の授業で太鼓を学習し、叩くことに慣れていたので、鰺沢中学校の生徒が教えてくれるリズムをそのまま叩くことができ、日ごろの授業の成果を共同学習で生かすことができた。

今年度は、1回目は間接交流、2回目は直接交流を行った。昨年度は1回目に本校を会場にして本校の企画による交流を行い、2回目は鯉沢中学校を会場に鯉沢中学校の企画による交流を行った。今年度は対面で会うことがないまま、直接交流の内容を考えることとなったため、難しさがあった。一度顔を合わせて互いを知ったうえで計画を立てられるよう、検討していきたい。

IV 地域における交流活動（地域交流）

1 目的

- (1) 地域の方々に障害のある児童生徒の様子や本校の教育活動に理解を深めてもらう。
- (2) 地域の方々との交流活動を通じ、児童生徒が積極的に社会と関わろうとする力を育む。
- (3) 児童生徒の生活経験を広め地域の方々との豊かな関係を築く。

2 交流先

学部	地域交流先
小学部	中部区活性化プロジェクト、下部地区民生委員児童福祉部
中学部	鯉沢奉仕活動の会、下部地区民生委員児童福祉部

3 実施状況

学部	月 日	地域交流先	実施学年	教科等区分	実施内容
小	11月8日（水）	中部区活性化プロジェクト	全学年	特別活動	サツマイモの収穫
小 中	10月4日（水）	下部地区民生委員児童福祉部	全学年	遊びの指導（小） 特別活動（中）	「昔の遊び」 わらべうた、竹馬、 お手玉、紙でっぼう、 ブンブンコマ等
中	12月6日（水）	鯉沢奉仕活動の会	全学年	生活単元学習	「みみ」づくり

4 地域交流の様子

(1) 中部区活性化プロジェクトとの交流

これまでは本校の畑でサツマイモを栽培していたが、鳥獣被害があったことを相談すると、学校からバスで数分のところにある、中部区活性化プロジェクトで作っている畑のサツマイモを収穫させていただけることになった。分校まつりでサツマイモを題材にした劇を行ったばかりの児童にとって、みんなでバスで出かけてサツマイモ掘りをする体験は、大変楽しみで特別感を感じている様子だった。

当日は中部区活性化プロジェクトの会長さんご夫妻にサツマイモの掘り方を教えていただきながら、たくさんのサツマイモを収穫することができた。富士川の河川敷にある広い畑は開放感があり、児童たちは収穫後の畑で走り回って楽しむこともできた。



(2) 下部地区民生委員児童福部との交流

感染症予防対策のため、しばらく直接交流ができていなかったが、今年は本校に民生委員の方8名が来校されて昔の遊びを教えもらいながら一緒に活動することができた。はじめに、全員で「せんたく」というわらべうたあそびを行った。二人一組で始め、途中から全員で大きな輪になると、会場の一体感が得られて大変盛り上がった。その輪のまま、会長さんが手遊びを教えてください、いろいろなバージョンの「大きな栗の木の下で」を楽しんだ。

その後、竹馬、お手玉、紙でっぼう、ブンブンコマ等のブースに分かれ、児童生徒は思い思いの昔の遊びを楽しんだ。竹馬は今年初めて体験させていただき、多くの児童生徒が挑戦していた。途中、紙ひこうきを担当されていた委員の方が紙ひこうき飛ばし大会を提案してくださり、急遽行うことになった。マイクをその方に預けて進行をしていただくと、ほぼすべての児童生徒が参加し、大盛り上がりの紙ひこうき飛ばし大会となった。

終わりの会では、互いに感想を発表しあったが、短時間の中で楽しい交流ができたことに皆喜んでいる様子だった。お礼に、本校の中学生が作業学習で作ったマリーゴールドで染めた日本手ぬぐいをプレゼントすると、大変喜んでいただけた。



(3) 鯉沢奉仕活動の会

鯉沢奉仕活動の会の方5名と中学部生徒3名で、郷土料理の「みみ」づくりを行った。生徒は事前に、地域のお店に「みみ」の作り方を体験に行ったり、学校で練習をしたりして臨んだ。地域の方に教わりながら野菜を切り、徐々に切り方がうまくなると褒められ感心されている場面もあり、和気あいあいとした雰囲気の中での活動であった。ごぼうのさきがきも事前に練習したので、地域の方に見守られながら包丁を使ってさきがきをすることができた。みみづくりも地域の方と一緒に伸ばしたり、成形したりするのも上手に行うことができた。地域の方も生徒の個性を尊重し、様々な形の「みみ」を笑顔で受け入れてくれた。

今回は外でかまどを用意して煮炊きを行った。ガス火よりもおいしいという感想が寄せられた。出来上がったみみを全員で会食し、その時に「みみ」のいわれや鯉沢の十谷地区に伝わる郷土料理であるお話を伺った。みみは多めに作ったため、奉仕活動の会の方から、小学部の子にも食べさせてあげたいと言ってもらい、食べた児童たちからもおいしかったと感想が寄せられた。



(4) その他

今年度の交流及び共同学習推進会議の委員の方からのご厚意で、ご自身で製作された自然のうさぎの姿がたくさん収められているDVDを寄贈いただいた。音楽と映像が素晴らしい内容のもので、音楽などの授業で視聴し、活用させていただいた。



5 成果と課題

(1) 中部区活性化プロジェクトとの交流

中部区活性化プロジェクトの皆さんが畑で栽培したサツマイモを快く提供していただいたことに大変感謝申しあげたい。学校から近く、広々とした畑で芋掘りの体験ができたことは児童にとっても大変良い経験となった。中部区活性化プロジェクトは会長さんを中心に、地域の結びつきを大切に様々な活動をしている会である。分校との交流活動が平日であることや、会員の高齢化など、なかなか他の会員の方が交流の場に顔を出せない現状がある。しかし、今回、担当者が事前にプロジェクトの草取り作業に参加させていただく中で、本校の児童のためにサツマイモ畑を皆さんで整備していただいたり、「たくさん掘っていきなよ」と声をかけていただいたりし、本校の存在を皆さんに認識いただいていることが分かった。依田さんによると、活性化プロジェクトの活動は年々難しくなっているとのことだが、学校の一番近くにあるこの地域との交流活動を大切に考え、担当者同士が連携を取りながらその年で最善の方法で交流を続けていきたいと確認しあった。

(2) 下部地区民生委員児童福祉部との交流

数年ぶりの直接交流であったが、会長さんと連絡を取り合い、相談しながら計画を進めることができた。竹馬や紙でっぼうなど、やってみたい遊びを事前にお伝えすると、工面してご用意していただき、大変ありがたかった。また、委員の方の発案で急遽行った紙ひこうき飛ばし大会が大変盛り上がったので、次年度以降はこのような催しも取り入れていけるよう検討していきたい。直接お会いして共に時間を過ごし、大変有意義なかかわりをもつことができたので、できるかぎり直接交流を実施していきたい。

会を開催するにあたり、身延町役場の方が連絡調整や当日の送迎をしてくださったため、スムーズな交流が行えた。高齢の方もいるため、感染症の流行時期を避けるなど日程を調整する必要性を踏まえ、早めに町役場の担当者の方と連絡を取り合っていきたい。

(3) 鯉沢奉仕活動の会との交流

令和元年度に実施して以来、4年ぶりということで地域の方も初めてという方が多かった。生徒たちもみみ作りは初めてであった。また、コロナ渦の影響で調理学習が行われておらず、調理器具の名称や扱い方などあいまいな部分も多く戸惑った生徒もいた。継続的に関わりをもつこと、安全に調理をすること、指示を聞きながら正しい道具の使い方を学習することの大切さを実感した。

今回みみづくりに精通した方に、みみの作り方やいわれを伺うことができ、地域に伝わるみみの由来などを確認することができた。継続的に郷土料理と一緒に調理して食べることで、郷土に対する関心を深め、地域の方との絆を深めることができると考える。

V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

1 目的

- (1) 居住している地域の小学校・中学校の児童生徒とともに学び、理解を深める。
- (2) 居住している地域の方々への理解や交流及び共同学習を促すきっかけとしていく。
- (3) 学校卒業後の地域での生活を円滑にすすめられるように地域の間人関係を継続し、深める。

2 実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部2年	市川三郷町立市川小学校	2	音楽（楽器） 特別活動（お楽しみ会）
小学部4年	南部町立睦合小学校	3	図画工作（粘土） 総合的な学習（新聞紙遊び）
小学部6年	身延町立身延清稜小学校	2	図画工作（七夕飾り作り） 音楽（リコーダー）
小学部6年	富士川町立鯉沢小学校	2	音楽（楽器） 体育（玉入れ等）

3 成果と課題

(1) 小学部

① 2年生

市川小学校と交流及び共同学習を行った。1回目は音楽、2回目は特別活動に参加した。2回とも、活動の始めに集団に入ることが難しかったが、居住地校の児童が折り紙や絵本などを本児に見せてくれ、少しずつ集団に入っていくことができるようになった。

音楽で楽器を鳴らしたり、特別活動のお楽しみ会でみんなの中に入って鬼ごっこをしたりと、本児も集団活動に少しの時間だが参加することができた。お楽しみ会の内容は交流校の児童が計画した鬼ごっこ、ドッジボールなどで、本児にとってはルールの理解が難しい部分もあったが、鬼ごっこはみんなと一緒に走り回り、笑顔も見られた。支援学級に立ち寄ると、気持ちが落ち着いたのかおしゃべりが出始め安心して過ごしている様子が見られた。大きな集団への参加がまだ難しい面があるため、本児に合った交流内容を検討していきたい。

② 4年生

今年度も睦合小学校と交流及び共同学習を行った。1学期は図工で、自分のペースに粘土をちぎりながら、楽しそうな表情で粘土を楽しむことができた。「これ見て!」「これ、なんだ?」など小学校の児童から話しかけられ、友だちの関わりを受け入れている様子が見られた。授業の最後は、みんなと一緒に写真を撮ることができた。2学期は総合的な学習の時間を行い、新聞紙を使ったゲームに取り組んだ。いくつかのゲームの中からサッカーを選び、ゴールを決めたときには小学校の児童から「すごーい」と歓声が上がると嬉しそうだった。交流も4年目になり、慣れた様子で頭を下げて挨拶をしたり、スムーズに教室まで行ったりすることができた。3学期に3回目を予定している。

③ 6年生

一人は、身延清稜小学校と交流及び共同学習を行った。1学期は4年振りだったこともあり、はじめは互いに緊張している様子だった。図工の七夕飾り作りをして一緒に活動するうちに、次第に話しかけるなどやりとりする姿が見られた。2学期は、好きな「トーマス」の曲をリコーダーで演奏するため、難しい指使いを事前に頑張って練習した。今回が最後の交流だと知ると、互いに残念そうな様子が見られた。交流後には、集合写真を見て「〇〇さん」と名前を言うなど、交流が印象に残っているようだった。

もう一人は、鰯沢小学校と交流及び共同学習を行った。1学期は、集合場所で「待っていたよ」と声をかけてもらい、児童たちの輪にスムーズに入っていた。音楽では、歌に合わせてシンバルを打って楽しんでいた。2学期は体育で玉入れや箱運びなどを行い、交流校の児童と一緒に活動でき、楽しめた様子だった。授業後は用具の片付けまで行き、帰る際には校長先生に「ありがとうございました」と挨拶をすることもできた。交流校の児童からももらった手紙には、「これからもよろしくね」「いつも楽しかったよ」といった言葉があり、小学校の児童も楽しみにしていたことが感じられた。

I 学校概要

1 学校の概要

学校名	山梨県立やまびこ支援学校
所在地	〒409-0618 山梨県大月市猿橋町桂台三丁目31-1
電話番号	0554-23-1943
校長名	小嶋 加津美
交流及び共同学習主任名	山口 清美

2 学校教育目標

自立と社会参加を目指すために個に応じた指導の充実を図り、家庭や地域と連携して主体性をもって生きる心豊かな人間を育てる。

II 交流及び共同学習推進会議の経過

1 交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所 属・職 名	備 考
1	大月市立猿橋小学校・校長	委員長
2	大月市立猿橋中学校・校長	
3	山梨県立上野原高等学校・校長	
4	山梨県立都留高等学校・校長	
5	美容室「Happiness」・代表	
6	大月市デイサービスセンター「やまゆり」・施設長	
7	大月市保健活動推進委員会「オオツキッチン」・会長	
8	大月商店街協同組合・理事長	
9	山梨県立やまびこ支援学校・校長	

2 年間計画

開催時期	内 容
5月30日	推進会議委員の委嘱、委員長の選出、令和5年度の実施計画について
1月26日	令和5年度交流及び共同学習の実施報告、令和6年度の計画について

III 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

1 目 的

交流校と本校の児童生徒が共同学習やふれあい活動を通して互いに理解し合い、人間関係の形成や社会参加等の力を身に付ける。

(1) 小学部

直接あるいは間接的な交流を通して、相手のことに気付いたり意識して関わったりする経験をする。

(2) 中学部

直接あるいは間接的に学びあう活動を通して、自己表現をしたり、相手を受け入れたりして人間関係の幅を広げる。

(3) 高等部

直接あるいは間接的な学びあう活動の中で、相手との関わり方を考えたり、相手を認めたりして、望ましい社会性を身に付ける。

2 基本方針

- ・各学部で年度当初に学校間交流についての意義や目的等について共通確認を行い、教育課程上の位置づけ等について検討を行う。
- ・児童生徒の実態や発達段階に合わせて、活動形態、活動内容等を工夫する。
- ・相手先と連絡を密に取り合い、双方のねらい等について、共有する。
- ・単発な活動となるのではなく、継続的な取り組みとなるように、事前学習や事後学習も含めて一体的、継続な活動となるように計画する。
- ・共同学習という側面を考え、各教科等の指導計画に基づいて実施を検討し、特別活動のみの計画とならないようにする。
- ・交流終了後は、児童生徒の様子について、個別のねらいに即した適切な評価を行う。

3 提携校

学部	交流及び共同学習提携校
小学部	大月市立猿橋小学校
中学部	大月市立猿橋中学校
高等部	山梨県立上野原高等学校

4 実施計画

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容
小	5月	猿橋小学校	全学年	国語	プロフィール交換
	6月	猿橋小学校	全学年	特別活動 生活科	学校探検
	10月	猿橋小学校	全学年	特別活動 生活科	学校探検、お店やさん
中	6月	猿橋中学校	全学年	音楽	オンラインにて音楽の授業
	11月	猿橋中学校	全学年	特別活動	オンラインにて小グループに分かれてゲームやクイズなどを実施
高	7月	上野原高等学校	全学年	職業Ⅱ 自立活動	各作業班にて活動
	11月	上野原高等学校	全学年	職業Ⅱ 自立活動	各作業班にて活動

5 学校間交流の様子

(1) 小学部【猿橋小学校（3年生）との交流及び共同学習】



今年度は、プロフィール交換と2回の直接的な交流を実施した。1回目の交流会では、本校に猿橋小学校児童が来校し、やまびこの児童が学校を案内し探検する交流を実施した。各教室を見て歩きながら、それぞれの教室に課された課題を児童同士が協力して取り組むことができた。2回目の交流では本校児童が猿橋小学校を訪問し、学校探検と、お店屋さん（くじびき、ボウリング、もぐらたたきなど）活動を実施した。2回目の交流ということもあり、本校児童の名前を呼ぶ児童も複数名おり、親しみをもって交流できた。交流の教材も本校の児童に合わせたものを用意していただき、児童の実態に合わせて活用することができた。また、事後学習として手紙の交換をして振り返ることができた。

(2) 中学部【猿橋中学校奉仕部との交流及び共同学習】



1回目の交流は、オンラインで音楽の授業交流を行った。本校の音楽授業に合わせて猿橋中学校の生徒がハンドベルで同じ曲を事前に練習してくれ、互いの演奏を聴き合ったり、小グループに別れ、歌の表現を一緒に考えたりするなどの活動を行い、充実した内容の交流となった。

2回目は感染症予防対策のため、急遽オンラインでの交流となった。猿橋中学校の生徒達は、久しぶりの対面での交流に向け多くの時間を掛けて準備してくれていたのととても残念であったが、小グループに分かれてのクイズ大会やカレンダー作りなど、オンラインでも楽しめるよう工夫された活動で交流することができた。事前事後学習として自己紹介カードの作成や手紙で感想の交換を行うことができた。

(3) 高等部

【上野原高校との交流及び共同学習】

上野原高校で福祉の授業を選択している3年生17名、看護の授業を選択している3年生5名が来校し、職業Ⅱ（重複障害学級は自立活動）における直接交流を計2回実施した。3つの作業班（工芸、サービス、農園）とA組（自立活動）に分かれて参加し、共に活動を行った。移動時間短縮と感染症予防対策のため、はじめの会とおわりの会はそれぞれの教室をオンラインで繋ぎ、リモートで行った。はじめは緊張している様子の生徒も、日頃から取り組んでいる活動と一緒にすることで、作業に必要な会話を交わしながら少しずつ打ち解ける様子が見られた。2回目の交流では、1回目と同じメンバー構成にすることで、本校生徒が上野原高校生に作業を教えたり、お互いに意見を出し合ったりしながら、協力して作業を進める様子が見られた。本校の授業の様子を知ってもらうとともに、同世代の高校生同士で学び合う機会となった。また、重複障害の生徒にとっては、普段接する生徒や教師だけでなく、上野原高校の生徒からの関わりを受け入れて一緒に活動する貴重な機会となった。事前学習では、国語の時間を使ってプロフィール表を作成し、交換し合った。また、各作業班で作った製品と高校生が授業の中で制作したプレゼントを贈り合ったり、交流後には、国語の時間にお礼の手紙を書いて送ったりした。



【都留高等学校との交流及び共同学習】

都留高等学校との作品交流を実施した。都留高等学校文化局発表において本校高等部生徒が美術の授業で制作した作品を展示した（2日間）。また、本校においても都留高等学校美術部生徒の作品を展示した（4日間）。お互いの作品を見合い、作品を見た感想を相互に送り合った。都留高校の生徒からは作品に対する感想の他、自分たちの創作意欲を駆り立てられたといった言葉も寄せられた。作品を通して相手の思いや考えについて理解しようとしたり、様々な表現手法や技法に興味をもって鑑賞したりする様子が見られ、お互いの理解を深めるきっかけとなった。



6 成果と課題

(1) 小学部

昨年度とは違い、直接会って交流することができた。久しぶりに対面での交流となり、大きな集団など普段とは違う環境の中であったが、事前学習の取り組みや必要に応じて教師が支援することで、スムーズな交流をすることができた。活動量など内容を精選していきたい。

(2) 中学部

1回目の交流は、事前に自己紹介シートを交換することで、自分のペアになる友達を意識して交流を楽しみにしている様子が見られた。本校で取り組んでいた題材を扱ったことで、ダンスやハンドベルなど内容が分かりやすく、意欲的に取り組むことができた。小グループに分かれて歌の表現を一緒に考える活動では、共同学習を意識し、お互いに一体感を感じながら、充実した交流となった。

2回目は急遽オンラインでの交流となったが、猿橋中学校の生徒が、本校の生徒に分かりやすく楽しんでもらうためにどうすれば良いかということを考えてくれ、小グループに別れてクイズ大会やカレンダー作りなどの活動を実施した。

交流の反省では、オンラインでの実施の場合、小グループでの活動が分かりやすく良かった。」という意見があった一方、「重複障害の生徒などは、画面越しの相手を意識することは難しかった。」などの意見もあり、オンラインでの実施のメリットとデメリットが浮き彫りとなった。来年度は、2回とも対面で実施することができるよう、感染症予防対策の観点から実施時期や猿橋中学校の生徒の移動手段等について検討したい。

(3) 高等部

他の授業や行事との兼ね合いで両日とも半日の交流会となった。2回とも同じメンバーでの活動だったことや、日頃から取り組んでいる作業班での活動内容であったことから、活動を通して自然と会話が生まれ、回を重ねることで自信をもって関わることができた。交流相手校の生徒からのアドバイスを、作業班での活動に生かすこともでき、共同学習の意義を感じることもできた。重複障害の生徒も、普段とは違う環境や相手からのかかわりを受け入れて一緒に活動する様子が見られ、関わりの広がりを感じることもできた。また、休憩時間や見送りの時間などの時間に、同年代の高校生らしい会話を交わしたり談笑したりする姿も見られ、設定した時間以外の自然な関わりも重要であることを再確認できた。事前にプロフィール交換を行ったことで、話のきっかけづくりになったり期待感が生まれたりし、当日のスムーズな交流に繋げることができた。

全体会をオンラインで行ったことで移動時間の短縮に繋がり、活動に時間をかけることができた。また、比較的少人数で活動や感想発表を行ったため、堂々と取り組むことができた生徒もいた。生徒によってはコミュニケーションや対人面に苦手意識がある生徒もいるため、今後もオンラインの活用や手紙、VTRでの間接的な交流など、生徒の実態に即した形で実施できる方法を模索していきたい。

IV 地域における交流活動（地域交流）

1 目的

地域の方々と関わることを通して、経験を広げ、地域社会の中で主体的に生きていく力を身に付ける。

(1) 小学部

地域の方々と場を共有し、活動を楽しみながら様々な人とふれあう経験をする。

(2) 中学部

地域の方々と共に活動し、関わりを深めていくことを通して、対人関係の幅を広げる。

(3) 高等部

地域の方々と共に活動し、地域社会への理解を深めていくことを通して、地域社会の一

員という気持ちをもつ。

2 基本方針

- ・各学部で年度当初に地域交流についての意義や目的等について共通確認を行い、教育課程上の位置づけ等について検討を行う。
- ・地域の方と連携を大切にし、連絡を密に取り合いながら協力を得ていくようにする。
- ・交流相手先については、学校、地域、児童生徒の実態に応じて総務部、各学部で相談の上決定する。
- ・学校周辺の地域社会とのつながりを意識し、積極的に情報発信を行う。
- ・単発の活動となるのではなく、継続的な取り組みとなるように各教科等の指導計画に基づいて実施を検討する。
- ・交流相手先に応じて、活動内容、集団の大きさやねらい等を検討する。

3 交流先

学部	地域交流先
中学部	美容室「Happiness」
高等部	大月商店街協同組合 大月市デイサービスセンター「やまゆり」 大月市保健活動推進委員会（オオツキッチン）
寄宿舎	山梨県立都留高等学校

4 実施計画

学部	時期	地域交流先	実施学年	指導区分	内容
中	3月	美容室「Happiness」	全学年	総合的な学習の時間	身だしなみについて
高	7月	大月商店街協同組合	1年	総合的な探究の時間	買い物学習、商店街でのインタビュー活動など
	6月	大月市デイサービスセンター「やまゆり」	2年	総合的な探究の時間	利用者さんのことを知る。レクリエーション、プレゼント等の企画・運営
	12月	オオツキッチン	3年	職業	食育講話、卒業後の生活習について、調理活動など
寄	6月	山梨県立都留高等学校	寄宿舎生	余暇活動	プロフィールや校舎、生活の様子などの交換、作品交流など

5 地域交流の様子

- (1) 中学部
3月実施予定

- (2) 高等部
①大月商店街



事前学習では、地域の商店街について知り、どんな店舗があるのか調べ学習を行うとともに、インタビューの内容や質問を考えた。当日は、公共交通機関を利用して訪問し、実際に商店街を歩いてどんなお店があるかを確認したり買い物学習を行ったりした。グループに分かれて各店舗を訪問し、おすすめの商品やアピールポイントを尋ねるインタビューや買い物活動を行った。商店街の方々にインタビューや質

間に丁寧にお答えいただき、買い物学習や店舗でのやり取りを通して交流することができた。地域の方々に本校の生徒のことを知っていただいたり地域の経済を支える商店街について理解を深めたりする良い機会となった。

②デイサービスセンターやまゆり



事前学習では、施設や高齢者について学習し、特徴を知ったり望ましい関わり方について理解を深めたりした。交流相手の方々に喜んでもらえるレクリエーションやプレゼントは何かを考え、計画や制作を行った。オリジナルのうちわや葉を作り、交流会でプレゼントした。当日は、はじめの会や終わりの会の運営を行ったり、生徒たち自身が考えた「ペットボトルボウリング」をしたりして一緒に楽しんだ。

③オオツキッチン



「卒業後の生活習慣」の学習の一環として、「職業生活に必要な健康管理や食事について考え、卒業後の生活に活かす」ことをねらい実施した。前半は、保健活動推進員さんによる職業講話を聞き、塩分や野菜の摂取、朝食の大切さについて理解を深めた。後半は、コロナ禍で長らく行えなかった調理実習を行うことができ、味噌玉作りに取り組んだ。味噌に、粉末の出汁や乾燥わかめや麩などの具材を混ぜるだけでできる簡単なもので、冷凍で保存もできることから生徒からは「家でもやってみます。」「就職したらお弁当に持って行きたい。」などの感想が聞かれた。

(4) 寄宿舎

交流先である都留高校のボランティア同好会の自己紹介を兼ねてプロフィール交換をし、相手を知る機会を作った。生徒は届いたプロフィールを舎内に掲示すると興味津々で見しており、交流への意識が高まっている様子が感じられた。1回目のオンライン交流ではお互いの学校（寄宿舎）紹介をしたり、クイズを出し合ったりして、楽しい時間を共有することができた。

2回目は本校が桂台に移転して初めて直接交流を行った。10月末だったため、毎年恒例となっているハロウィンの活動と一緒にいった。都留高校の生徒にも簡単に仮装をしてもらい、舎生が校舎内を案内しながら一緒に歩いた。次第に緊張感もほぐれ、歩きながらおしゃべりを楽しんでいる生徒もいた。その後のクイズやダンスでも大いに盛り上がり、楽しく有意義な時間を過ごすことができた。

6 成果と課題

(1) 小学部

本校の校舎移転後、近隣地域で交流先を当たっているが、本校児童の実態や交流相手の状況など検討点が複数ある。今後は、桂台地区など近くの場所で交流先を見つけていきたい。

(2) 中学部

3月実施予定

(3) 高等部

学年ごとに各交流先と1回ずつ交流を実施することができた。地域で活躍する方々や施設等について知ったり、本校生徒の様子や教育活動の様子を地域の方々に知っていただいたりする良い機会になった。

校舎桂台移転前から長く交流してきた交流相手先が多いが、移転に伴って移動距離が長くなり、実際の活動時間が短いことが継続して課題にあがっている。貴重な交流の時間を確保できるよう、検討していく。また、担当者間でねらいをしっかりと共有し、事前事後の学習を大切にしながら交流を深められるようにしていきたい。

(4) 寄宿舎

オンライン交流の学校紹介では、寄宿舎内や桂台地区の散歩コースを舎生が案内して録画した動画で紹介した。事前に準備することで興味関心を高めることができた。当日も相手校の学校紹介を見たり、やり取りしたりすることで相互理解を深めることができた。

今年度は新型コロナウイルス感染症が5類になり、直接交流を行うことができた。舎生にとっては初めての対面での直接交流で、最初は緊張していた様子だったが、ハロウィン活動を都留高校生と一緒に楽しめたことを喜んでいて、舎生は全員が高等部生なので、同年代の生徒との交流は良い刺激になった。

校舎が桂台に移転し交通機関を利用しやすくなったため、今後は相手校へ出向く等、社会経験になる活動にもつなげていきたいと思う。

V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

1 目的

居住する地域の同年代の児童生徒と共に学び、相互理解を深める。

居住する地域の一員として、将来豊かに生活していくための望ましい人間関係の基礎を築く。

2 実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部・2年	大月市立七保小学校	3	特別活動 図画工作
小学部・4年	都留市立東桂小学校	2	特別活動 体育 図画工作
中学部・1年	大月市立猿橋中学校	3	特別活動 1回目：給食、学園祭の準備（看板づくり）に参加 2回目：給食、3年生を送る会参加予定
中学部・1年	上野原市立 上野原西中学校	2	特別活動 1回目：校外学習に午前中のみ参加（勾玉作り、お弁当） 2回目：芸術鑑賞にて朗読劇を鑑賞
中学部・2年	大月市立猿橋中学校	1	特別活動 学園祭の合唱を鑑賞

3 成果と課題

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、行動制限が緩和されたことで、直接触れ合いながらコミュニケーションを取ることができた。交流校との事前打ち合わせで児童生徒の実態を共有し、学習内容や使用する共有教材などを個別に配慮していただくなど、相手校の先生方の暖かな受け入れ体制が、本校児童生徒の安心につながり、のびのびと交流することができた。継続の児童生徒は、昨年度の交流での関係が構築され、居住地校の児童生徒が本校児童生徒のことを考え、進んで取り組みやすい活動内容を提案してくれたことで相互理解が深まり、積極的に関わり合おうとする姿が多く見られた。今後も交流の意義や目的、児童生徒の実態などを保護者、学校間で丁寧に確認しながら実施していく。

来年度も、居住地校交流が相互理解を深める機会になることを新入生の保護者を中心に、今年度の様子や成果を含め発信し、多くの児童生徒に機会を広げたいと考える。課題としては、手続きに時間が掛かってしまい開始時期が遅れてしまうことが挙げられる。スムーズに開始できるよう継続の場合は今年度中に継続の意思を確認し手続きを進められるよう検討していく。

I 学校概要

1 学校の概要

学校名	山梨県立富士見支援学校
所在地	〒400-0027 甲府市富士見一丁目 1-1
電話番号	055-252-3133
校長名	小倉 正一
交流及び共同学習主任名	安藤 紀久美

2 学校教育目標

児童生徒の病状等に配慮し、健康の回復を図りながら、義務教育課程における学習空白を補完する。そのため、基礎的・基本的な学習内容等の着実な定着を図るとともに、安全で安心な楽しい学校生活の中で豊かな心や自立心を育み、社会の中で人と関わりながらよりよく生きていくための「生きる力」を育む。

II 交流及び共同学習推進会議の経過

本校の児童生徒の実態から、現在のところ共同学習推進会議は実施していない。

III 学校間における交流及び共同学習

本校の児童生徒の実態から、学校間交流は実施していない。

IV 地域における交流活動(地域交流)

本校の児童生徒の実態から、現在のところ地域交流は実施していない。

V 居住地の学校等における交流及び共同学習(居住地校交流)

本校の児童生徒の実態から、現在のところ居住地校交流は実施していない。

本校では、居住地校交流に近い取り組みとして、前籍校へ復帰する段階にある児童生徒について計画的に行う「試験登校」がある。試験登校は、前籍校の児童生徒と学ぶ場を共有する中で、相互理解を深め、復帰後の学校生活を円滑に送ることができるようにするための取組になっている。

I 学校概要

1 学校の概要

学校名	山梨県立富士見支援学校旭分校
所在地	〒407-0046 韮崎市旭町上條南割 3314-13
電話番号	0551-22-7144
校長名	小倉 正一
交流及び共同学習主任名	茅場 和弘

2 学校教育目標

児童生徒の病状等に配慮し、健康の回復を図りながら、義務教育課程における学習空白を補完する。そのため、基礎的・基本的な学習内容等の着実な定着を図るとともに、安全で安心な楽しい学校生活の中で豊かな心や自立心を育み、社会の中で人と関わりながらよりよく生きていくための「生きる力」を育む。

II 交流及び共同学習推進会議の経過

※当校の児童生徒の実態から、現在のところ学校間交流は実施していない。

III 地域における交流活動（地域交流）

※当校の児童生徒の実態から、現在のところ地域交流は実施していない。

IV 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

当校の児童生徒の実態から、現在のところ居住地校交流は実施していない。

当校では、居住地校交流に近い取り組みとして、前籍校へ復帰する段階にある児童生徒について計画的に行う「試験登校」がある。試験登校は、前籍校の児童生徒と学ぶ場を共有する中で、相互理解を深め、復籍後の学校生活を円滑に送ることができるようにするための取り組みになっている。

I 学校概要

1 学校の概要

学校名	山梨県立ふじざくら支援学校
所在地	〒401-030 山梨県南都留郡富士河口湖町船津 6663-1
電話番号	0555-72-5161
校長名	手塚 雅仁
交流及び共同学習主任名	田村 沙織

2 学校教育目標

- ◎自立を目指し、社会の中で豊かにたくましく生きていく力を育てる。
- ◎児童生徒一人一人の能力や個性を最大限引き出し生かす。
- ◎確かな学力、豊かな情操、健やかな体を育む。

II 交流及び共同学習推進会議の経過

1 交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所 属・職 名	備 考
1	鳴沢村立鳴沢小学校・校長	
2	富士河口湖町立河口湖北中学校・校長	
3	山梨県立富士北稜高等学校・校長	
4	山梨県立吉田高等学校・校長	
5	鳴沢村立鳴沢小学校・交流及び共同学習担当	
6	富士河口湖町立河口湖北中学校・交流及び共同学習担当	
7	山梨県立富士北稜高等学校・交流及び共同学習担当	
8	山梨県立吉田高等学校・生徒会主任	
9	山梨県立富士ふれあいセンター・所長	会長
10	障害者支援施設はまなし寮・施設長	
11	富士吉田図書館おはなし会このはなさくや・代表	
12	銘楽堂・代表	
13	NPO 法人 富士と湖とかかしの里・理事長	
14	山梨県立ふじざくら支援学校・校長	副会長
15	山梨県立ふじざくら支援学校・PTA会長	副会長

2 経 過

開催月日	内 容
5月25日	第1回「委員の委嘱及び交流計画について」
2月1日	第2回「今年度の実施報告について」(書面開催)

Ⅲ 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

1 目的

(1) 全体

- ・交流を通して児童生徒の経験を広げ、共に学び合う中で豊かな人間性を育む。
- ・同年代の児童・生徒相互の触れ合いを通して、相手の存在を理解し、認め合い、お互いを大切にしていける気持ちを育てる。
- ・共生社会の実現に向けて、様々な人々と共に助け合い、支え合って生きていくことを学ぶ機会とする。

(2) 小学部

- ・同学年の児童と触れ合い、一緒に様々な活動に取り組む。
- ・友達を意識したり関わったりしようとする。

(3) 中学部

- ・同年代の生徒と進んで関わりながら、共に学ぶ楽しさを味わい、より豊かな人間性を養う。
- ・交流及び共同学習を通して、お互いに理解し合おうとする。

(4) 高等部

- ・地域の同年代の生徒と協力して活動する中で、人と関わる力を身に付ける。
- ・共に学び合う中で、お互いのことを理解する。
- ・共に助け合い、支え合って生きていく仲間として意識する。

2 提携校

学部	交流及び共同学習提携校
小学部	鳴沢村立鳴沢小学校
中学部	富士河口湖町立河口湖北中学校
高等部	山梨県立富士北稜高等学校、山梨県立吉田高等学校

3 実施状況

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容
小	6月	鳴沢村立 鳴沢小学校	全学年	特別活動	本校にてダンス、歌の発表やゲーム等を実施
	7月		全学年	自立活動 図画工作 特別活動	鳴沢小学校のポップラっ子祭りに本校児童の作品を展示
	10月		全学年	特別活動	1～4年：オンラインにてダンス、歌の発表やゲーム等を実施 5、6年生：鳴沢小学校にてダンス、歌の発表やゲーム等の実施
	11月		全学年	自立活動 図画工作 特別活動	本校のふじざくら祭に鳴沢小学校児童の作品を展示・見学
中	6月	富士河口湖町 河口湖北中学校	全学年	特別活動	本校にてペアづくり、自己紹介ゲーム等を実施
	9月		全学年	特別活動 美術 自立活動	河口湖北中学校の学園祭に本校生徒の作品を展示
	10月		全学年	特別活動	河口湖北中学校にてダンスや歌唱、ゲームを実施
	11月		全学年	自立活動 美術 特別活動	本校のふじざくら祭に河口湖北中学校生徒の作品を展示・見学

高	7月	山梨県立 富士北稜高等学校	2年生	総合的な 探究の時間	本校にてボッチャ大会を実施
	7月		全学年	美術 自立活動	富士北稜高等学校に本校の生徒の作品を展示
	11月		全学年	美術 自立活動	本校のふじざくら祭に富士北稜高等学校生徒の作品を展示
	12月		1・3年生	総合的な 探究の時間 自立活動	富士北稜高等学校にてミニコンサート、学校探検を実施
	7月	山梨県立 吉田高等学校	全学年	美術 自立活動	吉田高等学校の学園祭に本校の生徒の作品を展示
	11月		全学年	美術 自立活動	本校のふじざくら祭に吉田高等学校生徒の作品を展示

4 学校間交流の様子

(1) 小学部

小学部では、鳴沢小学校と同学年同士での直接交流を年に2回実施するとともに、図画工作や自立活動等で制作した作品を交換して展示する間接交流を行っている。

今年度は1学期に全学年が対面による交流、2学期は1年生から4年生がオンラインによる交流、5年生、6年生が対面による交流を計画した。1学期は感染症予防対策のため、ビデオ交換による間接交流になった学年もあったが、全学年が2回、交流を実施することができた。

1学期は鳴沢小学校の児童が本校に来校して、交流を行った。1年生はふれあい遊び『ちょちょでんしゃ』に取り組んだ。互いの体をくすぐり合う中で、友達同士の距離が自然と近くなり、「もう1回やりたい」と声上がるほど楽しく活動をすることができた。2年生はじゃんけんをしながらみんなで列をつないでいく『じゃんけん列車』を行い、最後には総勢32人の一つの大きな列車になることができた。3年生は『フープくぐり』を行い、友達と手をつないで輪になり、手を放さずにフラフープを順番にくぐって一周することができた。4年生はチームごとに一列につながって前後左右に揺れて進む『いかだにのって』のふれあい遊びを行い、「海に落ちちゃう!」「つかまって!」と思わず大きな声が出るほど盛り上がった。5年生は、ビデオレターで互いの好きな勉強やキャラクター、食べ物を紹介し、「鳴沢小学校に行くからね。待っててね。」と10月に会えることが待ち遠しい様子だった。6年生は4チーム対抗でボッチャを行い、互いのチームが作戦を立ててボールを投げる白熱したゲームが繰り広げられた。どの学年の児童も、目を輝かせて元気に活動する姿や喜びや楽しさに満ちた表情がとても印象的だった。

2学期は1年生から4年生がオンラインによる交流を行った。両校でダンスの発表やゲームを行った。各学年でゲーム等の活動内容を工夫し、3年生はお題に沿ったゲーム「ちがっちゃやーよ」に取り組んだ。イラストを見せながら問題を出し、正解するとみんなで喜び、楽しい交流になった。5年生、6年生の対面による交流では、両校混合チームでピンポン玉をお玉で運ぶゲーム「大切な卵」や「風船バレー」を行った。自然と応援や笑顔が溢れる充実した時間を過ごすことができた。



(2) 中学部

中学部では、本校の中学部の生徒全員が河口湖北中学校の2年生と直接交流を年に2回行うとともに、美術や自立活動等で制作した作品を交換して展示する間接交流も行っている。

1学期は、本校にて実施した。始めの会の後、事前に交換した自己紹介カードを見ながら、ペアの友達を探すところから交流がスタートし、『ゴロゴロドカン』や『ボール運びリレー』な

どの活動を通して、お互いが少しずつ歩み寄っていく姿が印象的だった。息を合わせてボールを運んだり、他のチームも応援したりする姿も見られた。また、休憩時にはキャッチボールや相撲をしたり、ペアで写真を撮ったりと和やかな時間を過ごすことができた。

2学期は、両校をオンラインでつなぎ、事前学習を行った。河口湖北中学校の生徒から『ソーラン節』の振りを教えてもらった。班ごとに行ったことで、1回目の交流を思い出して、友達の名前を呼んだり画面越しに手を振ったりする様子が見られた。対面での交流は河口湖北中学校にて実施した。2回目であることやオンラインでの事前交流を行ったことですぐに打ち解けることができた。迫力満点の北中ソーラン隊と一緒にソーラン節を踊り、一気に熱気に包まれた。また、本校の生徒が合唱曲「にじ」の手話を河口湖北中学校の生徒にレクチャーする時間を設け、その後、両校合わせて約50名で手話付きの「にじ」を大合唱し、心温まる時間を過ごした。休憩時間はじゃんけんをしたり、歌を歌ったりと和やかに過ごした。班対抗のフラフープシュートリレーを行い、ペアの友達と息を合わせてフラフープを持って競争をした。班内での関わりも増え、両校生徒の笑顔がたくさん見られた交流会となった。



(3) 高等部

高等部では、直接交流を年に2回富士北稜高等学校と、美術や作業学習、自立活動等で制作した作品を交換して展示する間接交流を富士北稜高等学校、吉田高等学校と行っている。

1学期は、富士北稜高校のボランティア委員会3年生12名の生徒が本校に来校し、本校高等部2年生11名の生徒と『ポッチャ交流会』を行った。初めてポッチャをする富士北稜高等学校の生徒に配慮し、わかりやすくしたルールでゲームを進めた。始めに、学校対抗のチーム、2回戦目から混合チームで対戦した。初めのうちは、お互いに緊張しながら接していたが、徐々に打ち解けて同じチームのメンバー同士で応援し、白熱したゲームになった。

2学期は高等部1年生、3年生が富士北稜高等学校を訪問し、ボランティア委員と生徒会の生徒と交流を実施した。最初は緊張しつつも、吹奏楽部の収録映像による演奏の鑑賞や代表生徒による迫力のあるパーカッションの演奏を聴き、大いに盛り上がった。各グループでの自己紹介の後、学校探検スタンプラリーを行った。配付された用紙は、福祉系列の生徒が牛乳パックを原料にして作った手作りの紙にメッセージが書かれているものだった。総合ビジネス、電気情報、機械テクノロジー、建築デザインと4つの授業を訪問し、様々な体験や展示物等を鑑賞した。交流の最後には同じ地域に住んでいることをお互いにも感じてもらえるように、この地域にゆかりのあるフジファブリックの『若者のすべて』の合唱を披露し、交流を深めることができた。



(4) 全学部

本校の学園祭『ふじざくら祭』で学校間交流相手校の児童生徒作品展示を行った。鳴沢小学校の絵画や絵手紙、書道作品、河口湖北中学校の水墨画、吉田高等学校の大きなガラス画、富士北稜高等学校は美術部の絵画作品や立体作品を展示した。小学部の児童は友達作品を眺めたり、中学部の生徒は、直接交流でペアになった友達の作品を探したり、高等部の生徒は「すごい！」と驚きの声をあげると同時に「これどう作ったのですか？」と制作方法に関心を示す姿も見られた。



5 成果と課題

(1) 小学部

対面での交流を各学年1回以上実施することができ、昨年度までのオンラインでの交流からさらに児童同士の関わりの幅を広げることができた。また、コロナ禍で培ったICTを活用することで、感染症の影響があった学年でもオンラインやビデオ交換で交流を行うことができ、大きな成果を感じている。各学年の担当者同士で交流内容について打合せを行い、児童の実態に応じた内容を検討したことで、互いを知ったり、深め合ったりするよい機会となった。

1年生から4年生は初めての対面での交流であった。1年生は、交流自体が初めてで、不安や緊張を感じている児童も多い中で、本校の授業で取り組んできたふれあい遊びやバルーン遊びを活動に取り入れたことで活動に参加でき、鳴沢小学校の児童からの関わりを受け入れることができた児童も多くいた。小学部は6年間鳴沢小学校の児童と交流を行うため、段階を踏んだねらいを設定し、1年生は同じ場を共有することや一緒に活動することで「楽しかった、また一緒に遊びたい」と感じられることが大切であると実感した。小学部低学年の児童にとって、実際に顔を合わせて、同じ場で同じ活動を共有できる対面での交流に大きな成果があると感じている。2回目はオンラインで交流を行った。画面に映る鳴沢小学校の児童に気付き、注目したり手を振ったり、話しかけたりするなど、様々な児童の表現が見られた。ただ、活動自体はそれぞれの場所で行うため、一緒にゲームをしているという意識をもたせることは難しかった。

来年度も各学年の実態に応じて、交流方法や内容を担当者で検討、打合せを行い、双方の学校に負担のないような有意義な交流会を実施していきたい。

(2) 中学部

対面での交流を2回、オンラインでの交流を1回実施することができ、生徒同士の関わりや理解を深めることができた。中学部段階では、オンラインでの交流を理解できる生徒が多く、画面越しに河口湖北中学校の生徒から『ソーラン節』の振り付けを教えてもらい、一生懸命に振りを覚えようとしたり、模倣をしたりする姿がとても印象的であった。また、対面の交流の際は、本校の生徒が音楽で取り組んできた『にじ』の手話を河口湖北中学校の生徒に教えるという内容を設定した。本校の生徒が教えてもらうだけでなく、互いに教え合うという活動は、生徒同士の理解を深めるよい内容であった。1回目と2回目の交流の実施日が開いているため、2回目も緊張してしまう生徒が多い。今回のように対面の交流の1週前にオンラインではあるが、顔を見て交流を行うことで、すぐに打ち解け、自然に関わることで、両校の生徒にとって互いの良さを知り、認め合えるよい交流会であった。

来年度も、両校の生徒の良さを互いに伝え合うことのできる交流内容を検討し、対面とオンラインでの交流会を計画していきたい。

(3) 高等部

富士北稜高等学校と対面での交流を2回実施した。1回目は、本校にて、ボッチャ大会を行った。本校の2年生と北稜高等学校の生徒の混合チームを作り、ゲームを実施したことで互いの仲を深めることができた。北稜高等学校の生徒は、どのように接したらよいかという戸惑いもあったようだが、ゲームを通して、だんだんと自然に接することができるようになったと感想があった。体を使った活動だったため楽しみながら互いを知ったり理解を深めたりすることのできる良い内容であった。2回目は、富士北稜高等学校にて実施した。1年生と3年生が交流を行った。富士北稜高等学校で、ミニコンサートと学校探検を計画していただいた。どの生徒も高校の雰囲気を楽しみながらそれぞれの系列の授業を興味深く体験することができた。同世代の生徒と一緒に初めての体験をすることで、本校の生徒から積極的に質問をする姿が多く見られ、人と関わる力を身に付けることのできた良い交流であった。また、久しぶりに中学校時代の友達に会い、とても良い笑顔を見せる生徒が印象的であった。生徒からは、「楽しかった」「また会いたい」「また授業を受けたい」という感想があり、有意義な交流であった。来年度も富士北稜高等学校の協力と理解を得ながら互いに理解を深めることのできる交流を実施していきたい。

吉田高等学校の学園祭『蒼風祭』に高等部の生徒の作品や製品を展示していただいた。美術で取り組んだ、回転多色刷り版画や、作業学習で制作した野菜ボックス(木工班)、皿(陶芸班)、ペーパーコードバッグ(手工芸班)などを展示した。「実用的ですごく丁寧に作られていて素敵です。」「多色刷りの版画は様々な色合いが展開されていてとても美しいなと思いました。」などの感想をいただき、生徒の学習意欲につなげることができた。

IV 地域における交流活動（地域交流）

1 目的

(1) 全体

- ・交流を通して児童生徒の経験を広げ、共に学び合う中で豊かな人間性を育む。
- ・地域の人々と関わる中で、共に助け合い、支え合って生きていくことを学ぶ機会とする。

(2) 小学部

- ・活動を通して地域の人と触れ合い、関わりをもつ。
- ・関わりを受け入れ、共に活動することを楽しむ。

(3) 中学部

- ・地域の人々と触れ合い、社会で活動しようとする意欲を高める。
- ・活動を通して、関わりを深めていくとともに、人間関係の幅を広げる。

(4) 高等部

- ・地域の人々と関わる中で、お互いを理解し合う。
- ・学校周辺の環境や身近な施設等で生活する人と日常的に関わりをもつ。
- ・共に活動を行う中で経験を広げ、社会に参加する気持ちを育てる。

2 交流先

学 部	地域交流先
小学部	富士吉田市立図書館このはなさくや、富士と湖とかかしの里
中学部	銘楽堂、富士と湖とかかしの里
高等部	はまなし寮、富士ふれあいセンター、富士と湖とかかしの里
全学部	富士吉田市、西桂町、富士河口湖町、鳴沢村、忍野村、山中湖村の文化祭や作品展での作品交流

3 実施状況

学部	月日	地域交流先	実施学年	教科等区分	内容
小	11月	このはなさくや	全学年	国語特別活動	絵本の読み聞かせ、紙芝居、パネルシアター
中	11月	銘楽堂	全学年	音楽特別活動	音楽鑑賞、合奏
小中	12月	富士と湖とかかしの里	全学年	特別活動	プラネタリウムの鑑賞
高	7月	富士と湖とかかしの里	農園班	作業学習	野菜の苗植え、種まき
高	12月	富士と湖とかかしの里	農園班	作業学習	収穫した野菜を届ける
高	9月	富士ふれあいセンター	全学年	作業学習特別活動	作業学習で制作した製品の展示

全学部	7月 11月 11月 11月 11月 2月 2月	吉田空襲展 忍野村福祉健康まつり 山中湖村文化祭 西桂町文化祭 富士河口湖町文化祭 鳴沢村文化祭 富士吉田市小中学校図工美術作品展	全学年	図画工作 美術 自立活動	各市町村に居住している児童生徒の作品を展示
-----	--	---	-----	--------------------	-----------------------

4 地域交流の様子

(1) 小学部

富士吉田市立図書館おはなし会「このはなさくや」とブロックごとに交流を実施し、読み聞かせを通して交流した。『へんしんトンネル』の絵本では、かっぱが「かっぱ、かっぱ・・・」と言いながらトンネルを通ると「ばっか、ばっか」と馬に変身する言葉の不思議さと楽しさに気づき、一緒に声を出して絵本を読み進める様子が見られた。『おおきなかぶ』のエプロンシアターでは、登場人物の動きに合わせて「うんとこしょ、どっこいしょ」とかぶを抜き、抜いたかぶが思わず大きく広がると歓声が上がり、盛り上がった。『カラスのおはなし』の手遊びや大型絵本の『わにわにのおふろ』などたくさんのお本を読んでいただき、児童たちは、その本の登場人物になりきって、絵本の物語の世界を楽しむことができた。



(2) 中学部

富士吉田市の銘楽堂を通じて、打楽器とピアノのアンサンブルユニット「フラワービート」と交流を実施した。当日は、音楽の授業で取り組んでいる曲を中心に、生徒に馴染みのある曲を演奏していただいた。「トルコ行進曲」では、生徒も一人一つの打楽器を担当しフラワービートの方々と合奏した。生演奏に合わせての合奏は格別で、いつも以上の力を発揮して楽器を叩くことができた。キッチンビートでは、しゃもじやボウル、鍋やフライパン等の台所用品を使って圧巻のリズムパフォーマンスを見せてくださり、生徒から歓声が上がった。『にじ』や『ありがとうの花』を演奏に合わせて歌ったり、『アイドル』や『パプリカ』に合わせて踊ったりと、音楽を通じて主体的に関わる姿が多く見られた。



(3) 高等部

「NPO法人 富士と湖とかかしの里」と作業学習で農園班に所属している生徒が2回の交流を行った。1回目は、富士と湖とかかしの里の方と一緒に冬菜の種をまいたり、白菜の苗を植えたりする活動を行った。生徒からは「一緒に冬菜の種まきをして勉強になった」「おいしい野菜になるように精一杯お世話をしたいと思う」「また一緒に畑仕事がしたい」等の感想があった。2回目は収穫した野菜を富士と湖とかかしの里へ届けに行った。この野菜は富士と湖とかかしの里が運営している「ニコニコかかし食堂」で提供された。



また、富士ふれあいの村祭りで、本校の高等部の作業学習で制作した製品を展示した。地域の障害者支援施設や事業所の方の作品とともに展示していただき、校外の多くの方に見ていただき、生徒の意欲を高めることができた。

(4) 小学部・中学部

星つむぎの村のプラネタリウムの鑑賞会があり、小学部、中学部の児童生徒全員が参加した。地域の「有志の会」と「富士と湖とかかしの里」の方と一緒にエアドームに入った。目を閉じて「3・2・1」の合図で目を開けると、満天の星空が目の前に広がり、児童生徒からは「わー」「すごい」と自然に声が上がったり、星に気付いて動きが止まったりしていた。さらに、地球から宇宙へ飛び出すと、近づいてくる火星にぶつからないように手を伸ばしてみたり顔を背けたりする様子も見られた。迫力満点のプラネタリウムを鑑賞し大興奮の児童生徒が多く、とても貴重な体験をすることができた。



(5) 全学部

本校に在籍する児童生徒が居住している各市町村と作品展を通して間接交流を行っている。本校の児童生徒の居住地は、富士吉田市、西桂町、富士河口湖町、山中湖村、忍野村、鳴沢村と6市町村に渡る。本校の児童生徒を居住地の方々知ってもらうことを目的として、毎年、各市町村の作品展に図画工作、美術、自立活動（造形）などの時間に制作した作品を出展している。今年度は全ての市町村で実施され、各市町村で展示案内を出していただいたり、表彰していただいたりすることで、地域とのつながりをもつことができた。

5 成果と課題

(1) 小学部

低学年、中学年、高学年ブロックで実施した。昨年度までは感染症予防対策のため、体育館で実施していた。そのため、読む絵本と児童の距離が離れており、スクリーンに絵本を映して読み聞かせを行っていた。今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことで、コロナ禍前のように、実物の絵本を使っでの読み聞かせとなり、ページをめくる際のどきどきわくわく感を味わいながら読み進めることができた。学習したことのある絵本や児童が好きな絵本を取り入れていただいたり、手遊びやエプロンシアターなど児童の興味をひく内容を工夫したりしていただいた。感染症の影響があるクラスはオンラインで参加し、コロナ禍で培ったICTを活用して実施することができた。来年度も活動内容を相談しながら有意義な会になるよう計画していきたい。

(2) 中学部

昨年度に引き続き音楽を通じた地域交流を学部全体で行った。授業で取り扱った楽曲を演奏してもらったり、合奏したりすることで、普段の音楽とは異なる雰囲気味わうことができた。言葉でのやり取りが難しい生徒と一緒に演奏することで楽器を介して関わることができ、良い機会であった。銘楽堂を通して、音楽に関わる交流を行っているが、地域交流としての意義やねらいについては検討が必要な部分もある。来年度は、地域で音楽活動をしている方々との交流を予定している。

(3) 高等部

今年度初めて「NPO法人 富士と湖のかかしの里と交流を行った。交流実施にあたって内容について打合せを行い、作業学習の農園班と実施することとなった。普段の授業に地域の方に参加してもらい、野菜について話をさせていただいたり、一緒に種まきや苗植えの活動をしたことで、双方にとって無理のない活動をすることができた。また活動と一緒にすることで、自然な関わりができ、経験を広げることができた。また、育てた野菜を収穫し、届け、富士と湖とかかしの里が運営する子ども食堂「ニコニコかかし食堂」で提供され、社会活動の参加という大きな成果が得られたと感じている。来年度以降も地域の方との関わり、社会活動への参加というねらいが達成できる交流を計画していきたい。

(4) 小学部・中学部

高等部が地域交流を行っている「NPO法人 富士と湖とかかしの里」の所属している地域の方から声を掛けていただき、地域の「有志の会」、「NPO法人 富士と湖とかかしの里」の方と星つむぎの村のプラネタリウムの鑑賞会を行った。短い時間ではあったが、地域の方と一緒にドームに入り、本校の児童生徒のことを知ってもらえる機会となった。地域の方と同じ場を共有したり感想を伝えたりするなど、交流を深めることができた。地域の方からも、学校や児童生徒の様子を知ることができて良かったと感想をいただいた。

V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

1 目的

- (1) 居住地校の児童生徒と共に学び、関係を築いたり、継続したりして相互に理解を深める。
- (2) 本校の児童生徒が、将来、地域で生活するための基盤を作り、社会参加を促進する。

2 実施状況

昨年度居住地校交流を実施、希望した児童生徒6名に加え、新たに小学部3年生の児童1名から希望が出され、7名の児童生徒が計13回の交流を行った。全員の児童生徒が居住地校と保護者の理解と協力によって実りの多い交流が実施できた。

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部・2年	富士河口湖町立河口小学校	1	お楽しみ会
小学部・3年	富士河口湖町立勝山小学校	2	図画工作 お楽しみ会
小学部・3年	富士吉田市立下吉田第二小学校	2	お楽しみ会
小学部・4年	富士河口湖町立大石小学校	3	お楽しみ会 特別活動
小学部・4年	西桂町西桂小学校	3	図画工作 音楽
中学部・3年	道志村立道志中学校	1	道徳
中学部・3年	忍野村立忍野中学校	1	特別活動

3 成果と課題

全員の児童生徒が居住地校にて対面による交流を実施することができた。昨年度から継続している児童生徒は、居住地校の児童生徒が覚えていてくれており、不安や緊張を感じながらも、スムーズに活動に参加することができていた。活動内容は保護者の意向を本校の担任が聞き取った上で居住地校の担任と打合せを行い、実施している。居住地校の理解を得ることで、

本校の児童生徒が無理なく活動に参加できている。保護者からは、「友達に受け入れてもらえるか不安だったが、毎日一緒にいるかのように自然と迎え入れてくれたことが嬉しかった」「あらためて良い友達がたくさんいるなと思った」「たくさん友達が名前を呼んでくれて嬉しかった」などの感想をいただいた。それぞれの学校で学習していても、地域の友達とのつながりを意識できる機会として、また、共生社会の礎として、児童生徒や保護者がお互いに満たされた感情をもてることは大切であるとする。交流校の御理解と保護者の御協力によるところが大きい。来年度もより多くの児童生徒が居住地校交流を実施することができるように努力したい。

VI 本年度の交流及び共同学習のまとめ

今年度も交流校や地域交流関係団体との連携を取り合い、交流方法や内容などを検討し、児童生徒にとって実りある交流及び共同学習を実施した。

学校間交流では、交流校と密に連絡を取り合って、交流内容、方法について打合せを行い、計画し、実施してきた。1回目は本校、2回目は交流校が主体となって内容を計画していくが、両校の学習内容に応じて、交流内容を検討し、児童の実態を伝え合い、互いに関わりがもちやすいグループを編成し、実施した。小学部では、感染症予防対策のため、急遽ビデオ交換に内容を変更して行うことができた。小学部高学年では4年振りに対面での交流が実施でき、直接顔を合わせて、互いの表情を見たり、声を掛けたりなど、実際に触れ合うことで友達を実感することができる交流の良さを改めて感じることもできた。また、中学部ではICTを活用してオンラインでの交流も取り入れて実施することができた。生徒の年齢や実態に応じては、直接顔を合わせることで緊張してしまい、自分から関わるのが難しい生徒もいる中で、オンラインの良さを感じることもできた。学部や児童生徒の実態に応じて交流方法や内容を検討していくことの大切さを考えることができた。

地域交流は、全ての学部で実施し、児童生徒の実態に合った実りある交流をすることができた。コロナ禍では、同じ場にいるものの、距離をとって活動できる内容であったが、新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことで、少しずつ内容を再検討して行うことができた。地域の方と一緒に手遊びや楽器の演奏をしたり、一緒に種まきしたりするなど、実際に関わりながら児童生徒を知ってもらうなど、本校の児童生徒にとっては人間関係の幅を広げたりできるよう、交流先と打合せを行いながら計画していきたい。また、はまなし寮とは、今年度も実施ができなかった。来年度は実施できるよう内容について検討していきたい。

居住地校交流は希望者全員が居住地交流校において対面で交流をすることができた。交流校へ行き、いつもと違う環境で学習をすることで刺激をもらったり、これまでの本校の生活や学習で身に付けた力を発揮したりするなど、様々な面での成長を感じることもできた。また、保育園、小学校時代の友達と継続して関わりをもてることは、地域で生活する児童生徒の生活の基盤となる、とても大切なことだと改めて実感した。この関係性が続くよう、居住地校の理解と協力を得ながら、保護者や本校の児童生徒だけではなく、居住地校の児童生徒にも有意義な時間になるように実施していきたい。

新型コロナウイルス感染症が5類へと移行され、コロナ禍前と同様に対面での交流を多く実施することができた。また、コロナ禍で培ったICTを活用することで、感染症の影響がある学年でもオンラインやビデオ交換で交流を行うことができ、大きな成果が感じられた。また、学部や学年の実態に応じて内容を工夫することで、自然な関わりを引き出し、互いのことを知り、認め合い、笑顔が絶えない交流を実施することができた。今年度の交流及び共同学習の反省を来年度に生かせるよう、引き続き各学校及び関係団体と連携を図り、目的やねらいを共有し、実施方法や内容を工夫しながら、意義のある交流及び共同学習を実施していきたい。

I 学校概要

1 学校の概要

学校名	山梨県立かえで支援学校
所在地	〒400-0807 山梨県甲府市東光寺 2-15-1
電話番号	055-223-6355
校長名	荒川 昌浩
交流及び共同学習主任名	山口 麻衣

2 学校教育目標

- － 子どもたちが、幸せな人生を送るために －
- ・心身ともに健康な児童生徒を育成する。
 - ・個々の能力・特性を生かして、基礎的・基本的な確かな学力を育成する。
 - ・働く意欲や喜びをもち、社会の一員として共に生きる力を育成する。
 - ・多くの人たちとの交流を深め、豊かな人間性・社会性・道徳性を育成する。
 - ・子どもの人権を尊び、自己実現に向け、自己選択・自己決定する力を育成する。

II 交流及び共同学習推進会議の経過

1 交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所 属・職 名	備 考
1	甲府市立里垣小学校・校長	会長
2	甲府市立里垣小学校・交流及び共同学習担当	
3	甲府市立東中学校・校長	
4	甲府市立東中学校・交流及び共同学習担当	
5	山梨県立甲府東高等学校・校長	
6	山梨県立甲府東高等学校・交流及び共同学習担当	
7	里垣地区社会福祉協議会・会長	副会長
8	里垣地区食生活改善推進委員会・代表	
9	里垣地区大正琴サークル「つみき会」・代表	
10	里垣地区民生児童委員協議会・民生児童委員	
11	山梨県立かえで支援学校PTA・会長	
12	山梨県立かえで支援学校・校長	

2 年間計画

開催時期	内 容
5月26日(金)	委嘱状交付、推進会議の概要、昨年度の活動概要、本年度の計画
1月29日(月)	今年度の活動状況、来年度の課題、意見交換

Ⅲ 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

1 目的

同世代の児童生徒との様々な交流活動を通して、生活経験を拡大させるとともに相互理解を促し、共に学び共に育ち合う気持ちを育てる。

(1) 小学部

①同世代の児童との交流活動を通じ、生活経験を拡大させ共に学び合う気持ちを育む。

②友達とのかかわり方を身に付け、楽しくやりとりを行うことができるようにする。

(2) 中学部

①同世代の生徒との交流活動を行い、生活経験を拡大させ、共に学び合い、共に育ち合う気持ちを育てる。

②同世代の生徒とのかかわりを広げ、多くの経験をする中で、人と接する際の基本的なきまりを身に付ける。

(3) 高等部

①同世代の生徒との交流や学び合いを通して、相互に望ましい社会性を育む。

②互いの個性や立場を尊重し、思いやりや感謝の心をもって人と接する態度を育成する。

③他校の生徒との作品交流を通して、互いの理解を深めるとともに自らの表現意欲を高める。

2 提携校

学 部	交流及び共同学習提携校
小学部	甲府市立里垣小学校
中学部	甲府市立東中学校
高等部	山梨県立甲府東高等学校

3 実施状況

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容
小	6月～1月	甲府市立里垣小学校	学年ごと	各教科及び特別活動	ゲーム、運動、歌等
	11月23日	甲府市立里垣小学校	全学年	特別活動	かえで祭にて作品展示
中	7月5日	甲府市立東中学校	1年生	特別活動	自己紹介、校歌、ダンス等
	9月22日	甲府市立東中学校	2年生	生活単元学習 特別活動	東輝祭にて作品展示
	11月23日	甲府市立東中学校	全学年	特別活動	かえで祭にて作品展示
	12月14日	甲府市立東中学校	1年生	特別活動	ゲーム、合唱等
	通年	甲府市立東中学校	全学年	美術 特別活動	窓ガラスに相手校へ向けてメッセージを掲示する
高	6月16日	甲府東高等学校	全学年	特別活動	蒼龍祭にて作品展示
	9月22日	甲府東高等学校	全学年 (食品加工班)	作業学習	体育祭で使用するシフォンケーキとパウンドケーキの製造
	11月23日	甲府東高等学校	全学年	特別活動	かえで祭にて作品展示

4 学校間交流の様子

(1) 小学部

①甲府市立里垣小学校との交流会

【1年生】

里垣小学校の児童が来校し、初めての交流会を行った。里垣小学校の児童には、本校の学校見学の時間を設定し、自分達の学校と違う所を見つけたり、教室をのぞいたりしながら楽しく校内を見学する様子が見られた。交流会では、はじめの会、リレー、玉入れ、おわりの会の活動を行った。リレーでは、友達を意識しながら走る児童が多くおり、友達と一緒に走ることを楽しむ様子が見られた。玉入れは、高さの違うカゴを2つ設定したことで、全員が意欲的に活動に取り組むことができた。



【2年生】

昨年度は掲示物の交換や手紙のやりとり等の間接交流のみだったこともあり、児童と一緒に活動できることをとても楽しみにしていた。はじめの会では、司会やみんなの前で挨拶をすることに挑戦したり、大きな声で自分の名前を言ったりすることができた。『じゃんけん列車』では、両校の児童が混ざって電車を作り、一緒に繋がって遊ぶことができた。交流が終わった後は、「楽しかったな」「また会いたいな」という言葉がたくさん聞かれ、次の交流会を楽しみにする様子が見られた。



【3年生】

1学期にDVDを通して間接交流をしていたことで、対面で直接交流することへの期待感を高め、活動に参加できた児童が多くいた。音楽発表では、『よさこいエイサー琉球王』の発表を行った。事前に何度も練習してきたことで、本番では落ち着いて発表に取り組める児童が多くいた。『台風の目』では、走る速度を調整したり、誘導してくれたりするなど、里垣小学校の児童が優しく本校の児童に寄り添う様子が見られた。初めての直接交流でお互い緊張した様子だったが、活動する中で緊張が解け、楽しく活動することができた。



【4年生】

初めて対面での交流会を行うことができた。はじめの会では、お互いに緊張した様子だったが、活動を通じて徐々に打ち解けて、笑顔でかかわる様子が見られた。『ペアリレー』では、手を繋いで棒をくぐったりまたいだりして、友達と一緒にゴールすることができた。「もう1回やりたい」というアンコールに応じて活動を繰り返すことで、お互いのペースや動きのタイミングを意識する様子も見られた。活動の最後には、全員で大きな輪になって校歌『フレンズ』を歌い、みんなの心が一つになり、温かい交流会となった。



【5年生】

本校の体育館で、交流会を行った。直接交流をするのは1年生の時以来であった。久しぶりの直接交流であったため、はじめは緊張している様子だったが、活動をしていくうちに緊張がほぐれ、友達とのかかわりを楽しむ様子が見られた。音楽発表では、お互いに演奏と合唱、ダンスを発表した。選曲や発表の様子から、お互いの成長を感じることができた。玉入れは、チームに分かれて活動し、赤組と白組の対決が大いに盛り上がった。活動が終わった後には、「来年度の交流も楽しみ」と話す児童が何人も見られ、充実した交流会となった。



【6年生】

本校児童が里垣小学校に行き、直接交流を行った。音楽発表では、里垣小学校の児童が『翼をください』と『千本桜』の合唱を発表してくれ、本校の児童が真剣に耳を傾け、静かに聞いている姿が印象的であった。本校の児童は、カスタネットを用いて『ドラえもん』の曲を演奏したり、手話で『小さな世界』を発表したりした。ゲームでは、児童の笑い声が溢れ、子供同士で盛り上げる様子も見られた。久しぶりの直接交流であったが、覚えている児童も多く、すぐに打ち解けてお互いに充実した時間を過ごすことができた。



②作品交流（かえで祭）

今年度も里垣小学校の児童の作品をかえで祭で展示させていただいた。1年生から6年生まで合わせて、14点の作品を展示させていただいた。展示見学では、作品を集中して見る姿や、「すごい」「きれい」と感想を言う場面が見られた。



（2） 中学部（甲府市立東中学校との交流会）

① 直接交流第1回目：1年生

7月5日（水）に本校の校庭で直接交流を行った。自己紹介をした後、朝の運動で取り組んでいる『やってみよう』のダンスを一緒に踊った。交流会の最後には、東中学校の校歌とかえで支援学校の『フレンズ』を発表し合った。はじめは緊張した表情だったが、会が進むにつれて、リラックスした様子や笑顔が見られ、良い交流会となった。



② 直接交流第2回目：1年生

12月14日（木）に甲府市立東中学校で交流会を行った。入場の際にはお互いに緊張した表情が見られたが、会が進むにつれて、本校の生徒が声かけを受け入れたり、自分から声を掛けたりする様子が見られた。『じゃんけん列車』では、勝敗を楽しみながら、双方の生徒から大きな歓声上がり、笑い合う姿が見られ、交流を進める中で心の距離も近づいた。歌の発表では、音楽の学習で取り組んできた『おおきなうた』の発表を行った。東中学校の生徒の合唱を聴くことは、普段体験することのない大人数での合唱を聴く貴重な機会となり、生徒達の歌声に本校の生徒達もじっと耳を傾ける様子が見られた。合唱『大切なもの』の歌詞が心に響く交流会となった。



③ メッセージ交流：全学年

校舎の向かい合う窓を使って、メッセージを貼り気持ちを伝え合った。本校では、各学年で学級活動の時間や特別活動の時間を使い、メッセージの作成を行った。東中からは『東とかえで つながる心』、本校からは『輝く笑顔☺!』、『友情努力勇気感謝』のメッセージを送り合った。

このメッセージの交換は、本校開校の際に東中学校からメッセージを貼っていただき、それ以来、毎年続けられている。生徒たちも毎日メッセージを見ることができるので、会えることを楽しみに、友達を思い浮かべる良い機会となっている。交流を深める良い取り組みなので、これからも続けていきたい。



かえで『輝く笑顔☺!』



東中学校『東とかえで つながる心』

④ 作品交流（かえで祭・東輝祭）

お互いの学園祭で作品交流を行った。本校からは、中学部2年生が生活単元学習で作成した作品を東輝祭で展示していただいた。かえで祭では、東中学校の1年生の学級旗を展示させていただいた。6クラス分の色鮮やかな学級旗で玄関ホールが華やかになり、かえで祭を盛り上げてくれた。



（3）高等部（甲府東高等学校）

①作品交流（蒼龍祭）

本校高等部の生徒の作品を、甲府東高校の学園祭（蒼龍祭）で展示していただいた。本年度は、各学年の美術作品（絵画・モビール等）と、作業学習で作った製品（木工班：ティッシュケース、食品加工班：パンリース、クラフト班：メモ帳・年賀状等、陶芸班：お皿、農園班：じゃがいも、手工芸班：印鑑ケース・ヘアアクセサリ等）を展示していただいた。また、作業風景が分かる動画も放映していただき、本校の取り組みについて知っていただける機会となった。展示場には『メッセージでつながろう』と題し、メッセージボードを設置していただいた。「細部までこだわって作られていて本当にすごいです！」「とても素敵な作品ばかりで、温かい気持ちになりました」等、感想をたくさんいただくことができた。メッセージボードは、蒼龍祭後に本校に届けられ、廊下に掲示し、多くの生徒が嬉しそうに読む様子が見られた。



②作品交流（かえで祭）

甲府東高の生徒が制作した切り絵3点、クラス新聞3点、似顔絵9点を本校学園祭で展示していただいた。切り絵は児生玄関に掲示し、クラス新聞と似顔絵は高等部棟に掲示した。毎年、作品交流をしている中で、今年度は最も多い作品数を出展していただいた。どの作品も色鮮やかで精巧に作られており、生徒も保護者も興味深く鑑賞していた。展示場所には『メッセージでつながろう』と題したボードを設置し、かえでの葉にメッセージを書けるようにした。「上手ですね」「毎年切り絵を楽しみにしています。来年は〇〇を作ってください！」など、作品の感想や東高校の皆様へのメッセージが多く寄せられた。作品やメッセージを介して互いの想いを伝え合い、心と心の交流を深めることができた。



③その他

今年度、初めて行った取り組みが2つある。1つ目は、本校の概要についてまとめたスライドやパンフレットを東校にお渡しし、それらをもとに生徒会の皆さんが模造紙にまとめたものを掲示していただいた。蒼龍祭（作品交流）の前から取り組んでいただいたことで、本校に関心をもつていただく機会になった。2つ目は、本校食品加工班に注文をいただき、パウンドケーキとシフォンケーキを100個お届けした。生徒は、甲府東高校の皆さんから依頼を受けたことで、嬉しそうに作業に取り組んでいた。実際に食べている写真やメッセージを生徒会の皆さんが本校に届けてくださり、東棟に掲示した。とても丁寧にまとめてくださり、多くの生徒がメッセージを読む姿が見られた。



5 成果と課題

(1) 小学部

【甲府市立里垣小学校】

昨年度までは対面での交流ができずにいたが、今年度は、全学年で1回は直接交流をするという計画のもと、交流内容を考え実施することができた。両校の交流担当が連絡を取り合い、児童の実態や配慮点、活動内容やねらいなどを共通確認してから交流を進めることができた。1年生から4年生は、初めての直接交流であった。1年生は活動内容や場の設定を分かりやすくしたことで、両校の児童が意欲的に参加することができ、6年間続く交流の良いスタートとなった。2年生以上は昨年度までは間接交流を行い、どの学年も早く会えるのを楽しみにしていた。直接交流では、友達と一緒に同じ活動に取り組むことや、直接声を掛け合うことなど、手紙や映像のやりとりでは感じられない経験を積むことができた。児童同士のかかわりや表情から直接交流する良さを感じることができた。高学年は、久しぶりの対面であったため、はじめはお互いに緊張する様子も見られたが、顔を覚えている児童が多く、すぐに仲良くなり楽しく活動することができた。また、高学年では、児童同士で自然に関わる場面も見られ、これまでの交流の積み重ねによる成長を感じられた。学年が上がるにつれお互いへの意識が高まり、かかわり方にも変化が見られ、継続して交流を行うことの大切さが感じられた。6年間の交流の中で自然とお互いのことを理解し合い、共に学び合おうとする姿はこれからも大切にしていきたい。今年度は直接交流が再開され、交流方法について戸惑う場面もあったが、今後も交流を深めていけるように回数や実施方法について両校で検討し、来年度へとつなげていきたい。

(2) 中学部

【甲府市立東中学校】

1年生は、お互いの学校を訪問して直接交流をすることができた。1年生にとって東中学校との交流は初めてだったので、本校の生徒の実態を考慮し、1回目は本校にて行い、2回目は東中学校にて行った。直接顔を合わせた対面での交流は、生徒たちが肌で相手を感じ、触れ合いをもつことでより深い相互理解につながったと感じる。本校小学部から中学部に進学した生徒にとっては、小学部の時にも里垣小学校との交流で一緒に活動をしたことがある生徒がいるため、互いに声を掛け合い、とてもうれしそうな様子が見られた。2年生は行事等が重なったため東輝祭に行くことができず、昨年同様に作品を通しての間接交流となった。東輝祭で本校の生活単元学習の授業で作成したジオラマを展示して東中学校の生徒に見てもらい、学習の様子を知ってもらう良い機会となった。日程の調整が難しいこともあるが、交流はお互いを知ったり、理解したりする良い機会となるので、来年度は本校の生徒が東輝祭を見学できるよう直接交流の機会を検討していきたい。3年生は、メッセージ交流を行った。1、2年生で東中学校との交流を経験することで、相手を思い浮かべながら作業する様子が見られた。メッセージを通じて互いに気持ちを伝えあうことができた。今後も、交流のねらいや活動内容など、教師間の共通理解を図りながら様々な交流方法を検討していくとともに、メッセージや手紙、作品交流を通じて交流を継続させ、両校の繋がりを深めていきたい。

(3) 高等部

【甲府東高等学校】

作品交流では、互いの学園祭でそれぞれの作品を展示し、メッセージの交換を行った。今年度は、例年以上に多くの作品を展示させていただき、多くの生徒が足を止めて楽しそうに鑑賞をしていた。間接的ではあったが、互いに相手を思い合うよい機会になった。ただ、対面での交流ではないため、相手の姿をイメージしにくい生徒もいた。メッセージだけでなく、絵や写真、動画等を用いて生徒がより理解しやすい方法を探していきたい。作業班の製品展示は、甲府東高校の生徒さんやその保護者に、本校の学習について知っていただける貴重な場となった。また、作業風景が分かる動画を放映していただいたことで、本校の取り組みについてより関心をもっていただくことができた。今年度は、食品加工班で作ったものを食べていただく機会があった。今後も、生徒の得意とする活動や普段の授業で学習していることを取り上げ、自信をもって活躍できる場を多くしていきたい。来年度もお互いの行事や授業等を踏まえて、よりよい交流の機会を探していきたい。

IV 地域における交流活動（地域交流）

1 目的

地域の人々とふれあったり、学校を取り巻く環境を体感したりすることにより、地域社会の中で共に豊かに生きていく力を身に付ける。

(1) 小学部

①地域の方々とのあいさつや交流会で生活経験を広げ、様々な人と楽しくやりとりを行うことができるようにする。

②地域の方々と身近な食材や季節の食べ物を扱うことで、食生活の経験を拡大させる。

(2) 中学部

①地域の方々と活動を共にし、ふれあいを楽しみ、お互いに理解を深め合う。

②生活経験や対人関係を広げ、地域社会の中で生きていく力の基礎をつくる。

(3) 高等部

①地域の方々と共に活動する中で、自分たちが人のためになっているという意識をもち、奉仕の心を育てる。

②地域の方々とのふれあいを通し、お互いを理解する。

2 交流先

学 部	地域交流先
小学部	里垣地区社会福祉協議会、里垣地区食生活改善推進委員会 民生児童委員協議会
中学部	中澤葡萄園、松永葡萄園
高等部	里垣地区各自治会、大正琴サークル「つみき会」
全 校	ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ

3 実施計画

学部	時期	地域交流先	実施学年	指導区分	内容
小	5月2日 7月3日	食生活改善推進委員会	3年	生活単元学習	トマトの苗植え 収穫
小	11月28日	民生児童委員協議会 里垣地区社会福祉協議会	1、2年	生活単元学習	焼き芋会
中	6月23日 9月25日 12月1日	中澤葡萄園 松永葡萄園	2年	生活単元学習	葡萄園作業体験
高	11月1日	里垣地区自治体	1年	特別活動	地域清掃
	12月4日	大正琴サークル 「つみき会」	1年	音楽	大正琴演奏鑑賞等
全校	6月22日	ヴァンフォーレ 山梨スポーツクラブ	各学部	特別活動	全体会、各学年での交流

4 地域交流の様子

(1) 小学部

①里垣地区食生活改善推進委員会との交流

小学部3年生の児童が5月と7月に里垣地区食生活推進委員会の方々と地域交流を行った。1回目の交流ではミニトマトの苗植えと看板作りを行った。地域の方と一緒に苗を持ったり、声を掛け合ったりしながら楽しく活動することができ、トマトの生長を楽しみにする様子が見られた。2回目の交流ではトマト祭りとして、絵本の読み聞かせやミニトマトすくいを行った。ミニトマトすくいでは、きれいなミニトマトの中に、割れているミニトマトや緑のミニトマトも混ぜておくと、どの児童も赤いきれいなミニトマトに狙いを定め、お玉ですくうことができた。また、収穫したミニトマトを地域の方に持ち帰っていただくため、ラッピングを行った。交流した方々を想像しながら、カードにメッセージを書く児童が多くいた。



②低学年：焼き芋会

11月28日(火)に地域の方9名と小学部低学年の児童が交流を行った。朝早くから来校してくださり、火の準備をしていただいた。児童が火の中に芋を入れる際には、安全に活動できるように、近くで優しく見守ってくださった。芋を焼く間は、地域の方と一緒にゲームをしたり遊具で遊んだりして楽しい時間を過ごすことができた。出来上がった焼き芋は、地域の方と一緒に食べることができ、美味しさを共有することができた。昨年の交流会は、距離を取りながらの交流であったが、今年度の交流では地域の方を近くで感じることができ、より関わりを深めることができた。また、焼き芋会で使用した薪は、地域の葡萄園からいただいたものであり、運搬も手伝っていただき大変ありがたかった。



(2) 中学部（葡萄園との交流）

2年生が2グループに分かれ、松永葡萄園と中澤葡萄園に伺い、交流を行った。3回訪問させていただき、ぶどうの栽培体験を通じて交流を行った。傘かけ、収穫、収穫後の枝拾いの体験を重ね、ぶどうがどのように栽培されているのか、美味しいぶどうを育てるために葡萄園の方々がどのような思いで栽培をしているのかを学んだ。複数回の体験により、山梨や地域の名産であるぶどうの栽培過程を知ると共に、農家の方や自然の恵みに感謝する機会になった。葡萄園の方々から優しく言葉を掛けていただいたことで、生徒も積極的にかかわりをもつことができ、笑顔の多い交流となった。



(3) 高等部

①地域清掃

1年生が学校周辺を中心に清掃をした。日頃お世話になっている地域に感謝の気持ちが伝えられるように、生徒達は一生懸命に取り組んでいた。近くを通った地域の方と挨拶を交わしながらの活動となった。地域清掃を通して、地域の方々とコミュニケーションをとることができただけでなく、地域のために自分たちも役に立てたことを実感することができた。



②大正琴サークル「つみき会」

大正琴サークル「つみき会」と交流を行った。校歌『フレンズ』や『ビリーブ』など生徒に馴染みのある曲を演奏していただいた。演奏を聴きながら手を叩いたり、踊ったりして楽しむことができた。演奏を聴くだけでなく、一人ずつ大正琴に触れる機会を設けていただいた。初めて大正琴に触れる生徒も多かったが、丁寧に教えてもらい、音を出したり曲を弾いたりして楽しむことができた。



③校歌『フレンズ』

校歌『フレンズ』は、作曲家の杉本竜一氏に作詞・作曲をしていただいた曲である。杉本氏の「多くの方々にこの曲を知ってもらいたい。」という考えから、希望する方にはCDや楽譜を差し上げるようにしている。今年度も希望者からの問い合わせがあり、CDや楽譜の郵送を行った。今年度は、大正琴コンサートの際にも演奏してもらい、学校間交流や地域交流など、様々な場面で歌うことができた。この曲は、本校の児童生徒のありのままの姿の美しさや心の素直さを表現した曲で、聴く人に優しさを伝えてくれている。また、歌詞を手話で表現でき、本校の児童生徒も曲が流れると自然に身体を揺らしたり手を動かしたりする姿が見られる。今後も自分達の校歌を大切に歌っていくと共に、多くの方々に聴いていただけるよう、校歌『フレンズ』での交流を広げていきたい。



(4) 全体

ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブとの交流

今年度は、学校全体でヴァンフォーレ山梨スポーツクラブとの交流会を3年ぶりに実施することができた。開校当初から継続して交流を重ねてきており、児童生徒も毎年選手との交流を楽しみにしている。近年は直接交流できずにいたり、小規模の交流であったりしたが、今年度は学校全体の交流ということで、児童生徒は交流日を楽しみにしていた。当日は、ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブからは9名の選手とヴァン君、フォーレちゃんに來校していただき、各学年で実態に合った交流を行った。普段テレビで見る憧れの選手たちとパス回しやサイン会などを通して密接に交流をすることで、児童生徒の輝く笑顔が見られ、とても有意義な時間を過ごすことができた。ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブの選手とかえで支援学校の児童生徒が互いにパワーを送りあう良い交流会となった。



5 成果と課題

(1) 小学部

近年、感染症予防のため地域の方々との交流が少なかったが、今年度は多くの地域の方に来校していただくことができた。また、食生活改善推進員の方々との交流行事も再開することができた。低学年で実施した焼き芋会は、火を使う活動であり安全面への配慮を要するが、地域の方々に手伝っていただくことで、安全に実施することができた。地域の方々には、ゲームにも積極的に参加していただき、児童と一緒に楽しんでいただくことができた。地域の方々の力をお借りし、季節を味わえる貴重な学習の場となった。食生活改善推進員の方々との交流では、当初は苗植えのみの交流を計画していたが、栽培や食材を使った活動にも参加していただくことで、地域の方々とのかかわりをより深められることができた。感染症予防のため、調理活動ではない形での交流会であったが、食を題材としたゲーム的な活動を通して、地域の方々と関わることができ、児童の実態にも合っていたと考える。地域の方からいろいろと教えていただきながら活動することは、人との関わりを広げることや普段なかなかできないことを経験できる場となった。地域の方々は児童の成長や一緒に時間を過ごすことを楽しみにしてくださっている。今後も児童の実態に沿ってねらいや内容などを検討し、事前の打ち合わせをしっかりと行いながら、計画的に実施できるように考えていきたい。

(2) 中学部

実施にあたっては、昨年度の反省を生かしながら、今年度の生徒の実態や学習のねらいを考慮して計画を立てた。地域の方々の協力を得て、スムーズに交流を行うことができた。地域の方々が生徒の実態に配慮をし、関わり方を工夫してくださったことで、自分から声をかけることが難しい生徒も関わり合える場面が多く見られた。また、お土産や試食のぶどうも沢山いただき、生徒はとても喜んでいた。大変ありがたかった。

(3) 高等部

地域清掃は、数年前から本校生徒のみでの活動となっている。清掃中に通りかかった地域の方々と挨拶を交わしたり、労いの言葉をいただいたりしており、生徒達は地域の中で役立てているという達成感を味わうことができているが、今後は、以前のように地域の方を招いての活動を再開するかの検討が必要である。大正琴サークルの方々との交流は、数年ぶりに直接交流を実施することができた。生徒たちが普段なかなか触れることができない楽器のため、興味深く鑑賞したり、地域の方の指導のもと、直接大正琴に触れたり演奏したりすることができ、貴重な体験をすることができた。また、事前に邦楽で使用される楽器について授業で学ぶことで、より実りのある交流になった。

V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

1 目的

居住する地域の様々な人々とふれあうことにより、生涯を通じて地域と結び付いていく基盤をつくるとともに、地域の中で共に生きていくことができる力を培う。

2 実施条項

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部・2年	笛吹市立富士見小学校	2	1回目は、久しぶりに会う友達に少し緊張したようで、休み時間に友達が遊ぶ様子を母と一緒に見学した。2回目は、体育の時間に交流を行った。活動内容が、本児の取り組んだことのあるマット運動であったため、活動内容を理解して、友達と一緒に参加することができた。交流後には、「マット運動頑張った」という声が聞かれ、活動に参加できたことが自信につながった様子が見られた。

小学部・2年	甲府市立東小学校	1	初めての交流であった。体育の授業に参加し、『台風の日』や『猛獣狩り』の活動を行った。『台風の日』では、友達とペアになり、友達とペースを合わせて活動することができた。『猛獣狩り』では、簡単な振りを楽しんだり、友達が声を掛けてくれると受け入れてグループになることができた。
小学部・3年	甲府市立国母小学校	1	昨年度に引き続き2年目の交流であった。体育の授業に参加した。『台風の日』では、ペアの友達と一緒に楽しく走ることができた。『玉入れ』では、本児の好きな曲が流れたことで意欲が増し、進んで玉を入れる様子が見られた。1位になると、とても喜んでいて、友達のサポートもあり、昨年度よりも友達とかかわりを深めながら交流をすることができた。
小学部・3年	甲州市立塩山南小学校	1	2回目の交流であった。終始穏やかで温かい雰囲気の中で参加することができた。特別活動の時間に交流先の児童が企画した新聞紙遊びを行った。新聞紙を丸めたり、投げたりして、みんなと一緒に活動を楽しむことができた。
小学部・4年	甲府市立中道北小学校	2	2年目の交流になり、本人も楽しみにしていた。久しぶりの交流ではじめは緊張していたが、自己紹介をすることができた。『英語の歌』を歌ったり「What time is it?」の単元でチームに分かれてクイズを行ったりした。休み時間には、4年生の友達と一緒に体育館へ行き、サッカーボールでのあてゲームを楽しんだ。
小学部・5年	笛吹市立一宮西小学校	2	昨年度に引き続き、2回目の交流であった。交流したクラスに昨年度の交流で仲良くなった児童がいたこともあり、スムーズに活動に参加することができた。音楽では、相手校の児童と一緒にリズムに合わせてじゃんけん列車をして楽しんだ。休み時間には、クラスの児童に声を掛けられ一緒に体育館に行き、本児が好きな鬼ごっこをして遊ぶことができた。

小学部・6年	笛吹市立一宮西小学校	1	3年ぶりの実施だった。特別支援学級で国語の授業に参加することができた。国語は「いつ・どこで・だれが・なにをした」を題材としたゲームに取り組み、自分なりに文章を考えて書いたり、自信をもって発表したりすることができた。休み時間は、大勢の友達と鬼ごっこをし、「鬼は誰がやる？」と声をかけたり、友達と笑顔で会話をしたりする様子が見られた。
中学部・2年	甲州市立勝沼中学校		交流を予定していたが、体調不良のため実施できなかった。

3 成果と課題

今年度の居住地校交流は、継続の児童6名、生徒1名に新規の児童1名を加え、計8名の実施となった。年度初めに居住地校と打ち合わせを行い、居住地校交流のねらいや意義、保護者の願いなどについて丁寧に確認したことで、交流を円滑に進めていくことができた。打ち合わせの際に個別の教育支援計画を活用することにより、本校児童生徒の実態や交流場面以外の全体的な目標についても共通確認することができ、児童生徒の理解が深まった。学習活動の検討や配慮事項など、必要に応じて事前に担任間で連絡をとりあうことで、より良い交流にむけ、計画をすることができたと考える。居住地校交流は、将来、児童が居住地で生活していくことを踏まえ、居住地の子供達や地域の方々に児童のことを理解してもらいたいという願いをもちながら実施している。地域との結びつきを深めながら育ててほしいという保護者の願いを学校も支援し、来年度も居住地校交流の機会を大切にしていきたいと考える。

I 学校概要

1 学校の概要

学校名	山梨県立高等支援学校桃花台学園
所在地	〒406-002 山梨県笛吹市石和町中川 1400 番地
電話番号	055-263-7760
校長名	望月 公
交流及び共同学習主任名	久保島 真奈美

2 学校教育目標

生徒に誇りと自信をもたせ、他者への思いやりや協調性を培うとともに、職業教育を通じて、意欲的に社会参加する力を養成する。

II 交流及び共同学習推進会議の経過

1 交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所 属・職 名	備 考
1	笛吹市石和町中川地区・区長	会長
2	山梨県立笛吹高等学校・校長	副会長
3	笛吹市立石和東小学校・校長	
4	山梨県立笛吹高等学校・生徒会主任	
5	山梨県立高等支援学校桃花台学園・校長	
6	山梨県立高等支援学校桃花台学園・教頭	
7	山梨県立高等支援学校桃花台学園・主幹教諭	
8	山梨県立高等支援学校桃花台学園・総務部交流教育担当	

2 経過

開催時期	内 容
5月30日(火)	第1回交流及び共同学習推進会議 委員委嘱状及び任命書の交付、推進事業の説明、運営要項の説明、本年度の活動計画の説明、意見交換
2月28日(水)	第2回交流及び共同学習推進会議 本年度の活動状況、次年度への課題、意見交換

Ⅲ 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

1 目的

- (1) 同世代の生徒及び異世代の児童との交流を通して、互いを理解し、助け合いや支え合いをして生きていくことの大切さを学ぶ。
- (2) 間接的な交流と直接交流を通して、同世代の生徒及び異世代の児童の活動の様子を見たり触れ合ったりするなかで、共に学び、高め合う。

2 提携校

交流及び共同学習提携校	
山梨県立笛吹高等学校	
笛吹市立石和東小学校	

3 実施状況

月日	提携校	実施学年等	教科等区分	実施内容
5月26日（金）	石和東小学校	農業生産コース	専門教科	（小1）石和東小学校にて、サツマイモの苗植え
9月8日（金）		農業生産コース 食品加工コース		（小2）本校にて、桃花ダイスキマーケットの案内・販売・接客
12月15日（金）		環境メンテナンスコース		（小6）本校にて、花苗の植栽・清掃
6月28（水） ～30日（金）	笛吹高等学校	美術部	特別活動	笛吹高校にて、笛吹祭での作品交流
6月29日（木）		生徒会役員 1、2年学級委員長	特別活動	笛吹高校にて、笛吹祭の見学
7月26日（水）		合唱部	特別活動	本校にて、音楽活動の交流
9月15（金） 16日（土）		美術部	特別活動	本校にて、学園祭での作品交流
9月29日（金）	やまびこ支援学校	食品加工コース	専門教科	リモートによる喫茶店営業の交流

4 学校間交流の様子

(1) 石和東小学校との交流



サツマイモの苗植えの説明



サツマイモの苗植え



桃花ダイスキマーケット



桃花ダイスキマーケット



窓ふき清掃

① サツマイモの定植

農業生産コース2年生12人が、石和東小学校へ出向き、1年生27人にサツマイモの定植を教えるという交流を行った。本校の生徒は、どのように伝えればわかりやすいかを考えて準備や練習をし、当日は話し方やかわり方を工夫して、畝立てから定植まで一緒に作業ができた。

石和東小1年生が説明を一生懸命に聞く姿や自分たちを頼りにする姿に直接触れることで、自己有用感を感じられた。また、工夫して作業の準備をしたことで1年生が正しく理解して上手に定植ができ、充実感や達成感を味わうことができた。

石和東小の1年生からは、絵と文で書いた感想や収穫したサツマイモに関する手紙を送ってもらった。生徒は、自分たちの関わりに対する反応を知ることができ、自分自身を振り返る機会になった。また、多くの感謝の言葉を受け取ることで、充実感を味わうことができた。

② 買い物学習

石和東小学校2年生27人が、本校の桃花ダイスキマーケットに合わせて来校し買い物体験をした。サツマイモの定植で交流をした本校農業生産コースの2年生が中心となり、会場準備をし、児童の案内、販売、接客を通じておもてなしを実践した。

あらかじめ児童から注文をとり、パンや焼き菓子、野菜を確実に購入できるよう準備をした。また、小学生が買いやすいサイズや価格にした商品も用意した。

本校生徒は、小さなお客様への接客の仕方を工夫し、児童の視線やペースに合わせて、優しく対応し、関わりを楽しみながら交流することができた。

生徒は自分たちの作った商品が喜ばれる様子を見て、やりがいを感じる事ができた。

児童が商品について家族に話をすることで、本校の取組の様子が自然に地域に広がり、地域に根ざした学校となる基礎となっている。

③ 花苗の植栽、清掃

石和東小学校6年生23人が、植栽及び窓ふき体験を行った。



プランターへの植栽

各グループに本校環境メンテナンスコースの生徒が加わり、窓清掃の実技や、花苗をプランターに寄せ植えする方法を伝えた。

本校生徒は、6年生に活動の手順や楽しさなどをどのように教えたらいいいのか、何度も悩んだり考えたりしながら、交流会に臨んだ。その結果、児童の興味を引く取り組みややりとりを行うことができた。スクイージーできれいに窓ふきができた喜びが伝わる感想等により、本校生徒は相手に合わせたやり方で教えることの大切さを学ぶことができた。

(2) 笛吹高等学校との交流



美術部作品展示



笛吹高校生徒会長が案内

① 笛吹祭での交流

4年ぶりに笛吹祭に本校生徒会役員や学級委員長が参加し、同年代の生徒のエネルギッシュな舞台を食い入るように見つめていた。「自分たちも同じように舞台発表をしたい」「9月に行われる本校の学園祭でもやってみたい」等意欲的な感想が聞かれた。展示見学は、笛吹高校の生徒会長に案内してもらい、交流を深めることができた。美術部は、今年度も作品展示という形で参加させていただけたことで、来場した方々に本校美術部の作品を観てもらうことができた。感想ノートには、来場した方々から「優しい色合い」「立体作品がかわいくて工夫されている」といったコメントを寄せていただいた。

② 部活動での交流



合唱部とフォークソング部との交流

4年ぶりに本校合唱部が笛吹高等学校フォークソング部と学校間交流を行った。まず、互いに日々の練習成果を発表し合った。その後、チーム対決イントロクイズをしたり、笛吹高校の生徒さんのギター伴奏に合わせて、『怪獣の花唄』を歌ったりして交流を深めた。同世代の高校生が場を共有し、音楽を通して交流ができ、とても有意義な時間となった。

また、本校の学園祭に笛吹高校美術部の作品を展示し、見学した生徒が感想をノートに書き、笛吹高校美術部に送った。美術部は学園祭での作品による相互交流ができ、お互いの作品制作に大きな刺激となった。

(3) その他



やまびこ支援学校との交流



①やまびこ支援学校との交流

やまびこ支援学校高等部サービス班と本校食品加工コースカフェ班が、オンラインにより交流を行った。喫茶運営について紹介し合い、実際の接客の様子を見学した後、お互いに質問をし合って学び合うことができた。また、本校の焼き菓子をやまびこ支援学校のカフェに提供する契約を結び、定期的に製品を納品する取組もスタートした。互いの理解を深める機会として今後の交流についても検討をしていきたい。

5 成果と課題

石和東小学校との交流は、予定していた交流をすべて実施することができた。サツマイモの定植と花苗の植栽・清掃の交流に向け、本校生徒はわかりやすい教え方や関わり方の工夫を事前に考え、準備を重ねた。悩んだり考えたりして準備をすることで、「教える」という体験につながった。また、石和東小学校の児童も、専門的知識や技術を学んだり、地域にある特別支援学校を身近に感じたりする機会になったと感じている。本校生徒との交流をきっかけに、児童から家庭、家庭から地域へと、本校の様子が伝わり、理解につながっていくと考える。小学校との交流を通して、学校間の交流にとどまらず、本校が地域と共に歩む学校として少しずつ認知されていくことを期待している。

笛吹高等学校との交流では、フォークソング部との交流、笛吹祭への見学、美術部の作品交流という3つの活動を実施することができた。特に、フォークソング部との交流は、課外活動ならではの自由な雰囲気の中、お互いの好きなことを通してつながれたことで、授業とは異なる心の触れ合いができた。部活動を通じた交流は、同じことを目指して頑張っている同世代の仲間がいるということを双方の生徒が実感できる機会であり、将来の共生社会へつながる営みであると感じている。

IV 地域における交流活動（地域交流）

1 目的

- (1) 地域の方々とともに活動するなかで、相互扶助の経験を通して協同の大切さを学ばせる。
- (2) 学校で学習した内容を、社会の中で活用する経験を通してより確かな力に高める。
- (3) 地域の人々とのふれあいを通して、卒業後の就労に必要なコミュニケーション能力を実践的に育成する。

2 交流先

地域交流先
笛吹市石和町中川地区

3 実施状況

月日	地域交流先	実施学年	教科等区分	実施内容
5月～2月 (7回実施)	中川地区	2学年・ 3学年	専門教科	桃花ダイスキマーケット
5月～2月 (8回実施)	中川地区	広報委員会	特別活動	桃花ダイスキマーケット 告知放送
6月28日(水) 6月29日(木)	中川地区 藤巻農園	1学年	専門教科	ブドウのかさかけ
11月3日(金)	中川地区	美術部	特別活動	中川地区公民館祭での作 品交流
11月18日(土)	中川地区	全校	専門教科	秋の大収穫祭
12月4日(月)	中川地区	1学年	専門教科	公民館内及び周辺の清掃、 植栽作業
1月30日(火)	中川地区 けやきの会	食品加工コース	専門教科	公民館での茶話会

4 地域交流の様子

(1)「桃花ダイスキマーケット」



野菜の販売



桃カフェ

桃花ダイスキマーケットを5月から2月にかけて7回行い、また、11月には桃花ダイスキマーケット「秋の大収穫祭」を開催した。

来場者の多くが学校周辺の地域の方々であり、回覧板でマーケットのチラシを配付したり、前日に広報委員会の生徒が中川地区に放送したりして地域の方に告知をした。マーケットも本校も地域の方に周知されてきたように感じている。生徒が「以前も来てくださった方」と認識できるような常連様も多くなっている。また、知り合いの方に紹介されて初めて来場した方もおり、今後も来場者は増えていくことが期待される。

本校の生徒にも「全校でお客様をおもてなしする日」という意識が定着し、校内整備や立ち振る舞い含め、全校でマーケットに向けて準備をすることができた。

生徒が丁寧に育てた野菜や、工夫して製造したパン、焼き菓子を地域の方々に購入していただくことを通して、生徒の学習の成果を知ってもらう良い機会となった。毎回お客様アンケートを実施し、感想をいただいている。お客様の言葉が生徒達の励みとなっており、より良いマーケットにしていこうという意識が育っている。



パンの販売



桃花ダイスキマーケット「秋の大収穫祭」



(2) ブドウのかさかけ



ブドウのかさかけ



ブドウのかさかけ

1年生の農業生産の授業において、本校農場の隣にある藤巻農園でブドウのかさかけ実習を実施した。農園の方にブドウにかさかける意味やその方法を教えていただき、体験した。手ほどきを受けたり、ブドウ栽培に関する質問をしたり等やりとりをしながら作業を行った。

地域の世代の違う方と関わり、労働に対する意識や心構え等についてお話を聞くことで、知識だけではなく、精神的に得るものが多かった。

ブドウの収穫時期には、生徒達がかさかけをしたブドウを藤巻様が本校に届けてくださり、自分たちの作業の結果を知ることができた。藤巻様には、生徒の感想やお礼の手紙をお渡しした。感想の中には、勤労の大変さや、苦労したからこそその充実感、達成感について触れているものが多かった。



中川区文化祭

(3) 中川区文化祭への作品展示

中川地区文化祭では、今年度も公民館の一室を借り、美術部の作品を展示させていただいた。会場に置いた感想ノートには温かい励ましの言葉が書かれており、生徒の励みとなっている。



公民館清掃

(4) 公民館清掃

中川地区にある公民館周辺の清掃を1年生の環境メンテナンズの授業で実施した。

授業で学んだ清掃に関する知識や技術を生かし、地域の人々と一緒に館内外の清掃に取り組んだ。

また、プランターに花を植栽して設置をした。区長さんからは、「公民館がきれいになりありがたい」という言葉をかけていただいた。生徒達は、温かな言葉に励まされ、自分の活動が地域や社会に役立つということを実感することができた。



植栽したプランター



「けやきの会」との交流

(5) 老人クラブ「けやきの会」との交流

4年ぶりに中川区の老人クラブと交流会を実施した。食品加工コースの生徒が中川区公民館に伺い、茶話会をした。本校の学習の様子を説明をする際には、けやきの会の方々が優しく耳を傾けてくださり、やりとりをしながら和やかな雰囲気の中で会をもつことができた。生徒の良いところをたくさんほめていただき、共に楽しい時間を過ごすことができた。

5 成果と課題

地域の公民館の清掃やけやきの会との交流で地域の方々とともに作業や茶話会をする中で、地域とつながり、共に生活しているということを実感することができた。また、自分も誰かの役に立つということを感じることで自己有用感を高められる機会となっている。

今後も、本校や障害児教育への理解がさらに促進されるように、交流内容を工夫していきたい。地域交流により、さらなる地域に根ざした学校となれるよう努力していきたい。

I 学校概要

1 学校の概要

学校名	山梨県立特別支援学校うぐいすの杜学園
所在地	〒400-0851 甲府市住吉2丁目1番17号
電話番号	055-288-1628
校長名	中村 知佳
交流及び共同学習主任名	横山 明子

2 学校教育目標

一人一人の心に寄り添った学習活動を通して、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図り、自信をもって様々な事柄に意欲的に取り組む態度を養い、社会の中で主体的に生きていくために必要な「生きる力」を育む。

II 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

*本校の児童生徒の実態から、現在のところ学校間交流は実施していない。

III 地域における交流活動（地域交流）

1 目的

・緑化活動や作品展示などの地域の人々とふれあう機会から、社会参加の意識を育てる。

2 交流先

学部	地域交流先
小学部	甲府伊勢四郵便局（甲府市伊勢）
中学部	同上

3 実施状況

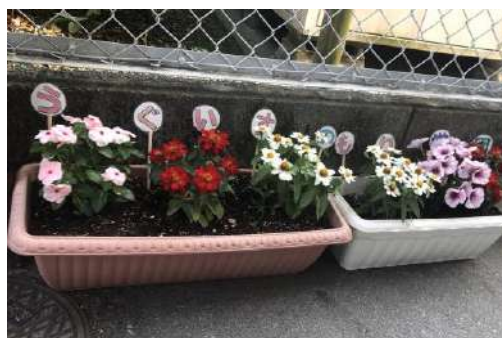
時期	地域交流先	実施学年	指導区分	実施内容
5月15日	甲府伊勢四郵便局	全学年	特別活動	花のプランターの贈呈
12月4日	甲府市住吉地区	全学年	特別活動	緑化活動 (花いっぱい運動)
1月19日	甲府伊勢四郵便局	全学年	特別活動	しおりの贈呈
通年 (6月～)	甲府伊勢四郵便局	全学年	特別活動	美術作品の展示

4 地域交流の様子

(1) 甲府伊勢四郵便局への花のプランターの贈呈

1学期は、小中学部合同で花の寄せ植えプランターを作り、学園近くの伊勢四郵便局へ寄贈した。郵便局へ来る地域の方々の目を楽しませられるように、色の組み合わせや花の

配置を考えながら作業を行った。郵便局の局長さんより、「華やかになって嬉しい」というお礼の言葉を頂いた。



(2) 植栽活動

2学期は花いっぱい運動として、チューリップの球根を本校の外の道からも見える花壇に植えたり、学校の玄関前に飾れるようにプランターに植えたりした。学部や学年の垣根を越えて、こころのサポートプラザや学校をきれいにするために協力して作業を行うことが出来た。



(3) 地域郵便局での作品展示・地域だより・ホームページ

ホームページで活動等の写真を定期的に掲載したり、甲府伊勢四郵便局に各学部の作品展示をさせて頂いたりして、本校の情報を地域へ発信した。また、5月、7月、1月と地域だよりを各240部印刷・発行し、地域の方々に本校の活動内容を知っていただく機会を作った。

5 成果と課題

本校は児童生徒の実態や個人情報への配慮から、直接の交流は現在のところ実施していない状況がある。今年度は緑化活動や、近くの郵便局への花のプランター贈呈や美術作品の展示等を通して、地域を知ることや近所の方々と間接的でも触れ合う機会ができればと考え、計画・実施した。今後も、児童生徒の状況に合わせた触れ合いの機会をもつとともに、ホームページ、作品展示、地域だよりを通して地域とつながりを広げ、さらなる交流の可能性を探っていきたい。

IV 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

*本校の児童生徒の実態から、現在のところ居住地交流は実施していない。

I 学校概要

1 学校の概要

学校名	山梨大学教育学部附属特別支援学校
所在地	〒400-0006 甲府市天神町 17-35
電話番号	055-220-8282
校長名	井坂 健一郎
交流及び共同学習主任名	大脇 知恵

2 学校教育目標

「自ら考え、行動し、まわりの人と助け合いながら生き生きと生活できるたくましい心と体を養う」

- ・心身を鍛え、健康を維持し、つよい心と体を持つ。
- ・身のまわりのことが自分でできる。
- ・人とのかかわりが持て、集団に参加し、仲間と協力できる。
- ・自ら考え、持てる力を精いっぱい出して行動できる。
- ・幅広い視野を持ち、心豊かで文化的な生活を営む。

II 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

1 目的

(1) 小学部

- ① 同世代の友達と関わり、一緒に様々な活動に取り組もうとする態度を養う。
- ② とともに活動することを通して、自分なりに表現し、相手と自分から関わろうとする態度を養う。

(2) 中学部

- ① 同世代の生徒と交わり、共に活動する中で、互いに理解し合う。
- ② 様々な活動を通して、コミュニケーション能力を身につけながら生活経験の拡大を図る。

(3) 高等部

- ① 同世代の生徒と関わり、交流することで、互いに理解を深める。
- ② 文化的な交流及び共同学習を通して、豊かな心を育てる。

2 提携校

学 部	交流及び共同学習提携校
小学部	山梨大学教育学部附属小学校
中学部	山梨大学教育学部附属中学校、甲府市立北東中学校
高等部	日本航空高等学校

3 実施状況

学部	月日	提携校	実施学年	指導区分	内容
小	5月	山梨大学教育学部 附属小学校 (4年生)	全学年	生活単元 学習	校外学習として附属小へ行き、対面形式で「よろしくねの会」を行った。
	6月	山梨大学教育学部 附属小学校 (4年生)	全学年	生活単元 学習	本校の体育館で「なかよくなるうねの会」を行い、ダンスとボッチャのゲームを行った。
	11月	山梨大学教育学部 附属小学校 (4年生)	全学年	生活単元 学習	附属小の体育館に行き交流会を行った。本校1名の児童と附属小2名のグループで、9つの遊びのブースを回った。また、日頃取り組んでいる合唱や合奏を発表し合うこともできた。
中	6月	甲府市立北東中学校 特別支援学級	全学年	保健体育	北東中生徒が来校し、自己紹介、学校紹介を行った後、体育館でカローリングを行った。
	10月	山梨大学教育学部 附属中学校	全学年	総合的な 学習の時間	本校学園祭「きりの子まつり」における舞台看板を手紙で依頼した。いただいた看板から附属中生徒の夢を知ることができた。
		甲府市立北東中学校	全学年	総合的な 学習の時間	生徒会より、「きりの子まつり」への応援動画をいただき、鑑賞した。
11月	山梨大学教育学部 附属中学校 甲府市立北東中学校	全学年	総合的な 学習の時間	きりの子まつりの劇発表の紹介動画を作成し、手紙とともに2校に活動を紹介した。	
高	5月	日本航空高等学校	全学年	音楽科	和太鼓の生演奏を聴き、バチの持ち方や構え方など、演奏のアドバイスをもらった。

4 学校間交流の様子

(1) 小学部

5月に、小学部の校外学習「あるいていこう」で附属小の低学年校庭へ伺った。学校間交流の始まりとして、附属小の4年生児童と「よろしくねの会」を行った。感染症予防対策として、附属小学校の4年生全児童と本校の小学部全児童とで一定の距離をとり、対面形式で会を進めた。それぞれの学校の代表が挨拶をした。本校からは、高学年（5・6年生）児童が、附属小児童に「よろしくね」の文字付きの団扇を見せながら挨拶をした。また、ハイタッチをして近い距離で触れ合う場面を設定することもできた。

6月には2回目の学校間交流として、生活単元学習「こうりゅうをしよう」を設定した。本校の体育館に附属小の4年生を招き「なかよくなろうねの会」を開き、対面形式による直接交流を行った。感染症予防対策として、附属小学校の4年生に1クラスごと（30名程度）時間差で来校してもらい、最初に小学部の教室の様子を見学してもらった後、体育館で一緒に活動するという形をとった。「なかよくなろうねの会」は、始めの会、ダンス、ポッチャ、終わりの会を行った。ダンスは本校児童が好きな「めっちゃ元気体操」「パプリカ」「ゴリラッパンダ」の3曲で、限られた時間ではあったが楽しい活動となった。

11月には初めて3回目の学校間交流を設定し、校外学習「こうりゅうにいこう」を行った。附属小学校の体育館で、附属小が計画した9つの遊びの活動ブースを4年生の全児童と本校児童がグループに分かれて回り、楽しく活動することができた。本校の児童への関わり方や活動内容をどう工夫したら楽しめるかなど、様々な質問が附属小児童から寄せられた。後半は附属小が連合音楽会に向けて取り組んでいる学年合唱を聴いたり、本校がきりの子まつりで取り組んだ合奏や歌唱を披露したりと学習の成果を発表し合うこともできた。帰り際には附属小児童が用意してくれた花道を本校の児童が嬉しそうに手を振りながら「またね」と声をかけ合う場面もあった。附属小の4年生と本校児童が関わりながら活動できるようグループを編成して活動したり、お互いに普段から取り組んでいる活動を発表し合ったりする直接的な交流を通して、相互理解に繋げることができた。また、本校児童にとっては同世代の友達に関心をもつことができ、大きな成果となった。

2) 中学部

附属中学校とは、本校学園祭「きりの子まつり」の看板を通して交流を行った。手紙を書いて看板の作成依頼をし、附属中学校一年生に描いていただいた看板を舞台横の壁に掲示して舞台を彩ることができた。劇発表の事前に、いただいた看板を鑑賞した。劇のタイトルにあった「夢をさがそう」という言葉から、「サッカー選手」や「バレリーナ」など附属中学校の生徒のそれぞれの夢が表現された看板を見て、中学部の生徒はイラストを指さしたり、何の夢のイラストか考えたりして刺激を受けていた。事後にはきりの子まつりの様子を動画で紹介し交流を図ることができた。

甲府市立北東中学校とは感染症の状況を鑑みながら、6月に特別支援学級の生徒と体育の授業を通して、対面での交流を行うことができた。感染症予防に配慮しながら交流できるカラーリング（プラスチックの円盤を床に滑らせて的に当てるスポーツ）を実施することができた。学校間で協力し、応援することができ、有意義な時間となった。また、「きりの子まつり」に際して生徒会より北東中の文化祭の紹介動画をいただいた。各学年で鑑賞し、北

東中での取り組みに刺激を受ける生徒もいた。本校からもきりの子まつりの様子を動画で紹介し、交流を深めることができた。

(3) 高等部

日本航空高等学校太鼓隊との交流は、コロナ禍ではビデオレターなどで交流を行ってきたが、今年度は4年ぶりに対面で直接交流することができた。本校で7月に行うことになった「武田きりの子太鼓」の発表に向け、年度当初の忙しい時期にもかかわらず日程調整していただき、5月に実施することができた。日本航空高校太鼓隊による和太鼓の生演奏は素晴らしく、本校生徒はあまりの迫力に驚いたり、身を乗り出して楽しんだりしながら聴く生徒もいた。また、太鼓隊生徒が本校生徒の隣に立ち、一人一人に優しく対応しながら演奏のアドバイスをしてくれるなどして交流ができた。

5 成果と課題

(1) 小学部

今年度の学校間交流は、感染症対策を考慮しつつも、できるだけ対面形式による直接交流が実現できるように協議を重ねた。天候に左右されない交流場所として、また、密をできるだけ回避するために体育館という広い会場で活動して良かった。今年度は初めて3回目の交流会を計画し、感染症予防対策を行いながら実施することができた。特に3回目の交流会では、両校の児童が同じグループで9つの遊びのブースを体験することで直接触れ合い、言葉を交わしたり手をつないだりして、より深くお互いを知り合うことができた。附属小学校の児童からも質問やアイデアが積極的に出され、より主体的な学びの場となった。3回の交流会を終えた後、本校の学部主事と両校の交流担当で打ち合わせを行い、様々な成果と課題について共有することができた。

学校行事との兼ね合いを考慮して両校での打ち合わせを行い、現段階では、5月に附属小にて「よろしくねの会」、6月に本校にて今年度と同様の内容で交流を行い、まずはお互いを知ることから始めることを予定している。来年度も、附属小の4年生の参加人数の調整や短時間での実施、密にならない会場設定等を工夫しながら、できるかぎり対面による直接交流を実践していきたい。

(2) 中学部

北東中学校とは6月に、対面による保健体育での交流授業が実施できた。本校の授業で取り組んでいたカロリーングを行うことで、生徒同士の関わりをもつことができた。交流が始まる前は緊張していたが、ゲームを通して応援しあったり、笑顔が見られたりと、楽しい雰囲気活動することができた。

附属中学校とは、校舎改築の影響により、今年度も動画を通して間接的な交流活動を計画して実施した。例年行ってきた対面での「劇の背景画共同製作」や「きりの子まつりへの招待」など、今後、可能な状況になった際には再開したいと考えている。

(3) 高等部

4年ぶりに対面での交流を実施でき、日本航空高校太鼓隊の迫力ある生演奏を聴いたり、

バチの持ち方や演奏のアドバイスなどをもらったりすることができた。本校生徒達は7月の「武田きりの子太鼓」の発表会に向け、日本航空高校太鼓隊の所作を模倣し、バチの構え方を揃えることや掛け声は大きな声を出すことなどに精一杯励み、大きな刺激を受けることができた。全国的に活躍する同世代の仲間との交流を通して、学校の中では得られない幅広い視野での経験深めることができ、豊かでたくましい心を養うことが出来る交流であった。

Ⅲ 地域における交流活動（地域交流）

1 目的

(1) 小学部

- ① 地域の方々と関わり、一緒に様々な活動に取り組もうとする態度を養う。
- ② 共に活動することを通して、自分なりに表現し、相手と自分から関わろうとする態度を養う。

(2) 中学部

- ① 地域の方々と交わり、共に活動する中で、互いに理解し合う。
- ② 校内外での活動を通して、コミュニケーション能力を身につけながら生活経験の拡大を図る。

(3) 高等部

- ① 地域の方々とふれあいの中から、豊かな心を育てる。
- ② 協力し合い、共生することの大切さに気づく機会を作る。

2 交流先

学 部	地域交流先
小学部	甲府市新紺屋地区シニアクラブ
中学部	甲府市新紺屋地区シニアクラブ
高等部	甲府市新紺屋地区シニアクラブ

3 実施状況

学部	月日	地域交流先	実施学年	指導区分	内容
小	9月	甲府市新紺屋地区シニアクラブ連合会	全学年	生活単元学習	小学部全体で手遊び歌を行った後、学級ごとにボッチャゲームを行った。
中	1月	甲府市新紺屋地区シニアクラブ連合会	全学年	総合的な学習の時間	「きりの子まつり」での劇発表を動画で紹介し、コメントをもらったり、一緒に歌を歌ったりするなどの活動を通して交流を深めた。

高	11月	甲府市新紺屋地区 シニアクラブ連合会	全学年	生活単元 学習	ボッチャゲームを行ったり、全員で「ふるさと」を合唱したりしながら交流し、作業学習の製品をプレゼントした。
---	-----	-----------------------	-----	------------	--

4 地域交流の様子

(1) 小学部

甲府市新紺屋地区シニアクラブとの活動

今年度は、9月のわくわく集会にシニアクラブの方が8名参加してくださった。児童は、「敬老の日」の学習を行った後、シニアクラブの方々の自己紹介を聞いたり活動をしたりした。手遊び歌「グーチョキパーでなにつくろう」では、児童とシニアクラブの方が隣同士に座り、顔を見合ったり話しかけたりしながら一緒に手遊びを楽しむことができた。

ボッチャは、学級ごとに教室で活動した。1学級2、3名ずつシニアクラブの方が参加し、応援し合ったり拍手をし合ったりするなど、親密で温かい雰囲気での交流となった。会の終わりには、高学年が学級農園で育てたジャガイモをプレゼントして喜んで頂くことができた。シニアクラブの方々からは、「ぜひ来年も来たい」「毎年楽しみにしている」と感想を寄せていただいた。

(2) 中学部

甲府市新紺屋地区シニアクラブとの活動

今年度は対面による交流を実施することができた。総合的な学習の時間で生徒が撮影した「あこがれ動画」を見ていただき、シニアクラブの方々から生徒に温かなコメントをいただいた。生徒たちは達成感を感じると共に、自己理解を深めることもできた。また、シニアクラブの方々に美術の授業で作成したカレンダーと手紙を贈り、交流を深めることができた。

(3) 高等部

甲府市新紺屋地区シニアクラブとの活動

多目的ホールでシニアクラブの方10名とボッチャゲームを行った。最初はお互いに自己紹介をし、それぞれの趣味や特技を伝え合った。その後、2チームに分かれボッチャを通して交流した。各チームとも、作戦会議をしたり肩を組んで結団力を高めたり、高得点が出た時にはハイタッチをしたり励まし合ったりするなど、多くの関わりが見られた。後半は本校生徒が合唱を披露し、最後はシニアクラブの方々と「ふるさと」を共に歌って交流することができた。

5 成果と課題

(1) 小学部

ご高齢の方を学校に招く直接交流を計画したため、早めに連絡を取り合ったり、感染症対予防対策を行ったりすることで、8名のシニアクラブの方々と直接交流をすることができた。直前まで健康チェックやマスクの着用、活動時における手指の消毒、用具の消毒等を念入りに行い、安全に配慮しながら交流を実施できた。また、児童と直接関わ

っていただいたことで、地域の方々の本校児童に対する関心が高まったことも成果である。障害者スポーツであるボッチャを知っていただき、楽しむ機会にもなった。

例年は本校の「9月のわくわく集会」で季節の話として「敬老の日」について学び、地域の方々と一緒に活動する地域交流を行ってきた経過がある。コロナ禍では、感染症拡大防止という観点から『コロナ禍での励ましメッセージ』を地域のシニアクラブの方に送り、間接交流を行ったこともあったが、相手が見えない交流は小学部児童の実態として難しいという反省が出されていた。

今年度の取り組みを通し、改めて直接的な交流で得られるものの大きさを実感することができた。今後も、地域交流としての活動内容をさらに工夫しながら継続していきたい。

(2) 中学部

今年度は甲府市新紺屋地区のシニアクラブの方々を学校に招き、対面による交流を行うことができた。総合的な学習で生徒らが撮影した「あこがれ動画」を見ていただき、シニアクラブの方々から励ましや取り組みについての温かいコメントをいただくことができた。また、一緒に歌を歌うことで交流を深めることができた。

来年度も、感染症予防対策をしながら、やり取りや触れ合いができる内容や方法についての検討を早めに行い、有意義な交流を行っていきたい。

(3) 高等部

本校の特色ある「武田きりの子太鼓」や作業学習等について理解してもらいたいという目的で地域交流を行っている。現在、本校高等部では半数近くの生徒が自主通学している。地域の方々に学校のことや生徒達のことを知っていただくためにも、地域交流の意義を感じている。交流を終えシニアクラブの方々からは「若いパワーをもらい元気が出ました」との言葉をいただき、とても良い時間を過ごすことができた。

IV 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

1 目的

- (1) 同年代の小中学校の児童生徒と共に活動することにより、相互理解を深める。
- (2) 居住地域における交流及び共同学習を通し、日常的な交流場面への発展を導く。
- (3) 将来的な視点に立ち、より充実した人間関係の基盤を整える。

2 実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）の内容
小学部・5年	甲斐市立双葉東小学校	2	昨年に引き続き交流を行った。登校班に入って登校し、図工の授業や学級活動のレクリエーションを通して交流をした。

中学部・3年	北杜市立高根中学校	1	学園祭の準備期間に交流し、自己紹介をしたり、劇練習の様子を参観したりした。
--------	-----------	---	---------------------------------------

3 成果と課題

小学部の児童は、事前打ち合わせに本児、担任、保護者、副校長が参加した。学校の校舎の様子を確認したり交流先の先生と話したりするなど、本児が環境や人に慣れるため配慮して事前見学を行ったことで、安心した様子で当日を迎えることができた。本児の実態を伝えて共有することで児童と一緒に活動できる内容での交流となり、保護者もとても喜んでいました。

中学部の生徒は、学園祭の練習期間に訪問し、歌の練習に参加したり、競技の練習の様子を見たりして楽しみながら一緒に学習することができた。小学校時代に交流のあった同級生の友達とも再開し、交流を深めることもできた。

新型コロナウイルスへの対応が5類となった今年度は、2名の児童生徒が居住地校交流を希望し、2回の居住地校交流を実施することができ、貴重な経験となった。今後も、交流校と早めに連絡を取り合い、交流の時期や活動内容などについて検討し合い、取り組んでいきたい。



令和5年度交流及び共同学習実施報告書

山梨県教育委員会